ISSN 2189-3276

和光市デジタルミュージアム紀要

第１号

◇◇◇

目次

＜論稿＞
和光市指定文化財旧冨岡家住宅年代調査報告・・・・・・・・・・中尾七重・坂本稔・伊郷吉信　p1
和光市出土と見られる
「埼玉県立博物館」から返却された遺物について（覚書）・・・・・・・・・・・・鈴木一郎　p7
「地福寺日並記」に記録された和光市域の気象・災害・・・・・・・・・・・・・・・・中岡貴裕　p17

＜講演録＞
新倉地域の伝統行事　－冨岡家を中心として－　・・・・・・・・・・・・・講演者：冨岡　進　p47

◇◇◇

2015.3

和 光 市 教 育 委 員 会

序文

和光市では、郷土ゆかりの貴重な文化財などを、後世に伝え、活用するために、多くの方々から資料の寄託や寄附をいただき、これまで文化財保存庫に収蔵してきました。これらの収蔵物等を広く市民の皆様をはじめ多くの方々にご紹介し、本市の歴史や文化をご理解いただくツールとして、平成 24 年 4 月 1 日に、和光市デジタルミュージアム「れきたま」を Web 上に構築して配信を開始しました。

この度、さらに「れきたま」の充実を図るべく、「和光市デジタルミュージアム紀要」を創刊し、Web 上において公開することとしました。この紀要創刊の目的は、当市域の歴史や文化財について、担当者及び関係各位による日頃の研究成果を公表し、それらを蓄積していくことにあります。今回は第 1 号として、本市にゆかりの深い中尾氏・坂本氏・伊郷氏のお三方が実施されました和光市指定文化財旧冨岡家住宅の年代調査に基づく「和光市指定文化財旧冨岡家住宅年代調査報告」の玉稿、「旧冨岡家住宅」元所有者の冨岡 進氏による講演記録、さらに、当教育委員会文化財保護担当職員２名の論稿を掲載しました。冨岡氏のお話の年間行事は、現在でも市内で行われている民俗記録として、とても貴重なものであると思われます。

結びに、本紀要の刊行にあたり公私ともご多用の中、ご執筆をいただきましたお三方の先生をはじめ、数々のご教示・ご高配を賜りました関係各位に心より厚く御礼を申し上げますとともに、本紀要が、郷土和光の歴史と文化についてより一層の理解を深めていただく一助となりますことを切に願いまして、あいさつといたします。

平成 27 年 3 月
和光市教育委員会
教育長　大久保　昭男

和光市指定文化財旧冨岡家住宅年代調査報告

中尾七重・坂本 稔・伊郷吉信

図 1　旧冨岡家住宅　外観

1．調査の経緯

和光市指定旧冨岡家住宅は埼玉県和光市新倉に所在した古民家で、東京外郭環状道路建設のため昭和 63 年（1988）に解体され、解体部材が和光市に寄贈された。数度の建築調査を経て、平成 15 年（2003）に和光市指定有形文化財に指定された。平成 18 年に旧所在地近隣の下新倉に移築復原され、「新倉ふるさと民家園」として一般公開を開始した[1]。

旧冨岡住宅は解体部材の痕跡復原調査では 17 世紀後期に遡る古民家と推測されているが、具体的な建築年代は不明であった。

近年は木材を対象とした自然科学的な年代測定法が向上し，木造建造物の部材の測定から文化財建造物の年代調査に種々の成果をあげている。年輪年代法は部材最外年輪層を誤差なしに特定できる測定法であるが、その対象樹種はスギ・ヒノキ・コウヤマキ・ヒバと限定される。年輪年代法の対象外資料に用いられる放射性炭素（^{14}C）年代法は、測定誤差の大きさから従来は先史時代の発掘遺物に多く用いられていたが、近年その高精度化が図られ，歴史時代の遺物調査や現存建築部材の年代調査にも適用されつつある[2]。

民家研究に資するため、そして旧冨岡家住宅の建築年代を明らかにするために、平成 24 年度科学研究費補助金「文化財建造物の高精度放射性炭素年代測定」により、和光市指定有形文化財旧冨岡家住宅の年代調査を行った。

2．放射性炭素（^{14}C）年代法

^{14}C 年代法は、大気中の ^{14}C を取り込んだ生命体の生命活動終了後、放射壊変により生物遺体の ^{14}C 濃度が次第に減少することを利用した年代測定法で、シカゴ大学のウィラード・リビー（Willard Frank Libby）らによって 1949 年に実証された。この研究により、リビー氏は 1960 年にノーベル化学賞を受けている。

地球は恒常的に宇宙からの放射線（一次宇宙線）を浴びており、大気の上層で宇宙線から生成された二次宇宙線である中性子と大気中の窒素（^{14}N）が核反応して ^{14}C が生成され

る。^{14}C は生成後、酸素と結合し二酸化炭素 ($^{14}CO_2$) になり、炭素の安定同位体からなる二酸化炭素（$^{12}CO_2$、$^{13}CO_2$）と混合し大気中に拡散する。大気中の炭素全体における ^{14}C の割合、すなわち ^{14}C 濃度は地球上のどこでもほぼ一定とされ、^{12}C：^{13}C：^{14}C の存在比は、0.989：0.011：1.2×10^{-12} である。二酸化炭素が光合成によって植物に取り込まれる際にもこの比率は基本的に一定で、生きている間は食物連鎖により植物も動物も ^{14}C 濃度は一定である。ところが生物が死ぬと、遺体の ^{12}C や ^{13}C は安定同位体であるから変化しないが、^{14}C は放射壊変により 5,730 年を半減期としてベータ (β) 線を放出し元の窒素に戻ってゆく。^{14}C 年代法は生物遺体の ^{12}C・^{13}C と ^{14}C の比率すなわち ^{14}C 濃度を測定し、^{14}C の減少の程度を調べ、生体組織形成終了以降の時間経過を推定する方法である。

近年、加速器質量分析法（AMS：Accelerator Mass Spectrometry）による試料量の僅少化と測定精度の向上、暦年較正曲線を用いた暦年代への変換、および統計計算を用いて年輪試料の実年代を絞り込むウィグルマッチ法によって、放射性炭素年代測定は飛躍的に高精度化を実現している。この高精度年代測定法によって、歴史時代の遺物の年代測定が可能になり、歴史的建造物への応用が行われ始めた。

2-1　加速器質量分析法（AMS）

加速器質量分析法（AMS）は試料中の ^{14}C 濃度の計測の方法で、従来の液体シンチレーション計数装置などを用いた放射能測定法に比べると、試料量が僅かで、計測される ^{14}C の個数が多いため測定誤差は小さくなる。AMS の場合、測定に必要な試料量が建材では 10mg 程度と微量であるため、試料採取の難しい文化財建造物にも適用可能である。

2-2　暦年較正

大気中の ^{14}C 濃度は、^{14}C の生成に関わる宇宙線の強度が太陽活動や地球磁場変動に影響されるため、実際には絶えず変化している。そのため、^{14}C の半減期から計算された年代値（^{14}C 年代）を暦年代の判明した試料の ^{14}C 年代と比較して補正し、実年代に換算する。この操作が暦年較正である。

^{14}C 年代を実年代に変換するためのデータベースとして、樹木年輪やサンゴなどに基づく暦年較正曲線が作成されてきた。1986 年に最初の国際標準較正曲線およびデータベースが公表されて以降、1993 年、1998 年、2004 年と改定され、2009 年に IntCal09 が発表されている。IntCal09 はアイルランド・ドイツのオーク材、松材、アメリカのブリスルコーン松、セコイア杉、樅 (もみ) 材から得られた ^{14}C 年代に基づいている。

較正曲線が作成される以前の 1960 年ごろ、木越邦彦学習院大学教授が法隆寺五重塔や平等院鳳凰堂の ^{14}C 年代測定を行ったものの、建立年代と理論値（^{14}C 年代値）のズレが大きく、この段階では ^{14}C 年代法は歴史的建造物には適さないとの印象が強かった [3]。その後今日までに、暦年較正研究が進み、^{14}C 年代測定の精度は劇的に向上したのである。

2-3　ウィグルマッチ法

建築部材などの木材年輪に沿って複数の試料を測定し、得られた ^{14}C 年代値を較正曲線と対比すると、一致するデータのパターンを満たす条件は極めて限られ、高精度に年代を決定できる。この手法をウィグルマッチ法という。本事例は、ウィグルマッチ法のための解析プログラム RHC[4] を用いた。本調査のような数十年間隔の年輪試料を用いた較正ソフトによる年代の計算値は、用いる基準データ（暦年較正データベース）や計算法で一桁台は変わりうるので、細かな数字の違いを議論することは意味がない。

得られた暦年代は、それぞれの部材の現在残されている最外年輪層が形成された年代であり、建築部材の元の樹木の伐採年ではない。部材最外層年輪が木材のどの部分かによって伐採年との関係が求められる。

3．年代調査

2012 年 4 月 25 日に埼玉県和光市下新倉 2 丁目 33‐1 新倉ふるさと民家園の和光市指定文化財旧冨岡家住宅において試料採取を行った。和光市教育委員会生涯学習課文化財保護担当中岡貴裕主事、和光市文化財保護委員副島元子氏、和光市古民家愛好会スタッフの皆様のお立会いをいただき、（株）安田工務店安田徹也氏、武蔵大学聴講生稲垣悦子氏に試料採取および調査記録にご協力をいただいた。2002 ～ 2003 年に旧冨岡家解体部材を調査された協同組合伝統技法研究会の大平秀和氏のご助言ご指導の下、いずれも当初材と推定される部材を選択し、坂本・中尾・伊郷が試料採取を行った。

冨岡 1（「に 8」柱）はドマの独立柱、冨岡 2（「ね 3 ～ね 9」桁）は上手室上部の妻桁である。各部材寸法および年輪の計測記録・写真撮影を行った。冨岡 1 は露出していた柱天端の木口より 5 年輪試料 3 点および樹種同定の試料採取を行った。冨岡 2 はゲンカン上部に露出していた桁木口面より 5 年輪試料 2 点および樹種同定用試料を採取した。

採取した試料は、坂本が試料に付着した油分や煤などを有機溶媒中の超音波洗浄によって除去し、一般的な年代測定試料の洗浄処理である酸・アルカリ・酸（AAA）処理を行った。グラファイト化および AMS 測定を（株）パレオ・ラボに依頼した。

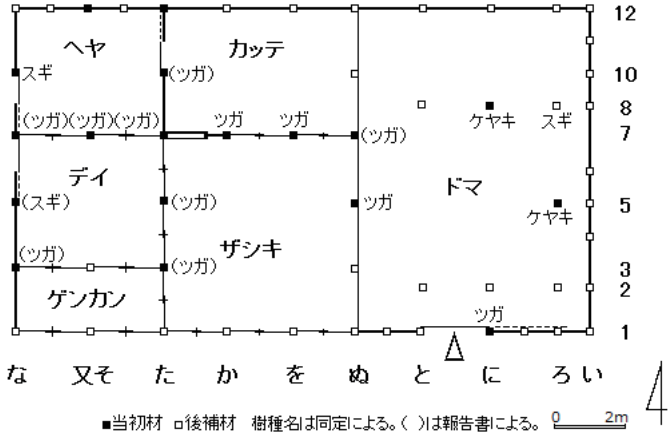


図 2-1　旧冨岡家　平面番付図

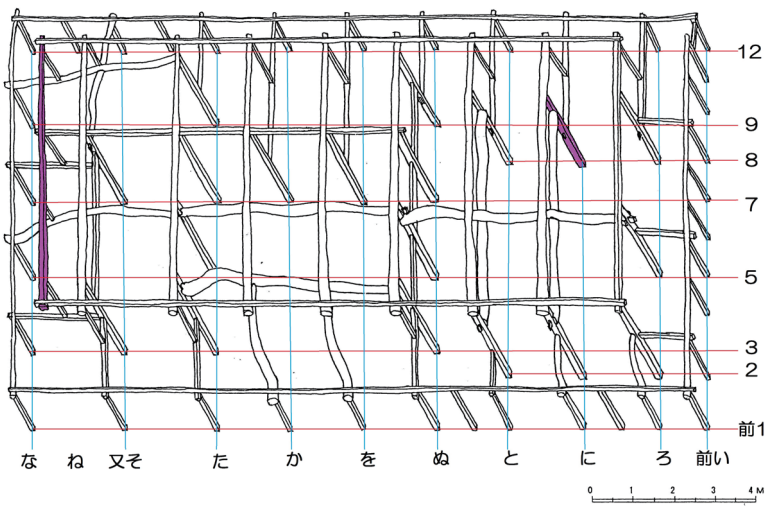


図 2-2　旧冨岡家　調査部材位置図 [5]

測定により得られた結果を表1に示す。

測定の結果、冨岡1は最外年輪層が1664-1678年(95.4%)、冨岡2は最外年輪層が1655-1672年(95.4%)という結果が得られた。冨岡1は柱側面にノタと思われる曲面があるが、煤などで覆われていて辺材の確認はできなかった。製材の方法によっては年輪面を生かしたまま辺材を除去する場合もあり、柱表面の曲面がノタかどうかは不明であるが、年輪幅が大きいため、最外年輪の年代から伐採年までの年数は少ないと思われる。

冨岡1（STTMO-1）「に8」柱

冨岡1は土間の独立柱で、柱上部に載る梁が真上から少しずれており、天端の木口の一部が露出していた。年輪に沿って大道管が並ぶ環孔材で、目視観察からクリと考えられてきたが、今回顕微鏡観察による樹種同定でケヤキ材と判明した。木口断面は132×87mm、総年輪数31年輪、平均年輪幅は4.3mm、最外年輪層は柱側面の曲面部分で、ここはノタの可能性がある。年輪の外側から1-5年輪(PLD-20988)、18-22年輪(PLD-20989)、27-31年輪(PLD-20990)の5年輪試料3点および樹種試料を採取した。

得られた^{14}C年代値をIntCal09較正曲線により暦年に較正した結果、冨岡1は最外年輪層で1664-1678年(95.4%、ピーク値1669年)と得られた。冨岡1はノタと思われる柱側面の曲面を最外年輪としており、最外年輪がノタ（樹皮あるいは樹皮隣接年輪面）であるなら得られた較正年代が伐採年となる。

最外年輪がノタではない可能性も考えられる。ケヤキは数年程度水漬乾燥すると辺材(白太）が腐って心材（赤身）が残る[6]というが、このような処理を行うと、心材と辺材の境界が年輪層に一致する部分では最外年輪面がノタとよく似た曲面となる。

冨岡1の最外年輪層が辺材かあるいは心材か、材表面が煤で覆われており辺材の有無を確認できなかったが、年輪幅の大きい心持材のため、たとえ辺材が除去されていても、除去年輪数は十数年輪以下と推測される。

冨岡2（STTMO-2)「ね3～ね9」桁

冨岡2は、上手座敷部上部の妻桁で、断面が173×140mm、平均年輪幅が9.2mmのスギの芯持材である。「ゲンカン」上部の桁端部が露出している木口面より1-5年輪(PLD-20991)、26-30年輪(PLD-20992)の5年輪試料2点および樹種試料を採取した。

得られた^{14}C年代値をIntCal09較正曲線により暦年に較正した結果、冨岡2は最外年輪層で1655-1672年(95.4%)と得られた。冨岡2は辺材が確認できなかったが、年輪幅の大きい芯持材のため、表皮までは十数年輪以下と推測される。

4. 年代考察

旧冨岡家住宅の年代測定解析結果は、冨岡1は1664～1678年、冨岡2は1655～1672年と、ともに17世紀中頃から後半ごろの年代が得られた。いずれも年輪幅の大きい材で、伐採年に近い年代が得られたと考えられる。痕跡調査によれば冨岡1、冨岡2とも

表1　旧冨岡家　試料データ

部材番号	部屋名/部材番付	測定番号	試料番号	年輪位置/総年輪数	^{14}C 年代（yrBP±1σ）	年代範囲
冨岡1	ドマ／独立柱に8	PLD-20988	STTMO-1.1-5	1-5/31	225±15	1664～1678（95.4%）
		PLD-20989	STTMO-1.17-22	18-22/31	215±15	
		PLD-20990	STTMO-1.27-31	27-31/31	280±15	
冨岡2	ゲンカン／桁ね3～ね9	PLD-20991	STTMO-2.1-5	1-5/30	200±20	1655～1672（95.4%）
		PLD-20992	STTMO-2.26-30	26-30/30	315±15	

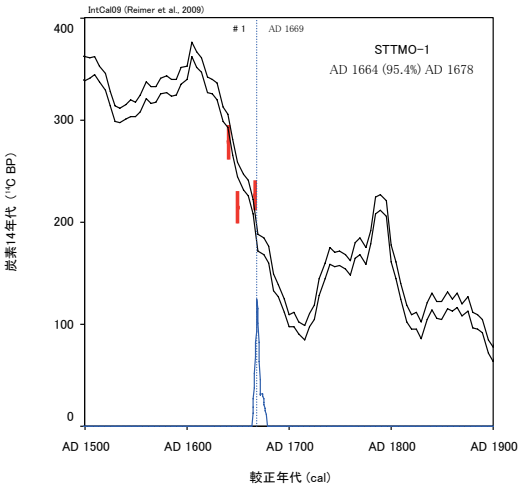


図３　冨岡１　解析グラフ、資料写真

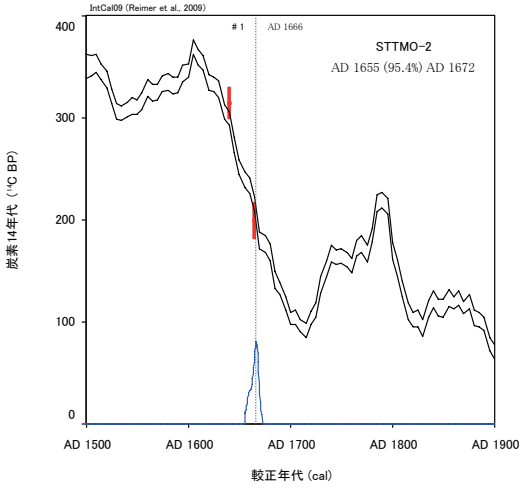


図４　冨岡２　解析グラフ、資料写真

当初材で、現在の旧冨岡家建物の建築年代を示す部材であるが、辺材が確認できず、製材時削除分は十数年程度と推測される。以上より旧冨岡家住宅は 17 世紀後半の 1664 年以降 1690 年ごろまでに建築されたと考えられる。

旧冨岡家住宅復元工事報告書では「旧冨岡家は部材の痕跡調査を通じ、創建当初の間取りや工法、構造的な特徴が･･･（中略）･･･全て江戸中期[7]以前の民家に見られる特徴と一致する」[8]とある。また大河直躬博士は関東地方古民家の類例から 17 世紀後期の建築であること、冨岡家の位牌と墓石から 1721 年（享保 6）に没した冨岡兵左衛門を初代と推測し、「17 世紀末期の 20 ～ 30 年間がおそらく彼の青壮年期に相当し、その時期に住宅を建てた可能性が高くなる」と述べられており、今回の年代調査は大河博士の考えとたいへんよく合致し、裏付ける結果となった。

建築年代が 17 世紀後半と判明した旧冨岡家住宅は、日高市の重文高麗家住宅や朝霞市の重文旧高橋家住宅と同様の「古四間取」に属する平面形式で[9]、正面 3 間奥行 3 間の土間沿表側室が間取りの中心となる。旧冨岡家住宅ではザシキと呼ばれる 3 間四方（方三間）の主室の奥上手側壁面 1 間に押板が設けられている。このような方三間室は中世上層武士住宅に見られる九間（ここのま）との関連が推測されている。「古四間取」の古例である高麗家住宅や旧都幾川村（現ときがわ町）の武藤家住宅[10]がいずれも中世以来の社家・在地武士であり、入間・比企地方の古民家や埼

表2　埼玉県の「古四間取」古遺構

名称	旧所在地	建築年代	規模	指定	ヒロマ正面
高麗家住宅	日高市新堀	17世紀後期	5間×7間半	重要文化財	シシマド
旧冨岡家住宅	和光市新倉	1664～1690年	5間×9間	和光市指定	シシマド（復元）
和井田家住宅	八潮市八條	18世紀初頭	4間半×9間	重要文化財	シシマド
旧高橋家住宅	朝霞市根岸台	18世紀初頭	4間×7間半*	重要文化財	シシマド
武藤昌蔵氏宅	ときがわ町西平	18世紀前半	4間半×8間半	－	引違戸

*前面土庇および下手張出部を除く

玉・児玉・秩父地方の最上層古民家にも同様の方三間九間形式がみられることから、「古四間取」は中世において身分や特権を表象する住居形式であったものが近世に再構成され近世中期以前の関東平野における上層民家の住まいとして用いられたと推測される。旧冨岡家住宅は同時期の埼玉県古四間取型民家のなかでも最大規模であるが、江戸時代以前に遡る家系伝承や分家・移住等の伝承が残っていない。大河直躬博士は「戦乱が終わり治安が回復した17世紀には、開拓の適地を求めて移住する農民や主家を失った武士が多かったことである。冨岡家は荒川沿いの低地を望む位置にあり、開拓に適している。冨岡家が当初から大規模だったのは、有力な農民か浪人が移住して建てたと考えると納得できるのではないか。」[11]と冨岡家の出自について考察されている。農民身分にもかかわらず規模の大きいこと、上手列背面のオクまで客室として広く用いることのできる間取りなど、住居としてよりも大人数の接客や人寄せに機能的な空間構成は、開拓ないし鷹場にかかわる施設的役屋であった可能性が考えられる。

謝辞

旧冨岡家住宅年代調査にご協力くださった和光市教育委員会、古民家愛好会の皆様、和光市文化財保護委員副島元子氏、協同組合伝統技法研究会大平秀和氏、（株）安田工務店安田徹也氏、武蔵大学聴講生稲垣悦子氏に感謝申し上げます。

本研究は平成24年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）「文化財建造物の高精度放射性炭素年代測定」（課題番号23300325）によるものである。

【註】

1. 和光市教育委員会　2007『和光市指定文化財　旧冨岡家住宅復元工事報告書』和光のむかし第13集
2. 中尾七重　2011「文化財建造物を対象にした放射性炭素年代測定の方法」『文化女子大学紀要　服装学・造形学研究』第42集　p.39-49　文化女子大学
3. 木越邦彦　1978『年代を測る』中公新書　中央公論社
4. 坂本稔　2012「表計算ソフトによる炭素14年代較正プログラムRHCバージョン4」『国立歴史民俗博物館研究報告176』国立歴史民俗博物館
5. 前掲　和光市教育委員会2007『和光市指定文化財　旧冨岡家住宅復元工事報告書』所収の復元架構図を加工して使用
6. 塩野米松・三上修　2004『木の教え』草思社
7. 建築史学では1661～1750年を江戸中期としている。（『長野県史美術建築資料編』解説）
8. 前掲　和光市教育委員会2007『和光市指定文化財　旧冨岡家住宅復元工事報告書』p.12
9. 関口欣也　1972『埼玉県の民家＝埼玉県民家緊急調査報告書』埼玉県教育委員会
10. 前掲　関口1972『埼玉県の民家＝埼玉県民家緊急調査報告書』p.58、p.113
11. 大河直躬2007「旧冨岡家住宅の復元とその歴史的価値」（前掲『和光市指定文化財　旧冨岡家住宅復元工事報告書』p.44）

なかお　ななえ（武蔵大学総合研究所）
さかもと　みのる（国立歴史民俗博物館）
いごう　よしのぶ（伝統技法研究会）

和光市出土と見られる「埼玉県立博物館」から返却された遺物について（覚書）

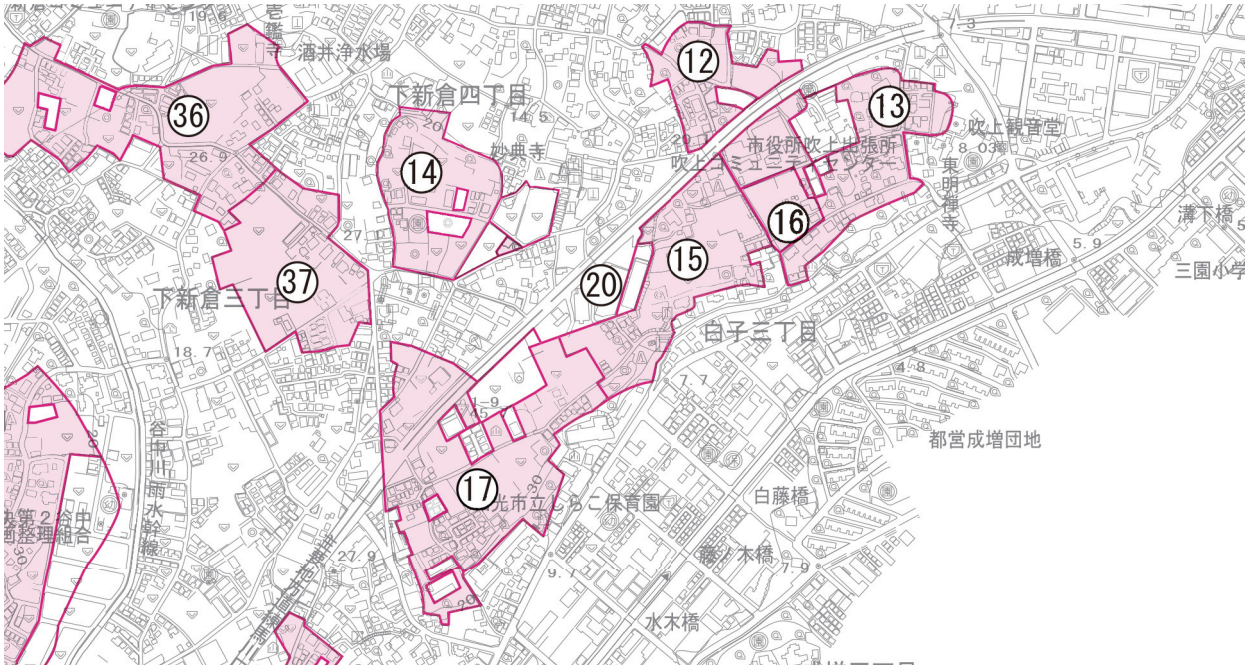
鈴木　一郎

１．はじめに

平成 17 年頃、埼玉県立博物館（現「埼玉県立歴史と民俗の博物館」）に保管されていた土器が同博物館より和光市教育委員会に返却された[1]。

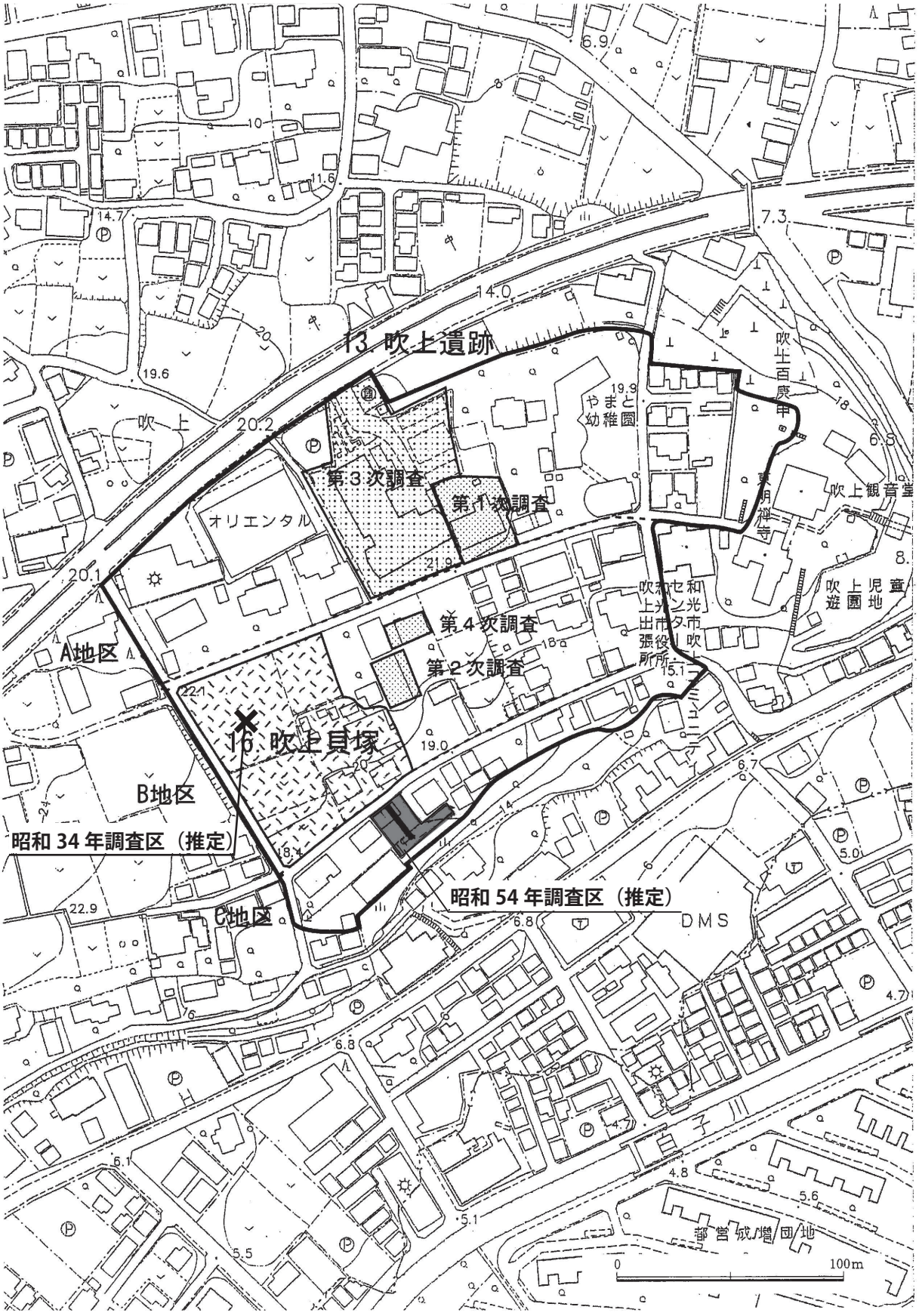
コンテナは、ねずみ色で 36 ℓ サイズ５箱、28 ℓ サイズ３箱、18 ℓ サイズ４箱の合計 12 箱であった。コンテナの１箱の横には「埼玉県立博物館」と館名が印字され、名札差込口には、保管場所・資料名・受入番号が印刷されたカードに「吹上遺跡」、「和光市　吹上」「和光市」などと記入され貼られていた。コンテナ内には、縄文時代後・晩期の土器と縄文時代中期の土器片が多量にあり、注記（ナンバリング）の無い土器片も含まれていた。これらの縄文土器は、同梱されている荷札・メモ等から吹上地区出土の土器であることが理解できた。確認のため、昭和 56 年 11 月 30 日、和光市発行の『和光市史史料編一』（以下『和光市史 1』とする）の遺物図版を調べてみたところ、市史編纂のための資料調査の一環として、昭和 54 年に行われた発掘調査と昭和 34 年に吹上地区で発掘調査された遺物の一部及び白子三丁目吹上地区で採取され資料紹介された縄文土器[2]であることが判明した。その他古墳時代の土師器などは、『和光市史 1』内の市場峡遺跡・妙典寺遺跡等で掲載されている遺物であることが判明した。

今回これらの遺物について改めて簡単な整理作業を行い、新たに遺跡番号等の注記（13・16・17・14）を書き足したことなども含め、その概要と整理の過程で新たな土器片錘確認したことから資料初回を含め覚書として残しておくこととする。

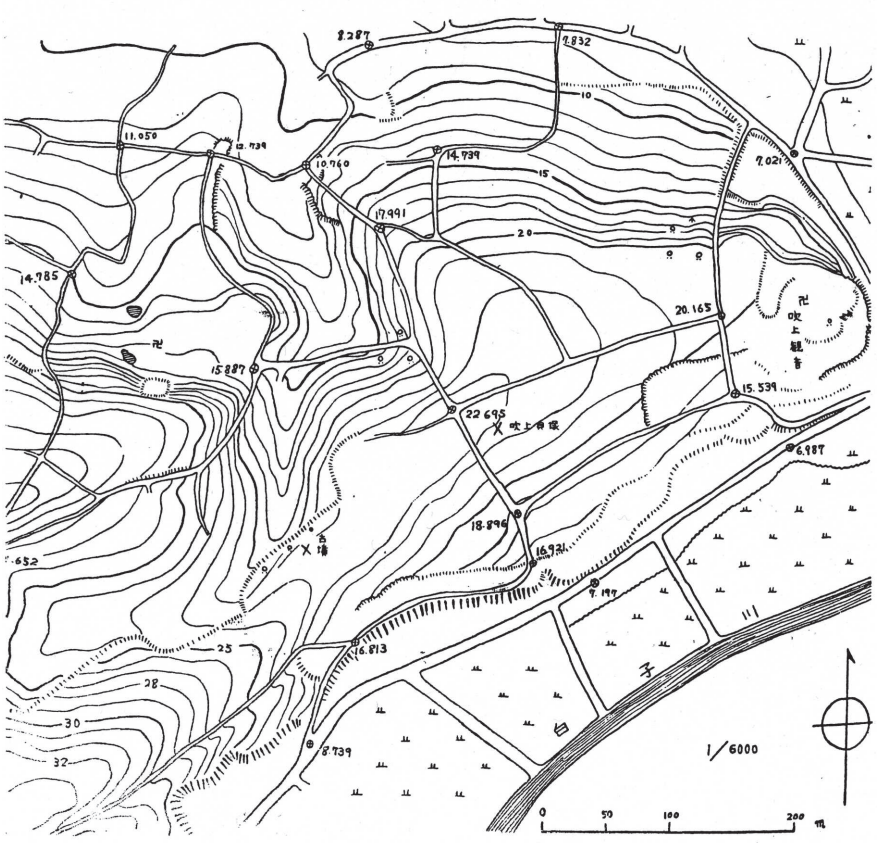


第 1 図　吹上遺跡と周辺遺跡位置図（S ＝ 1/10000）

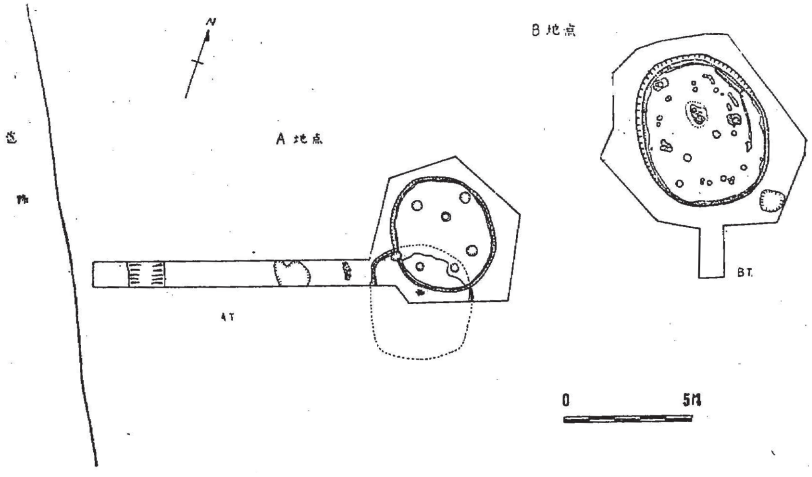
No.12 下里遺跡 ,No.13 吹上遺跡 ,No.14 妙典寺遺跡 ,No.15 吹上原遺跡 ,No.16 吹上貝塚 ,
No.17 市場峡・市場上遺跡 ,No.20 吹上原横穴墓群 ,No.36 仏ノ木遺跡 ,No.37 宮ノ脇遺跡



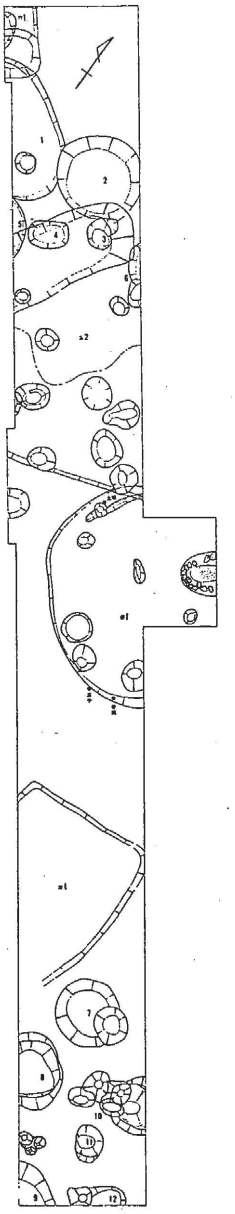
第２図　吹上遺跡測量位置図



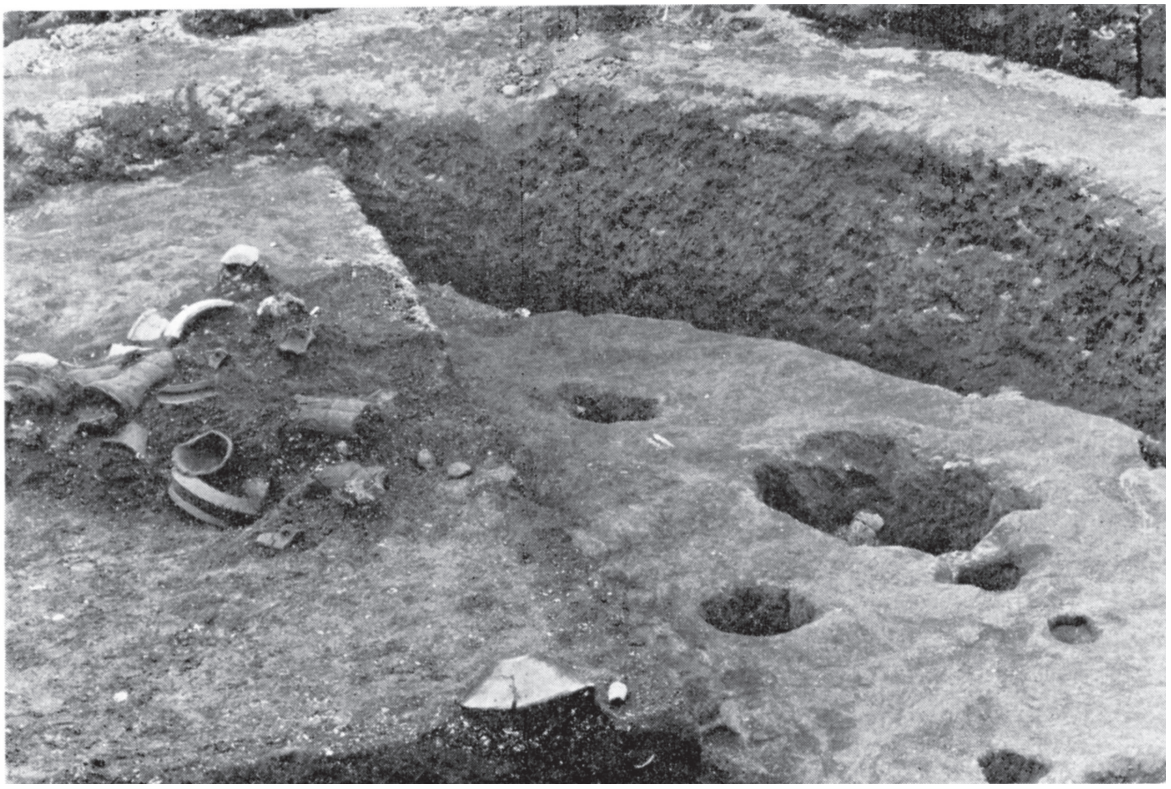
第 3 図　昭和 34 年発掘調査位置図（S ＝ 1/6000）



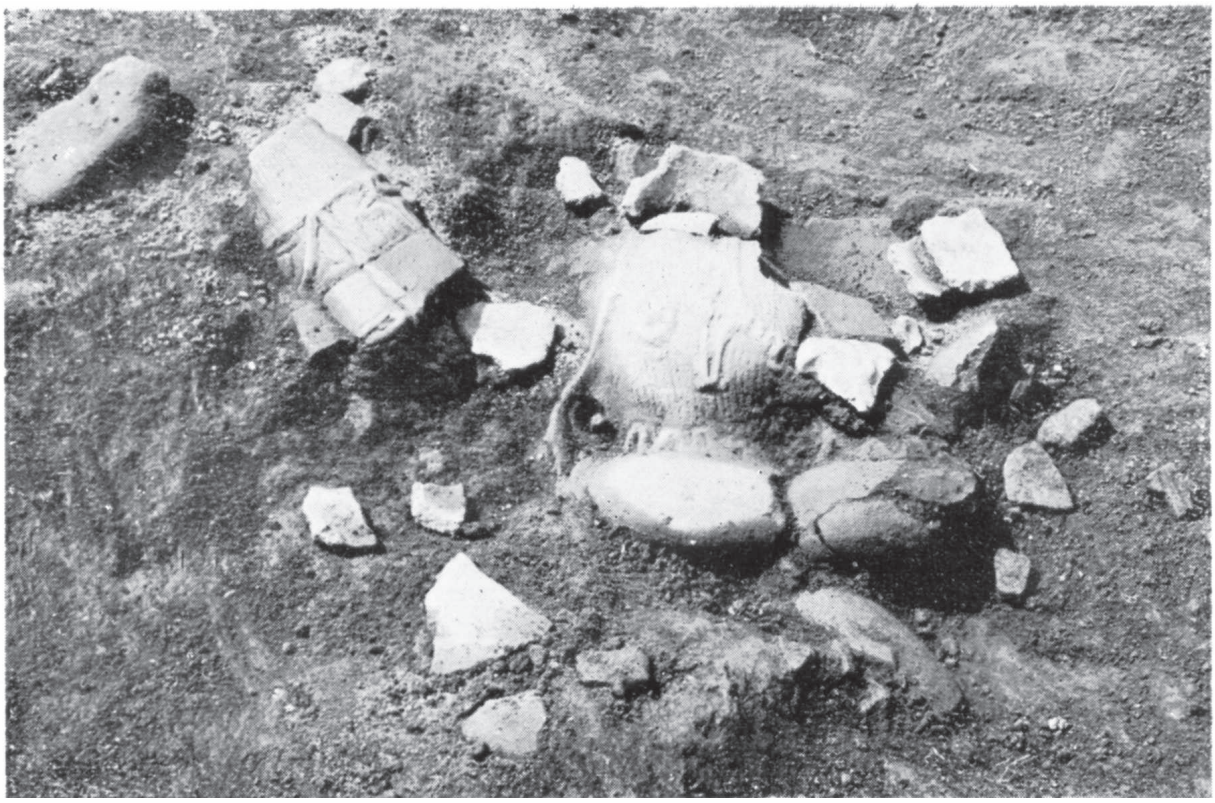
第 4 図　昭和 34 年発掘調査全体図（S ＝ 1/300）



第 5 図　昭和 54 年発掘調査全体図（S ＝ 1/111）



第6図　昭和34年調査　第3号住居跡遺物出土状況



第7図　昭和34年調査　第2号住居跡遺物出土状況

第 8 図　昭和 54 年発掘調査状況　トレンチ

第 9 図　昭和 54 年発掘調査状況　トレンチ

第 10 図　昭和 54 年発掘調査状況　土器出土状況

第 11 図　昭和 54 年発掘調査状況　トレンチ内ピット

2　吹上遺跡の概要

吹上遺跡（№11-013）は数度の遺跡範囲の変更増補を繰り返し、現在は第2図[3]の範囲になっている。吹上遺跡の範囲内には昭和34年調査地点を中心とした吹上貝塚（№11-016）が存在している。遺跡の標高は22～18ｍ程で、『吹上遺跡（A地区）』（1990年）の報告に際し、便宜的に道路を境としてA地区、B地区、C地区の3地区に遺跡範囲内を区分した。発掘調査はこれまで学術調査が2回、開発等に伴う緊急調査が4回実施されている[4]。A地区では、集合住宅建設に伴い第1・3次調査が行われ、弥生、古墳、奈良、平安の集落と縄文時代前期の住居内貝塚が検出されているが、縄文時代中期の住居跡は検出されていない。B地区では、いわゆる「吹上パターン」が提唱された縄文時代中期の吹上貝塚がそのまま位置するほか、第2・4次調査では旧石器時代の礫群、縄文時代中期の住居跡、弥生時代中期の土器片が出土している。C地区では、白子川を望む崖線に沿ったA・B地区より一段低い場所で、昭和54年調査地点があり、過去には縄文時代後期・晩期の土器の散布が認められていた。

3　返却資料の概要

返却資料の中には、遺跡名、調査地点・時期などが確認された遺物群もあることから、各グループの概要を示す。

（1）昭和34年調査の概要

文献　柳田敏司ほか　1959『大和町のむかし吹上貝塚』郷土誌資料第3集　大和町教育委員会

調査期間　昭和34（1959）年4月15日～6月2日

目的　学術調査

位置　和光市白子三丁目4376-1、4375（旧大和町大字下新倉字吹上）

注記　Y 20 Ⅲ 44、Y 20 Ⅲ 45など

内容　縄文時代中期住居跡3軒検出。第1・2号住居跡は重複し、新旧関係は第2号住居跡の方が新しい。第1号住居跡から完形・半完形の多量の土器のほか土器片錘13点出土。第3号住居跡は、縄文時代中期住居内貝塚の住居で、土器片錘23点の他、住居跡の覆土2～3層より完形・半完形の多量の土器が出土し、床面及び炉跡出土の土器と時期差が見られることから、第3号住居跡が後の「吹上パターン」のモデルとなる。

今回の作業　昭和34年貝塚調査地点の遺物と認められたため、注記の左上部に遺跡番号「16」を追記した。

（2）昭和54年調査の概要

文献　『和光市史1』「吹上遺跡」

調査期間　昭和和54（1979）年8月20日～9月2日

目的　市史編纂の資料調査（学術調査）

位置　和光市白子三丁目4379-1、4379-2　吹上地区台地東端の一段低い部分

注記　吹上3区黒Ⅲ、吹上4区黒下など

内容　台地縁辺に直交する幅2ｍ、長さ20ｍのトレンチ調査。トレンチ内を1～10区に区分した。土層は、表土、黒色土、茶褐色土、褐色土、ローム層からなる。遺構は、縄文時代中期住居跡1軒、縄文時代土坑12基、古墳時代中期住居跡2軒、平安時代9世紀代の住居跡1軒。遺物は、黒色土中より安行Ⅲｃ式土器が主として出土、土層内に骨紛が部分的に混じる。

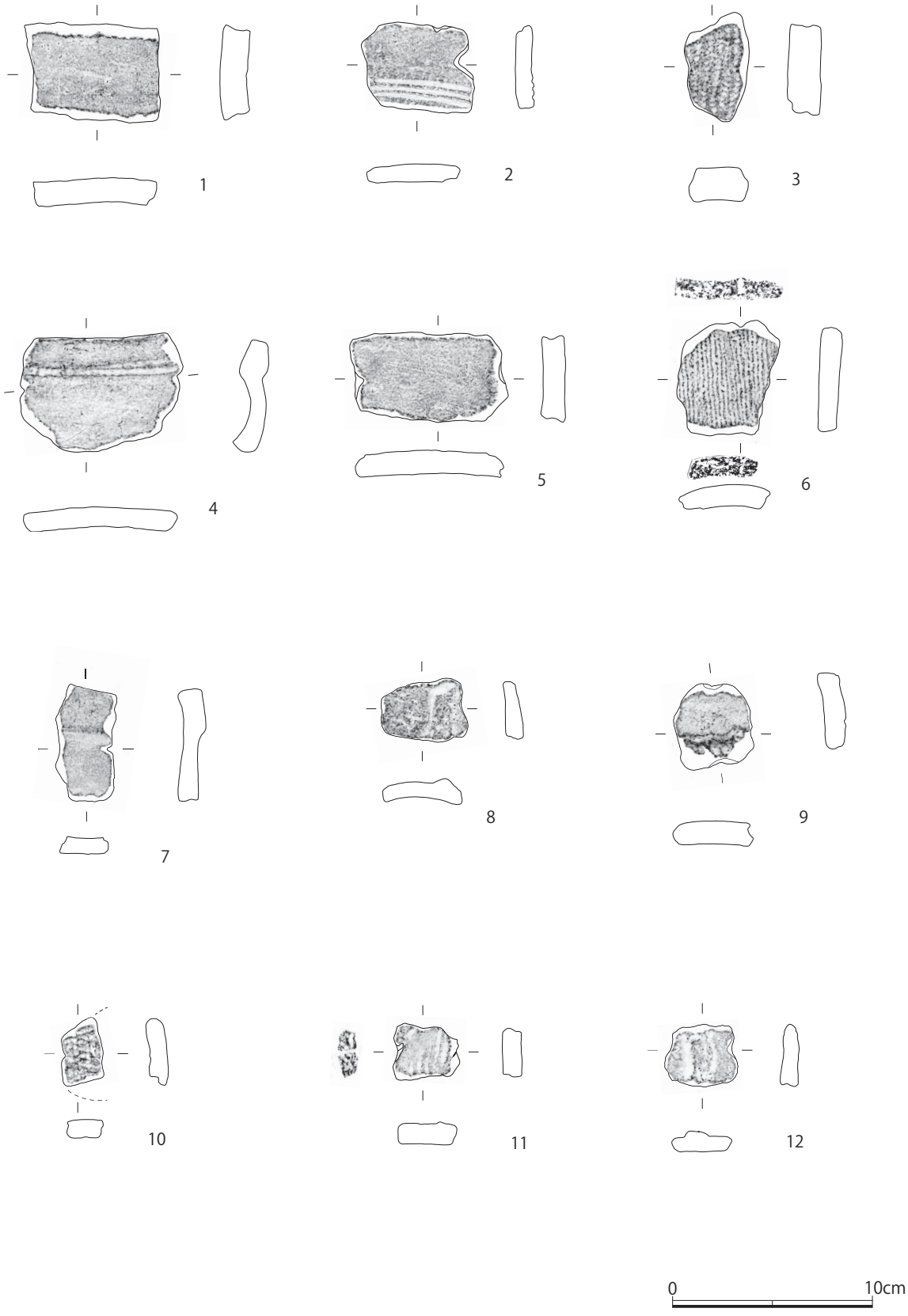
今回の作業　昭和54年調査地点の遺物と認められたため、注記の左上部に遺跡番号「13」を追記した。

（3）岩井住男氏論文資料

文献　岩井住男　1971「大和町出土の縄文時代晩期の土器について」『鳳翔』9号　埼玉大学考古学研究会

資料採取位置　和光市白子三丁目13番地（推定地4385-1、4386）[5]

内容　地元農家の方が採取した資料の内、主に縄文晩期安行Ⅲｃなどを資料紹介。



第 12 図　土器片錘

今回の作業　岩井氏の論文資料と認められたため、「ヤマト表」と平成26年新たに注記した。

(4) 市場峡遺跡の土器

文献　『和光市史1』「市場峡遺跡」

経緯　昭和36年鬼高式土器の一群（『和光市史1』第133図市場峡遺跡出土土師器実測図）が天地返しにより出土した。（現名称　市場峡・市場上遺跡）

今回の作業　遺跡が確認されたため「17表」と平成26年新たに注記した。

(5) その他の遺物

文献　谷井　彪・高山清司　1968「大和町の遺跡と出土土器（弥生時代･古墳時代）」『埼玉考古』第6号　埼玉考古学会

内容　注記の無い破片遺物（土師器･須恵器）がコンテナ2箱分存在し、特徴的な高坏（『和光市史1』第31図3）は上記谷井・高山論文中に「妙典寺遺跡」出土土器として掲載されていることが確認された。2箱分の弥生・古墳時代土器群は、市場峡・市場上遺跡あるいは妙典寺遺跡の可能性がある。

今回の作業　遺跡が不確定なため「ワコウ」と平成26年新たに注記した。

4　資料紹介

今回簡単な分類を行った際に新たな土器片錘が確認されたので、併せて資料紹介を行う。当該資料は、昭和34年調査資料（第12図1～10）と、昭和54年調査資料（第12図11･12）から確認されたものである。法量は、第1表土器片錘法量表に示す。

(1) 昭和34年調査資料

第12図1は、深鉢形土器の胴部破片を利用し横方向に2箇所浅い窪みを付け製品としている。文様は横ナデの無紋である。（注記16. Y 15 B 01.2）

第12図2は、深鉢形土器の頸部破片を利用し横方向に2箇所刻みを付け製品としている。文様は頸部無紋帯下部に半裁竹管の沈線が横方向に引かれている。（注記16. Y 15 B 01～2）

第12図3は、半欠損品であるが、深鉢形土器の胴部破片を利用し横方向に浅い窪みを付けている。文様は地文にＲＬ縄文が施されている。（注記16. Y 15 B 04）

第12図4は、鉢形土器の口縁部破片を利用し横方向に2箇所深く刻みを付け製品としている。文様は口縁直下に口縁部と胴部を画するように横方向の沈線が引かれ、横ナデの無紋である。4は、既報告『大和町のむかし吹上貝塚』33頁の第14図Ｂ地点出土土錘の

表1　土器片錘法量等

第12図No.	重量(g)	刻み幅(㎜)	長軸(㎜)	短軸(㎜)	依存度	注記	備考
1	69	61	65	40	完形	16.Y15B01.2	
2	29	43	52	42	完形	16.Y15 B01～2	
3	31	40	50	29	1/2欠損	16.Y15 B04	
4	73	73	78	57	完形	16.Y16 B04	大和町のむかし『吹上貝塚』第14図4（33頁）と同一
5	58	61	72	42	完形	16.Y18Ⅲ41	
6	41	52	58	42	完形	16.Y18Ⅲ32	
7	27	22	54	28	2/3欠損	16.Y19Ⅲ43	
8	16	35	42	30	完形	16.Y19Ⅲ42　4区	
9	23	35	49	39	完形	16.Y19Ⅲ43	
10	8	16	29	19	1/2欠損	16.Y20Ⅲ94	
11	13	25	30	27	完形	13.1T3区クロ	
12	10	28	35	30	完形	13.3区クロNo1	

4番と同一であり、第3号住居跡出土である。（注記 16. Y 16 B 04）

第12図5は、深鉢形土器の胴部破片を利用し横方向に2箇所浅い窪みを付け製品としている。文様は横ナデの無紋である。（注記 16. Y 18 Ⅲ 41）

第12図6は、半欠損品であるが、深鉢形土器の胴部破片を利用し縦方向に2箇所刻みを付け製品としている。文様は地紋に無節Lの撚糸文が施されている。（注記 16. Y 18 Ⅲ 32）

第12図7は、半欠損品であるが、深鉢形土器の口縁部破片を利用し横方向に深く刻みを付けている。文様は無紋であるが、口縁直下には段差を有している。（注記 16. Y 19 Ⅲ 43）

第12図8は、深鉢形土器の胴部破片を利用し横方向に2箇所浅い刻みを付け製品としている。文様はヒダ状の微隆帯が垂下している。胎土に金雲母を多量に含み、阿玉台式土器である。（注記 16. Y 19 Ⅲ 42　4区）

第12図9は、深鉢形土器の胴部破片を利用し縦方向に2箇所浅い刻みを付け製品としている。文様は横方向の波状沈線と押引きが見られる。胎土に金雲母を含み、阿玉台式土器と見られる。（注記 16. Y 19 Ⅲ 43）

第12図10は、半欠損品であるが、深鉢形土器の胴部破片を利用し横方向に刻みを付けている。文様は地文にＬＲ縄文が施されている。（注記 16. Y 20 Ⅲ 94）

(2) 昭和54年調査資料

第12図11は、深鉢形土器の胴部破片を利用し横方向に2箇所に深い刻みを付けている。文様は地文にＲＬ縄文が施されている。文様、焼成、色調から縄文時代中期加曽利Ｅ3式以降と見られる。（注記 13.1 Ｔ3区クロ）

第12図12は、深鉢形土器の胴部破片を利用し横方向に2箇所に浅い窪みを付けている。文様はヒダ状の微隆帯が垂下している。胎土に金雲母を多量に含み、阿玉台式土器である。（注記 13.3 区クロ No1）

今回の第12図の土器片錘は、1～7、10は縄文時代中期の勝坂から加曽利Ｅ式の古手と見られ、昭和34年発掘調査の検出住居跡と時期的にも合致している。

5　終わりに

和光市吹上地区の土器が埼玉県立博物館に保管されていた理由は、和光市史の編纂に伴い、県立博物館において資料分類・分析が行われていたことが想像にかたくなく、和光市史に再録されている「岩井論文」の土器資料が同じくコンテナに入っていたことが証明している。

今後も時間が許されれば過去の遺物の再整理を進め、このような形で資料紹介を行い、資料の蓄積を進めたい。

【註】

1. 埼玉県の県立博物館施設再編整備計画に伴う収蔵品整理を行ったところ、未登録の「和光市の土器」コンテナが出てきたため返却された。
2. 遺物を観察したところ、岩井住男氏が「大和町出土の縄文時代晩期の土器について」『鳳翔』9号（1971年）により資料紹介を行った土器であり、『和光市史1』に再録されている土器であった。
3. 吹上遺跡の変更増補経緯、昭和34年4月吹上貝塚発掘調査。昭和47～48年埼玉県内全域の遺跡分布調査により、吹上地区に№11-013（名称なし）遺跡、№11-016吹上貝塚の2箇所が「埼玉県埋蔵文化財包蔵地台帳」に登載された。昭和54年8月20日～8月30日（№11-016）富貴揚遺跡の名前で発掘を行う。昭和56年『和光市史1』の市内の遺跡一覧では、13番・種別集落跡・名称吹上遺跡、16番・種別貝塚・名称吹上貝塚と掲載された。平成3年8月12日№11-013の吹上遺跡の範囲を全体に拡大し、№11-016吹上貝塚を含めた。同時に吹上貝塚の昭和34年発掘地点を中心的に範囲を西へ移動した。平成15年3月25日№11-013の吹上遺跡、№11-016吹上貝塚同時に遺跡範囲を一部縮小した。
4. 第1次調査＝平成元年（1989）7月～8月発掘、

白子 3-4418-3、4419-2。第 2 次調査＝平成 7 年（1995） 6 月発掘、白子 3-4384-6、-7。第 3 次調査＝平成 8 年（1996） 2 月～ 6 月発掘、白子 3-4419-1、4420-1、4421-1、4417-3、4422-1、-2。第 4 次調査＝平成 9 年（1997）10 月発掘、白子 3-4384-8

5. 資料採取した野浦氏の耕作地から推定した。

【引用・参考文献】

岩井住男 1971「大和町出土の縄文時代晩期の土器について」『鳳翔』 9 号　埼玉大学考古学研究会

鈴木一郎ほか 1998「吹上遺跡（第 2 次）の調査」『市内遺跡発掘調査報告書 1』和光市埋蔵文化財調査報告書第 20 集　和光市教育委員会

鈴木一郎ほか 2001「吹上遺跡（4 次）の調査」『市内遺跡発掘調査報告書 4』和光市埋蔵文化財調査報告書第 24 集　和光市教育委員会

鈴木一郎ほか 2003『吹上遺跡（第 3 次)』和光市埋蔵文化財調査報告書第 30 集　和光市遺跡調査会

竹石健二ほか 1990『吹上遺跡 A 地区』和光市埋蔵文化財調査報告書第 4 集　和光市遺跡調査会

谷井　彪・高山清司 1968「大和町の遺跡と出土土器（弥生時代・古墳時代)」『埼玉考古』第 6 号　埼玉考古学会

谷井彪ほか 1981『和光市史史料編一』和光市

柳田敏司、栗原文蔵ほか 1959『大和町のむかし吹上貝塚』郷土誌資料第 3 集　大和町教育委員会

すずき　いちろう（和光市教育委員会）

「地福寺日並記」に記録された和光市域の気象・災害

中岡　貴裕

1．はじめに

平成 26 年 6 月 25 日、和光市を集中豪雨が襲ったことは記憶に新しい。熊谷地方気象台が平成 26 年 6 月 26 日付で発表した「平成 26 年 6 月 25 日の大雨に関する埼玉県気象速報」によれば、「解析雨量によると、15 時に朝霞市付近で 1 時間に約 110 ミリの猛烈な雨を解析した」と報告されている[1]。1 時間に 100 ミリ以上もの雨量を観測したとされる豪雨は、和光市域においても床上浸水 31 棟、床下浸水 30 棟をはじめ道路冠水等の被害をもたらした[2]。

さて、当市域はこれまでも水害と全くの無縁であったわけではない。よく知られている明治 43 年の大水害をはじめ、関東各地に生じた水害の影響は当然和光市域にも及んでいる。また、水害以外にも地震をはじめ多くの自然災害を少なからず経験している。しかし、時とともに災害の記憶は失われていってしまうため、過去の災害については記録された文献資料や聞取り調査等によって後世に伝えていくより他にない。

本稿は和光市白子に所在する地福寺に残された『地福寺日並記』の記録を基に、明治～大正時代の当市域における気象・災害に関する基礎的情報の一部を提示することを目的とするものである。

2．地福寺と「日並記」

地福寺は和光市白子 2 丁目に所在する天台宗の寺院である（図 1・写真 1）。山号は瑞応山、院号は地蔵院と号し、入間郡小仙波村（現川越市）喜多院の末寺とされる[3]。寺号の由来は、「地蔵菩薩は福徳円満で、人々の悩みを断ち、すべてのものを養育し開運して、福禄寿を授け、父母が子どもを養うように大地の万物を育てる福徳があるということから、地福寺という」と言われている[4]。地福寺縁起については『和光市史民俗編』に寺伝が紹介されているので、ここでは省略する。それによれば地福寺は永延年間（987-989 年）に尊恵僧正が白子の地に建てた寺であると伝えられる。その後、二代尊勝以降は住職のいない寺であったと伝えられるが、中興の祖とされる尊秀が天文年間（1532-1555）に諸堂を修理し、修興したという[5]。なお、青木忠雄氏が監修した『和光の仏像 - 和光市仏像調査報告書 - 』によれば、同寺所蔵銅造地蔵菩薩立像は旧本尊と推測され、造立時期は鎌倉時代後期頃に遡るものと推定されている[6]。

本稿で取り扱う「地福寺日並記」は、地福寺の鎌田亮中住職が明治 23 年 7 月から大正 13 年 8 月に至るまで執筆した日誌類を総称するものである（以下、本稿では「日並記」という。）。明治 24 年 5 月 19 日から明治 27 年 1 月 31 日、大正 4 年 3 月 1 日から大正 9 年 7 月 31 日の記録が欠けているものの、その間 27 年に及ぶ日々の出来事が記されている。「和光市域の生活史の推移を問う場合、この日並記は拠るべき貴重な史料の一つ」であると評価されているように[7]、「地福寺日並記」には地域史研究にとって多くの有益な情報が残されている。

3．「日並記」における気象情報

既に述べたように、「日並記」は欠けている期間を除き、ほぼ毎日の出来事が記録されている。何事もなかった日であっても、わずかな例外を除き最低限その日の天気に関する記載があり、市域の気象情報を知るためには大変有益である。また、住職の目に留まった、

図1　地福寺位置図（大日本帝国陸地測量部明治43年測図迅速測図「白子」他を加工して使用）

写真１　地福寺遠景（撮影年代不明）

出典：和光市デジタルミュージアムれきたま

写真２　地福寺（撮影年代不明）

出典：和光市デジタルミュージアムれきたま

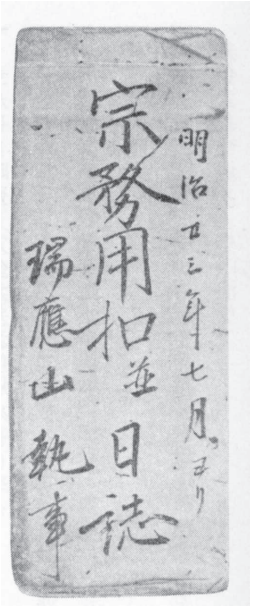


写真３　地福寺「日並記」

出典：和光市史編さん室 1985『地福寺日並記』

又は体感した地震や風水害、火災といった災害の情報について逐一記録されていることが注目される。例えば後述する関東大震災については、具体的な実体験に基づいた記録がなされており、得るべき情報は少なくない。無論、記録者の主観に基づくものではあるが、だからこそ活きた記録であると捉えることもできるだろう。

付表1は、日並記に記された天気の記載を基に、明治23年7月から大正13年8月までの天気を表化したものである。言うまでも無いことだが、記載された天気は定時定点の観測結果ではない。そのため正確さ等について欠ける面もあると思われる。しかし、あくまで本稿は「日並記」の記載内容から気象情報を提示することを目的としていることから、その範囲内における把握の限りであることをお断りしておく。なお、熊谷測候所（熊谷地方気象台）の観測結果については、『新編埼玉県史別編3自然』に「付表3　明治32年～昭和55年の天候」があるのであわせてご参照いただきたい。

4.「日並記」における災害情報

次に日並記における災害関係の記録を概観してみよう[8]。ここでは自然災害を「風水害」、「地震」、「その他の災害（積雪、旱、火事等）」として便宜上整理することとしたい。

付表2は地福寺日並記に記録された災害等情報について、関係箇所を和光市発行の活字版『地福寺日並記』の本文中から抜き出して掲載したものである。無論、日並記の欠けている期間については記録が無いため記載していない。備考にはそれぞれの災害について『埼玉県の気象災害』、『新編埼玉県史別編3自然』、『日本被害地震総覧599-2012』等の資料から管見の限りで把握できた情報を参考までに示しておいた。なお、本稿中において災害前後の天気について言及する場合は、特に断りを入れない限りは先の付表1を参照するものとしたい。

以下、付表2の中から特に被害等が確認された災害について個別に事例として紹介する。ただし、紙幅の都合から全ての災害に言及するものではないことを予めお断りしておく。

（1）風水害関係

①明治23年8月、9月

明治23年8月22日～23日、30日は埼玉県下で暴風雨があり、荒川では入間川等の支流を含め125箇所破堤した[9]。「日並記」の記録では和光市域の直接的な被害についての記録は見られないものの、9月4日に「大井より古谷へ水見舞に行、迂路より行候処田畝一面水ニテヒサ迠浸セリ」とあり、その水害の一端をうかがうことができる。

なお、新座郡内の戸数・反別の水災被害状況については、表1に示すとおりである。この内、白子村の被害は当時の大字下新倉しか受けていなかったという[10]。

表1　明治23年水害による新座郡内被害一覧

	被害戸数				被害反別（反）		
	潰水	流失	無難	合計	田	畑	合計
志木町	28	0	472	500	720	100	820
膝折村	10	0	370	380	800	2	802
打間木村	154	0	208	362	889	1,200	2,089
新倉村	9	0	213	222	203	231	434
白子村	16	0	196	212	226	227	453
計	217	0	1,459	1,676	2,838	1,760	4,598

出典：『和光市史下巻』表5-60を転載

②明治27年8月

明治27年8月10日は、その前夜から雨が降り、「今朝大雨盆ヲ覆ス」という状況であった。翌11日も「雨天、小嵐」であり、その翌12日に「洪水」となり「上新倉入樋破壊」に至っている。

③明治29年9月

「風雨、荒模様なり」と記録された明治29年9月8日から10日にかけて、「風雨」が続いた。結果、10日は「洪水九合」に至っている。この「九合」については、満水を十合として水位を十分割したすると、九合目程度の水位であることを表しているものと考えられる。『新編埼玉県史別編3自然』によれば、

9月7日から12日にかけて豪雨が続いた結果、荒川で41箇所の破損があったという[11]。

④明治30年9月

明治30年9月8日は「雨天終日、雷鳴あり、夜ニ入リ大雨大雷、前二時頃より大嵐」となり、「樹木破損」する被害が生じている。この日は利根川堤防が決壊するほどの大風雨が確認された日であり、市域でも樹木破損以外にも被害が生じていたものと推測できる。

⑤明治35年8月、9月

明治35年8月7～8日にかけて低気圧に伴う大雨が観測される中[12]、「日並記」の8月9日の記録には「大洪水一升水ニ付、吹上早鐘大騒き之事」と記されている。同年9月9日にも「大洪水出ツ」とあり、再び洪水の記録がある。また、同月28日は台風の襲来に伴い「未明ヨリ暴風雨、境内栗ノ木二本倒ル、竹垣破損あり」と、台風の勢力を語る記録が見られる。

⑥明治37年7月

明治37年7月10日、「暴風雨、木小屋吹倒サル」とあり、翌11日は「曇天、風吹、時々驟雨あり、夜ニ入リ大雷強雨暁ニ至ル」と記録される。その翌日、「曇天、前ノ田圃ノ川開キ一面海ノ如ク流ル、実ニ四十年来ノ地水なり」とあり、冠水している様子がうかがえる。

⑦明治39年7月

明治39年7月14日には「風雨、此ノ二、三日前ヨリ天候険悪暴風雨の兆アリ」とあり、翌15日には「大雷雨、終日、潦水溢レ大サワギなり」と記される。

同じく7月27日、28日は「風雨」が記録され、その影響により29日には「晴天」だが「大洪水」となっている。

⑧明治40年8月、9月

明治40年は、7月7日～13日にかけて一週間に及ぶ雨天が記録されている。

8月も驟雨や荒模様の天候が確認される中、8月25日に至って「風雨、大洪水諸川筋大害之由」と記され、大水害の様子が記録されている。この水害は一般的には「明治40年水害」等と呼ばれる。付表1に見られるように、その直前の期間は8月22日から雨天の記録が続き、その後も断続的に雨天が続いている様子が記録されている。

この明治40年の水害の被害は大きく、利根川・荒川が破堤したことにより広範囲に濁流が押し寄せている。また、8月の水害についての復旧が始まらないうちに、9月に再び台風が襲来し、さらなる被害が引き起こされることとなる。なお、「日並記」には9月18日に「払暁ヨリ大雨風あり、小嵐なり」と記録されているが、この9月の災害状況については記載が見当たらず、詳細はわからない。

『埼玉県の気象災害』によれば、この明治40年の風水害の被害は、埼玉県では死者12人、負傷者11人、行方不明29人、家屋倒壊10戸、流失114戸、浸水17,850戸、破堤約90箇所、浸水面積約2万町歩、農作物損害423万円であったとされている[13]。

⑨明治41年8月

明治41年8月9日から驟雨や荒れ模様、雨天が続き、同月13日に至り「半晴、少雨あり、洪水七、八合出ル」と記録されている。

⑩明治43年8月

明治43年8月は未曾有の大洪水が引き起こされた。この水害は明治時代最大級の洪水と言われ、一般的には「明治43年の大水害」、「明治43年の洪水」等と呼ばれている。この被害について、「日並記」の記録を確認しよう。

付表1に見られるように、8月5日から少雨、8日から大雨が続き、10日は「大雨、小嵐なり、夜ニ入リ暁迄大雨」と記録されている。この翌11日には「晴天」だが、「未曾有大洪水、上新倉土手壊裂土手惣こしの由、午房天王坂崩壊ス」と被害の状況が記されている。13日も再び「大風雨」となり「洪水又増ス」と記される。

この洪水は埼玉県をはじめ、関東地域に水害をもたらしている。表2は埼玉県内の被害状況について、『明治43年埼玉県水害誌』及び『埼玉県の気象災害』の記録を元にまとめたものである。

先に「日並記」の記録で見たとおり、和光市域においても土手が壊裂する等の被害が生じている。「未曾有大洪水」とあるように、亮中住職の記憶の中でもこれまでに無い規模の水害と映ったのであろう。

⑪明治 44 年 6 月～ 8 月

明治 44 年は 6 月から 8 月にかけて、雨天が多く記録されている。

6 月 19 日は「夜来雨降、午前七時頃より暴風雨トナリ八時九時ノ交尤モ甚シ、午後より向山新宅初七日回向ニ行、樹木、屋根ノ損害多シ」とあり、台風による暴風の影響が記されている。

7 月 3 日には「雨天、霖雨七、八日ニ渉リ難儀なり」とあるほか、7 月 26 日の「暴風雨」、8 月 4 日には「昨夜来雨間なく降続き今朝強雨盆を覆す、終日荒模様風吹」などの記録をはじめ、「驟雨」も度々確認される。そのような天候の中、8 月 10 日に「曇天、荒模様、午後二時頃より豪雨雷鳴、夜ニ入リ尚甚し」とあり、翌 11 日に至り「雨降、昨初夜より暁ニ至ル、間断なく豪雨、大出水なり」と記録されている。

⑫明治 45 年 6 月・大正元年 9 月

明治 45 年 6 月 16 日夜から雨が降り始め、17 日は「昨夜来引続き強雨間断なし」という状況にあり、翌 18 日は「晴天」だったものの「小洪水之由」と記録されている。

同年 9 月は 21 日未明頃から 22 日にかけて「大雨」が降り、翌 23 日は「夜明ケ四時頃より暴風雨、近来ノ荒なり、大雨なり、門、長屋等危ク院内総出、廣吉来援、張ヲカヘ、竹垣総体皆損傷、門前六地蔵小屋諸々タオレ、石像三体タオル、十二時頃止ム、晴ル」と記録されるように、非常に強い暴風雨がこのあたりを襲ったようである。小屋もろとも石像物が倒れている様子から、どのような強さの暴風雨であったのかを想像することができる。この暴風は台風によるもので、埼玉県内で多くの被害が生じている [14]。

⑬大正 2 年 8 月、9 月

大正 2 年 8 月は上旬頃まで降雨が記録され

表 2　明治 43 年水害による埼玉県内被害状況

種別		郡名	北足立	入間	比企	秩父	児玉	大里	北埼玉	南埼玉	北葛飾	合計
人の被害状況	壓死		-	-	2	65	7	10	1	-	-	85
	溺死		24	32	40	10	9	58	51	6	9	239
	傷		1	2	24	20	6	11	7	2	4	77
	行衛不明		-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	上記の合計		25	34	66	95	22	79	59	8	13	401
	管外死体漂着		-	1	-	-	4	5	-	-	1	11
人以外の被害状況	破堤		144	78	123	-	132	114	35	135	184	945
	堤防損壊		252	68	171	-	168	184	18	174	367	1, 402
	浸水面積		19, 790	13, 247	8, 011	214	3, 918	12, 946	19, 498	21, 227	12, 290	111, 141
	山くずれ		-	899	241	1, 660	456	73	-	-	-	3, 329
	家屋浸水	床上	11, 343	4, 892	5, 045	294	1, 883	8, 154	13, 009	9, 275	5, 411	59, 306
		床下	2, 623	3, 330	429	2, 099	2, 161	3, 286	3, 017	5, 548	2, 739	25, 232
	住家	全壊	42	107	157	51	17	88	136	24	5	627
		半壊	31	68	42	56	39	71	213	13	15	548
		破損	2, 163	3, 968	3, 122	168	310	620	3, 314	460	1, 795	15, 920
		流失	48	111	171	86	66	254	309	6	1	1, 052
	非住家	全壊	62	147	131	20	23	69	129	27	6	614
		半壊	42	48	39	27	37	66	110	42	12	423
		破損	483	2, 697	1, 126	133	237	554	2, 261	272	1, 167	8, 930
		流失	33	67	55	116	41	118	136	8	5	579
	道路	流失										
		埋没	116	136	485	837	458	1, 846	248	71	195	4, 392
		破損										
	橋	流失	22	86	215	207	272	209	33	23	36	1, 103
		破損	87	53	311	254	282	556	192	178	321	2, 234

人の被害状況については、『明治43年埼玉県水害誌』を元に作成した。
人以外の被害状況については、『埼玉県の気象災害』を元に作成した。

ていないが、中旬頃より雨が見られるようになり、23 日未明から 26 日にかけて雨が降り、27 日は「夜来大雨、暁方より豪雨トナリ、東北風加リ小嵐ナリシガ」と記録される。8 月 31 日から再び「荒模様」となり、9 月 1 日も「雷鳴大雨沛然止マズ」、翌 2 日は「昨夜来引続き大雨降、冷気なり、再度ノ出水なり」とされ、「出水」したことがわかる。「再度」とあるが、直近の記録には「出水」の文字が見当たらない。勝手な憶測は避けるべきだが、あえて推測するのであれば 23 日未明から 27 日にかけての雨、豪雨の際に出水していたものと考えるのが自然であろう。しかし、これは現時点で裏付ける資料を確認していないため推論の域を出ない。10 月 4 日には「柴宮渡船満水風荒シ危険ヲ感ス」とあり、荒川が増水している様子がうかがえる。

⑭大正 3 年 1 月、8 月、9 月

大正 3 年は、1 月 14 日「午後ヨリ天候険悪、西南ノ暴風雨ヲ交へ大雷鳴一時前、二時過尚止マス、寒中ノ変候近来稀有ノ事なり」とされるように、年明け早々よりこの季節には珍しい雷を伴う暴風雨が記録されている。

同年 8 月 13 日に「未明より荒模様、風雨、嵐なり、二時過止ム」と記録され、翌 14 日は「朝少雨、後晴、暑シ、荒川洪水四合水なり」とあり、荒川が増水する様子が記録されている。さらに同月 28 日から「驟雨時々降リ」、29 日は「昨夜来雨降リ、好湿なり」としつつも、「午後より東北ノ暴風雨トナリ、夜ニ入リ益強く暁ニ至ル、中谷氏夜八時暴風雨中帰ル」とあるように非常に荒れた天候が見られる中、翌 30 日は「半晴、風吹、荒川洪水前回ヨリ大なり」とある。

さらに 9 月は 11 日、12 日に「少雨」があり、13 日夕刻より雨が「大雨」となり、14 日「昨夜来引続き強雨間断なく、十時過ヨリ非常ノ豪雨、庭一面川流をなし、崖崩れ等損害あり、夜ニ入風加リ暁ニ到ル」とあるように、「豪雨」によって崖崩れ等が起きていることが記録されている。

⑮大正 10 年 9 月

大正 10 年は水害の記録こそないが、9 月 4 日に「午後より雷雨、六時頃より大雨大降近来ノ大雨なり」とあり、この前後にも雨天が記録されている。

⑯大正 11 年 2 月

大正 11 年 2 月 14 日未明より雨が降り、16 日に至って「引続き雨降、夜ニ入リ風雨トなり、竹山ノ垣崩壊サル」という被害が確認されている。

⑰大正 13 年 8 月

大正 13 年 8 月 26 日「雨天、正午頃より豪雨日暮ニ至ル、近来ノ大雨なり」とあるが、特に被害については記録されていない。

（2）地震関係

地震についての記載が見られる箇所は 55 日分（計 79 回）に及ぶ。以下、大きな災害につながった地震について紹介したい。

①明治 27 年 6 月、10 月

明治 27 年 6 月 20 日に大きな地震が記録されている。以下、「日並記」本文を引用したい。

「廿日　晴天、午後七時帰院、本日午後二時大地震、近来ノ出来事なり、宝篋塔ノ頭落ツ、墓石大分倒レタリ、東京ハ煉瓦屋土蔵ノ破損、煙筒ノ倒レタルモノ甚多ク、死傷モ余程有之由、夜ニ入リ軽震あり」

この地震は東京湾北部を震央地とし、マグニチュードは7.0とされるもので、「東京地震」とも呼ばれる[15]。埼玉県では主に南部に被害があったようで、川口・鳩ヶ谷で家屋・土蔵破損、鴻巣・菖蒲・川口・越谷では亀裂から砂泥を噴出、飯能で山崩れ等の被害が生じたものとされている[16]。

なお、同年 10 月 8 日も「昨夜八時過激震あり」とある。この地震も東京湾北部を震央とし、マグニチュードは 6.7 を記録している。

②大正 10 年 12 月 8 日

大正 10 年 12 月 8 日には「夜九時半近来ノ大地震アリ」と記録されている。この地震は龍ヶ崎付近を震央とし、規模はマグニ

チュード 7.0 を記録している。

③大正 11 年 4 月 26 日

大正 11 年 4 月 26 日は、「午前十時過大地震アリ十分間フレル、三十年来ノ大地震ノ由、被害ナシ」と記録されている。この地震は浦賀水道付近を震源地とするものであり、熊谷では震度 4 を観測している[17]。10 分間の間揺れるほどの地震であったが、日並記で確認する限り、地福寺では大きな被害は無かったようである。

④大正 12 年 9 月 1 日

大正 12 年 9 月 1 日正午直前、関東全域をマグニチュード 7.9 の大地震が襲った。いわゆる「関東大震災（関東大地震）」である。「日並記」はこの様子を次のように記している。

「朝来風雨荒模様、午前十一時四十分俄ニ大地震揺リ廻リ十四回あり、本堂壁二間崩壊全部ヒビ入リ、花瓶大位牌タヲル損害多大なり、墓地石碑三分ノ一タヲレ地福大半タヲル、鎮守ノ鳥居崩レ、新倉ニテ二、三家屋崩レシ由、此夜警戒ノ為メ消防夫総出ニテ終夜警戒、地震ト同時ニ東京方面大火事夜ニ入リ益盛なり、焼失、本郷、下谷、神田、日本橋、京橋、本所、深川、大半焼失ノ由」

文字にして 200 字に及ばないが、克明な記録が生々しく当時の様子を伝えている。大正 12 年 10 月「震災罹災状況調」によれば、北足立郡の被害は建物が全壊 2,038 戸、半壊 1,771 戸で、死者 107 人、負傷者 215 人であったと記録されている。その中で、現在の和光市域である新倉村・白子村の被害状況は、新倉村で建物全壊 1 ・半壊 1 、白子村で建物全壊 2 ・半壊 0、そして両村とも死傷者は 0 であったという[18]。埼玉県内の被害のおおよそ 1/2 を北足立内で占めているという中において、比較すれば新倉・白子の被害が少ない。しかし、白子地福寺においてどの程度の揺れがあったかは日並記の記録から一目瞭然である。

なお、日並記にはその後も地震があったことが記されており、度々余震があったことを伝えている。

⑤大正 13 年 1 月 15 日

大正 13 年 1 月 15 日「朝六時激震あり、本堂大位牌投ダサル」とある。丹沢山付近を震源地として強震があり、揺れは和光市域でも「激震」であったことがわかる。

（3）日照関係

まとまった雨に恵まれずに日照が続くと、農作物の生育等に影響がある。そこで、時には神仏に降雨を共同祈願する行事として「雨乞」が行われる。『白子の民俗』によれば、白子では戦前に雨乞が行われたことが記録されている[19]。

「日並記」にはこの「雨乞」の記録を数例確認することができる。これは即ち日照に苦しむ人々を表しているものである。ここでは長期間雨が降っていない日照の記録、そして「雨乞」を行っている記録を抜き出してみよう。

①明治 27 年

明治 27 年 6 月 25 日に「頃日来降雨之なく田植付困難、畑作枯渇せんと」とあり、同月 30 日「旱リニテ畑作ニ害アリ」と、降雨が無いことによって畑作に被害が生じていることが記録されている。この年、日照に困った人々は「雨乞」を行うことになる。7 月 27 日の記録には、「雨乞あり、頃日来照リ続ク事廿日余リ、秋作枯渇セントス、近郷ニテ請雨セサル所ナシ」とあるように、周辺地域においても日照の被害に苦慮していたことがわかる。なお、同年 8 月 10 日も「下新倉一同」が「雨乞」をしている。

②明治 31 年

明治31年8月1日の記録に「村方雨乞の事」とある。この年は、7 月 14 日から 7 月 31 の間、7 月 20 日に 1 日だけ微雨があるものの、それ以外は雨天が確認されていない。そのため、雨を望む声は大きかったものと推測される。なお、8 月 1 日は「后三時より雨降、好湿リ、万民悦フ」とあり、幸いにも雨乞当日に降雨が確認されている。

③明治 32 年

明治 32 年 8 月 24 日、25 日に「雨乞」の記録が確認される。やはり 8 月中に雨が少なく、雨を求める声が多かったのだろう。

④明治 33 年

明治 33 年 8 月 11 日に「雨乞」が行われている。7 月 20 日の雨天を最後に、8 月上旬はまとまった雨がなく、雨乞が行われたものと考えられる。

⑤明治 36 年

明治 36 年 8 月 18 日、「早朝微雨あり」とあるが、同日に「村方雨乞ノ事」とある。

この年はその後も 8 月 19 日、20 日を除き 8 月中にまとまった雨には恵まれず、8 月 29 日に「旱リ久シク作物涸渇せり」と記されるように日照の被害がうかがえる。なお、9 月 5 日に「三嶽山ノ御水来リ雨乞之趣」とあり、翌 6 日には再び「雨乞」の様子が記録されている。

⑥大正 3 年

大正 3 年 8 月 7 日、「宿并ニ牛房ニテ雨乞ノ事」、翌 8 日にも「引続き雨乞ノ事」とある。『埼玉県の気象災害』や『新編埼玉県史別編 3 自然』にはこの年の日照被害については見られないが、二度に及ぶ雨乞は作物への影響を推測することができる。

（4）積雪

「日並記」には降雪の記録が多々見受けられる。ここではその中で 1 尺（約 30cm）以上の「積雪」の記録が見られる日を抜き出してみよう。

①明治 32 年 2 月 16 日
②明治 36 年 2 月 3 日
③明治 37 年 12 月 14 日
④明治 39 年 2 月 9 日
⑤明治 41 年 3 月 11 日、4 月 9 日
⑥大正元年 12 月 29 日
⑦大正 3 年 2 月 9 日
⑧大正 12 年 2 月 8 日

「日並記」には積雪の後に起きた具体的な被害については記録が見られない。しかし、少なくとも 1 尺を超える積雪が記録された上記の後は、通行等に被害が生じていたものと考えてよいだろう。

（5）その他

その他、「日並記」の記す災害等を見てみよう。

①大正 11 年 1 月の浅間山噴火

大正 11 年 1 月 14 日の記録には「正午鳴動アリ、アサマ山フン火ノ由」とある。

気象庁ホームページ「浅間山有史以降の火山活動」によれば、この浅間山噴火の概要としては「火砕物降下。噴火場所は釜山火口。連続的に噴石活動、噴煙多量。1920(大正 9) 年 12 月 14 日噴石のため峰の茶屋焼失、軽石多量噴出。12 月 22 日山火事 200ha 以上。1921（大正 10）年 1 ～ 6 月噴火活発、1 月 18 日、6 月 4 日に空振のため山麓で戸障子破損。その他鳴動、降灰。1922（大正 11）年 1 ～ 4 月噴火、噴石、降灰。特に 1 月 14 日爆発音が東京でも聞こえ、山麓で空振のため戸障子破損。」とされている[20]。東京でも聞こえたという爆発音は、確かに地福寺辺りでも「鳴動」として確認されたことがよくわかる。

②明治 43 年 5 月の猩紅熱流行

その他、水害や地震等の自然災害ではない、流行病の記録についての記録があるので紹介しておきたい。

明治 43 年 5 月 12 日の記録に、「本日大清潔法執行、宿中大騒キナリ、猩紅熱病死患者二、三名アリシニ依ル」とある。猩紅熱（しょうこうねつ）は、A 群溶血性レンサ球菌（溶連菌）の感染により起こる感染症である。現在は抗生物質の服用により比較的容易に治療が可能となっているが、かつては人々に恐れられた病気の一つであった。「日並記」の記録からは、猩紅熱の流行によって地域が混乱する状況がうかがえる[21]。

3　まとめにかえて

以上、地福寺の「日並記」から見た和光市

域の気象・災害情報等について概観した。冒頭で述べたとおり、住職の実体験に基づく記録は当時の様子を生々しく語っている。今回は筆者の力量不足と時間的制約により、「日並記」から気象・災害情報を抜き出し、若干のまとめとしたに過ぎない。宇佐美龍夫氏が梅原末治氏の講演を引き合いに指摘するように、「古い日記に地震記事がないからといって、地震がなかったといえないのはごく当たり前のこと」である[22]。その他の自然災害についても当然同様に考えなければならない。「日並記」が記録していない時代の気象・災害情報をはじめとした和光市域周辺に関する災害史の蓄積については、今後他の資料を掘り起こし、少しずつ積み重ねていくより他にない。この点については今後の課題としたい。

もちろん、過去と現在では地形的にも大きな変化があるため、一概に過去の災害をもって現在を予想することは難しい。また、災害を引き起こす自然現象の予想が難しいのは事実である。しかし、そうであったとしても、地域の歴史を振り返る地道な積み重ねが「想定外の災害」を減らすことの一助となれば幸いである。

最後ととなりましたが、貴重な記録を残された故鎌田亮中氏、そして地福寺の皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。本稿執筆にあたり、資料収集には和光市図書館に協力をいただき、校正作業にあたっては田中由美氏・吉村理恵子氏の協力を得ました。その他にも多くの方々のご協力を賜りました。お名前は省略させていただきますが、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

あわせて各地で自然災害に見舞われた多くの方々に心からお見舞い申し上げます。

【註】

1.「平成 26 年 6 月 25 日の大雨に関する埼玉県気象速報」平成 26 年 6 月 26 日　熊谷地方気象台
2.「和光市報道発表資料平成 26 年 7 月 4 日付　6 月 25 日（水）大雨による市内の被害状況（第 4 報）」和光市ホームページ（平成 26 年 11 月 18 日筆者確認）
3.『和光市史民俗編』p679-684
4. 瑞応山地蔵院地福寺 2011『地福寺　縁起とその歴史（リーフレット）』
5. 瑞応山地蔵院地福寺　前掲書
6. 和光市教育委員会 1979『和光市のむかし第 7 集　和光の仏像（和光市仏像調査報告書）』p17
7. 渡辺隆喜 1985「解説」『地福寺日並記』和光市
8. 災害対策基本法第 2 条第一項によれば、災害とは「暴風、竜巻、豪雨、豪雪、洪水、崖崩れ、土石流、高潮、地震、津波、噴火、地滑りその他の異常な自然現象又は大規模な火事若しくは爆発その他その及ぼす被害の程度においてこれらに類する政令で定める原因により生ずる被害をいう。」とされている。
9. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970『埼玉県の気象災害』p40
10. 和光市 1988『和光市史通史編下巻』p212
11. 埼玉県 1986『新編埼玉県史　別編 3　自然』p187
12. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970『埼玉県の気象災害』p63
13. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970『埼玉県の気象災害』p65
14. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970『埼玉県の気象災害』p72
15. 埼玉県 1986『新編埼玉県史　別編 3　自然』p69
16. 埼玉県 1986『新編埼玉県史　別編 3　自然』p62
17. 埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台 1970『埼玉県の気象災害』p186
18. 和光市 1984『和光市史史料編三近代・現代』No.126
19.『白子の民俗』には雨乞いについて次のように記されているので参考に引用しておく。

「水が極端に不足すると雨乞いをした。戦前、牛房、向山、越後山の白子 3 区で、井の頭の弁天さんへ朝 3 時頃出かけ、青竹を切ったものの中に水をもらい、またお札をうけて帰ってきて、竹笹に水をかけて、太鼓を打ちならしながら田畑をまわった

という。同様に、市城でも、神社（社名不詳）の水をもらってきて、それを氏神にあげて、人々は太鼓をたたきながらムラの中を練って歩いたという。また雨乞いのために武州御嶽の札をもらってくることもあった。雨乞いの歌というものもあったというが、その歌詞等は明らかでない。」（和光市史編さん室 1982『白子の民俗』P51）

20. 気象庁ホームページ「浅間山有史以降の火山活動」
http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/306_Asamayama/306_history.html

21. なお、清潔法とは「伝染病予防のため家屋・溝渠・芥溜・便所などの清掃を行うこと」であり、市町村や衛生組合により実施されたものである。（朝尾直弘・宇野俊一・田中琢 1997（2004 再版）『角川新版日本史辞典』角川書店）

22. 宇佐美龍夫ほか 2013『日本被害地震総覧 599-2012』東京大学出版会

【参考文献】

宇佐美龍夫ほか2013『日本被害地震総覧599-2012』東京大学出版会

葛飾区郷土と天文の博物館2007『諸国洪水川々満水 - カスリーン台風の教訓 - 』

葛飾区郷土と天文の博物館2012『葛飾区制施行80周年記念特別展図録　東京低地災害史　地震、雷、火事？・・・教訓！』

熊谷測候所1955『埼玉縣氣象累年報　明治30年～昭和29年』

熊谷地方気象台百年史編集委員会1996『埼玉県の気象百年　- 熊谷地方気象台創立百年紀念 - 』

埼玉県消防防災課・熊谷地方気象台1970『埼玉県の気象災害』

埼玉県1986『新編埼玉県史　別編3　自然』

瑞應山地蔵院地福寺2011『地福寺　縁起とその歴史（リーフレット）』

利根川文化研究会2004『利根川荒川事典』㈱国書刊行会

蓮田市文化財展示館2014『2014企画展　「災害と蓮田」-太古から様々な災害と向き合った人々-』蓮田市教育委員会

飯能市郷土館　2013『飯能方面湖水の如し　- 失われる災害の記憶 - 』

宮瀧交二2002「埼玉考古学史点描・1　和光市白子・地福寺の『お石神様』」『あらかわ』第５号　あらかわ考古談話会

和光市1983『和光市史　民俗編』

和光市1984『和光市史　史料編三近代・現代』

和光市1988『和光市史　通史編下巻』

和光市教育委員会1979『和光市のむかし第7集　和光の仏像（和光市仏像調査報告書）』

和光市史編さん室1982『白子の民俗』和光市

和光市史編さん室1985『地福寺日並記』和光市

なかおか　たかひろ（和光市教育委員会）

付表１　地福寺日並記に記録された天気情報

凡例･・・「昨夜・・・」等、前日のことを記載しているものについては前日の欄に記録した。ただし、当日まで及んでいると思われるものについては、当日にも情報を引き継いでいる。
亮中住職が現和光市域周辺の外に移動していると思われる日は、記載された天気がどの地点によって把握されたものか不明確であるため、参考までにグレーの「網掛（▩）」で表している。

記号･・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。
○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹
◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　〼：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日																													月別各天気日数											左記月別天気の傾向
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	〼	＊	☆	★	⊥	▲	
明治23	1																																									
	2																																									
	3																																									
	4																																									
	5																																									
	6																																									
	7									◎少	◎☆	○	○	○	○	○	○〼	○	○	○	○	○	○少	◎	少	◎●	◎〼●	●	○	◎〼●	○	○	15	6	0	4	3	3	0	1	0	0	0	
	8	○〼●	●☆	◎●	◎少	○	○	○	○☆	○	○	●★	◎●	◎●	◎☆	◎●	◎	◎●	○	半☆	○●	◎	●★	○	○	○	○	○●	●	●★	★	○少	15	9	1	13	2	1	0	4	4	0	0	
	9	○	●	○	半●	○	○	○	○	◎少	○	○☆	○	●	半●	●	●	◎	○	◎	●	◎	●	◎	◎〼●	●	○	○	○	○	○		15	6	2	10	1	1	0	1	0	0	0	
	10	○	○●	●	●	●	●	半	◎	●	●半	○少	○	◎少	○少	○●	○	◎少	○	○	○	○	◎少	少	○	○	◎	○	○	○	○	○	18	5	2	8	6	0	0	0	0	0	0	
	11	○●	○	○	○	●	○	○	○	◎●	●○	○	◎●	○	○	半	○	○	●	○	○	○● ⊥	●	○	○	○	◎	○	○	◎	○		22	4	1	8	0	0	0	0	0	1	0	
	12	○	◎少	少	少	◎	◎○	○	◎●	○	半	◎	○	◎●	○〼●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎●	○	○	○	◎	○	◎少	○	20	9	1	4	4	1	0	0	0	0	0	
明治24	1	○	○	○	◎＊	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●＊	28	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0	
	2	○	○	○	○●	●	●	◎	◎	◎	半	○	○	○	半	○	○	半	○	○	○	○	◎	◎少	○	○	◎	◎少	●				15	7	3	4	2	0	0	0	0	0	0	
	3	○	○	◎	●	◎	●	◎	◎	◎少	●	◎▲	○	○	○●	○★	○	●	○	○	◎●	●	●	◎	◎	○	○	○	●	○	○	○	15	9	0	9	1	0	0	0	1	0	1	
	4	◎	◎少	◎	○	○	●	○	○	◎○	○	○	○	◎	◎少	○●	◎少	◎●	◎少	○	○〼	○	○	○	○●	○	●	◎	○	○〼少●	●		18	10	0	7	5	2	0	0	0	0	0	
	5	○	○	●	○★	○	○	○	○少	○	◎	○少	○	○	○	○	◎●	◎	○													14	3	0	2	2	0	0	0	1	0	0	
	6																																									
	7																																									
	8																																									
	9																																									
	10																																									
	11																																									
	12																																									
明治25	1																																									
	2																																									
	3																																									
	4																																									
	5																																									
	6																																									
	7																																									
	8																																									
	9																																									
	10																																									
	11																																									
	12																																									

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹

◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　〼：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日																														月別各天気日数										左記月別天気の傾向
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	〼	＊	☆	★	⊥	▲	
明治26	1																																										
	2																																										
	3																																										
	4																																										
	5																																										
	6																																										
	7																																										
	8																																										
	9																																										
	10																																										
	11																																										
	12																																										
明治27	1																																										
	2	○	○	○	○	○	○	○●	●	○	○	◎●	◎	○	○	○	◎＊	○	○	○	○	＊	○	○	○	○	○	○	○				23	3	0	3	0	0	2	0	0	0	0	
	3	○	○	○少	◎	●	◎	◎少	◎＊	◎●	●	●○	○	○	○	●	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎少	少	◎	●	◎〼	○	○	16	10	0	6	4	1	1	0	0	0	0	
	4	○	○	○	○	◎	●	◎	●	●	●	○	◎●	●	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎●	○●	◎	●	●	○	◎	◎		15	8	0	10	0	0	0	0	0	0	0	
	5	◎	○	○	●	○	○●	●	●	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	●	○	◎	○	○	○☆	○	○	◎	○	17	10	0	5	0	0	0	1	0	0	0	
	6	○	○	●	○〼	◎〼●	○	○	●	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○〼●	○少	◎	○	◎	○〼●	○〼●	◎	○	○		22	4	0	8	1	5	0	0	0	0	0	
	7	○	◎	○少	○〼●	○	◎☆	●	○	○	○〼少	○〼●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○〼●	○	○	○	○少	○	○●	○	○〼	○	○	28	2	0	5	3	5	0	1	0	0	0	
	8	○	○	○	○	○	◎○	○	○少	○●	●	★	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	○	○●	○	○	○	○	○	○	○	○	26	1	0	6	1	0	0	0	1	0	0	
	9	○	●	●	〼●	●	〼●	●	◎	◎少	◎	○●	○	○	○	◎少	○	◎	少	少	◎	◎	○	○	○	◎	◎少	◎	○	●	●		9	11	0	9	5	2	0	0	0	0	0	
	10	●	○〼●	○	○●	○	○	◎	●	○	○	○	○	◎●	●	◎●	●	◎	◎	○	◎	○	○●	◎●	●	○●	●	◎	○	○	●	○	16	8	0	14	0	1	0	0	0	0	0	
	11	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○●	●	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○◎	◎●	●	◎	○	◎	○	●		22	4	0	7	0	0	0	0	0	0	0	
	12	○	●	○	○	○	○	○	○	○	●★	○	○	○	○	◎＊	○	◎●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○少	○	○	○	27	2	0	3	1	0	1	0	1	0	0	
明治28	1	○	○	○	○	○	○	○	○	●	◎少	少	◎	○	○	○	○	◎＊	＊◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○●	○	○	○	○	24	5	0	2	2	0	2	0	0	0	0	
	2	◎＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○●	○	○	○	○	○●	○	○	○●	◎＊	○	○	○	○	●○	○	○	○	○＊				26	2	0	4	0	0	3	0	0	0	0	
	3	＊	＊	◎	○	○	○	○	○●	●	◎	○	○	◎	＊	●	●	●	◎	◎	○	○	◎	○	○	○	◎少	◎少	◎	●	半〼●▲	○	13	9	1	7	2	1	3	0	0	0	1	
	4	○	○	◎	○	○	○	◎	●	○	○	○	○	○	◎●	○	●	○	○	○●▲	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○		24	3	0	5	0	0	0	0	0	0	1	
	5	○	○	◎	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○●	◎〼●	○少	○	○	○	○	○	○	◎●	●	◎	○	○	○少	25	4	0	5	2	1	0	0	0	0	0	
	6	○	◎	○●	○●	○◎少	○	○	●	○	○	◎	◎	◎少	○	●〼	○〼●	○	○	◎●	○	○	◎	◎	○●	○	◎●	●	○	○	◎		18	10	0	9	2	2	0	0	0	0	0	
	7	○	●	●	◎	○	◎	○	●	○	○	◎	●	○	○	◎	◎●	●	○●	●	●	○	●	○	◎●★	★	○	●	◎●	●	少	◎	11	8	0	14	1	0	0	0	2	0	0	
	8	◎	●	●	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○●	◎	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	22	6	0	4	0	0	0	0	0	0	0	
	9	○	○	○		○	○☆	○	○☆★	○	○	○	○	○〼●	○	○	○	○	○	○	○	◎	●	●	●	●	●	●	●	○	○		21	1	0	8	0	1	0	2	1	0	0	
	10	●	◎	○	◎少●	●○	○	○	●	半	◎	○	○	○	◎	●	○	◎少	●	◎	○少	○	●	●	●	●	○	◎	○	○	●	○	14	7	1	11	3	0	0	0	0	0	0	
	11	○	○	●	◎	○	○	○	○	○	○	◎	◎少	◎●	○	○	○	○	○	◎少	○	◎●	●	○	○	○	○	◎	○	○	○		21	7	0	4	2	0	0	0	0	0	0	
	12	○	○	○	●	◎少	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎●	○	○	○	○● ＊	○	○	○	○	●	◎〼●	○	○	○	○	25	4	0	5	1	1	1	0	0	0	0	

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴　　半：半晴・半曇　　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　　▲：雹・雨混じり雹

◎：曇天・曇り　　●：雨・大雨・豪雨　　🗲：雷　　☆：驟雨　　⊥：大霜・霜

年	月	日																														月別各天気日数											左記月別天気の傾向
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	🗲	＊	☆	★	⊥	▲	
明治29	1	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎少	◎＊	○	○	○	○	○	○	●	○＊	○	○	○	26	4	0	1	1	0	2	0	0	0	0	
	2	○	○	○	◎●＊	◎	○	◎	○	●	◎少	○	○	＊	○	○	○	○	○	◎＊	＊	○	○	○	◎●	○	○	◎	◎	●			17	8	0	4	1	0	4	0	0	0	0	
	3	◎	○	◎●	●	◎	○	○	○	○	○	◎＊少	●＊	○	○	○	○	◎	◎	◎少	◎	◎	○	◎	少	○	◎	◎●	○	○	○	◎	15	13	0	4	3	0	2	0	0	0	0	
	4	●	○	○	○	○	○●	●	○	○	○	○	○	○	○●	●	●	○	○	●	○	少	●	○	○	●	◎●	○	○	○少	◎少		20	2	0	10	3	0	0	0	0	0	0	
	5	◎	○	○●	◎	○	○	●	○	○	○	○	●	◎	○	◎	●	○	○	○	◎	●	●	○	○	◎少	○	○	○	少	○	○	19	6	0	6	2	0	0	0	0	0	0	
	6	○	○	○●	●	○	○	○	●	●	○	◎	○	○少	○	◎	◎	少	○	◎	●	◎🗲●	○●	●	●	○	○	少	○	●	●		15	5	0	11	3	1	0	0	0	0	0	
	7	◎	◎	少	少	半	●	●	半	◎	半	●	○	◎●	◎○	半●	◎○	◎	●○	○少	少	少	○	○	○	○	◎少	◎	○	○	○	12	8	5	6	6	0	0	0	0	0	0	
	8	○	○少	○	○少	○	○少	○	○	○●	○	○	○●	○少	○	○	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○少	少	○	●	○	●★	★○	25	0	0	7	6	0	0	0	2	0	0	
	9	○	少	◎	◎	○	○	○	★	★	★	半★	★	半	半	●	●	○	●	○	◎少	○	○	○少	◎	○	少	○	●	○	◎		12	5	3	4	4	0	0	0	5	0	0	
	10	●	●	●	半	●	◎	●○	○	◎少	◎	○	○	●	○	○	○	○	○●	○	○	○	○	◎少	○	少○	◎○	○	◎	○	○	◎●	19	7	1	8	3	0	0	0	0	0	0	
	11	○	○●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	少	○	◎🗲●	半	○	○	○	○	◎●	○	○	○	●	○	○	○	◎●		24	3	1	5	1	1	0	0	0	0	0	
	12	○	○⊥	○	○	○	○	○	○	○	○	○少●	○	○●	○	○	○	○	○		●	○	＊	○	○	○	○	●	○	○少	○	○	27	0	0	4	2	0	1	0	0	1	0	
明治30	1	○	○	○	○	○	○	◎	○	●＊	○	○	半	◎●＊	＊	●	◎	○	●	＊	○	◎	○	○	○	○	半	○	○	○	○	半●	19	4	3	5	0	0	4	0	0	0	0	
	2	●	●	○	○	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○	○	◎	◎少	○	○	◎＊	＊	○	○	◎	○	◎少	○	○	◎				17	8	0	2	2	0	2	0	0	0	0	
	3	◎	○	○	○少	◎	○	○	●	●	○	○	◎	○	○	●	○	◎	○	●	少	◎	○	○	○	○	●	●	●	○	●	○	17	5	0	8	2	0	0	0	0	0	0	
	4	◎	●	●	○	◎	○●	●	○	●	少○	○	○	○	○	◎少	◎	◎	●	●	◎	◎	◎★	○	○	少	○	◎	●	○	○		13	9	0	8	3	0	0	0	1	0	0	
	5	○	○	●	○●	○	○	◎少	○	●	○	◎●	◎	◎	○	○	●	○	◎	○	○	○	○	○	○🗲●▲	○	◎	◎	○●	●	○	20	7	0	8	1	1	0	0	0	0	1	
	6	○	○	○少	◎少	●	●	●	◎	◎	◎	○	○	○少	◎少	◎●	●	◎少	○	○	○	○	○	◎	○少●	◎●	●	◎	○	◎	◎		13	12	0	8	6	0	0	0	0	0	0	
	7	●	●	◎	○	○	○	●	●	◎	○	○	○🗲●	●	○🗲●	◎少	少	◎	少	●	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○☆	●	◎	16	6	0	9	3	2	0	1	0	0	0	
	8	○	○	○	○	◎	◎	◎少	◎●	○	○	◎	○	○●	○🗲●	○少★	◎少	◎	○	○	○	○●	○	○	○	○	○●	●	少	少	○	●少	20	7	0	7	6	1	0	0	1	0	0	
	9	○	○	◎	○	●	●	●	🗲●★	○	○	○	○	◎★●	●	●	●	◎	◎	◎	◎少	●	半	○	●	◎	○●	●	◎	●	○少		10	8	1	13	2	1	0	0	2	0	0	
	10	○	○	○	○	●	●	●	●	◎🗲	半	○	◎●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○●	●	◎	○	○	○	◎	○	○	○	21	4	1	7	0	1	0	0	0	0	0	
	11	○⊥	○	○	○●	●	●	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	○	◎●	●	○	●	○	◎少	○	少●🗲	◎	○	○	○	○	○	○		19	6	0	7	2	1	0	0	0	1	0	
	12	○	○	○	○	○	○	○	○◎少	○	○	◎＊	半○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	
明治31	1	◎少○	◎	◎●	＊	半	◎	半	○	○	○	○＊	◎少	○	○	◎●	●	○	◎＊	○	○	○	○	●＊	＊	＊	○	○	●	○	◎	○	16	8	3	5	2	0	6	0	0	0	0	
	2	○	○	○	○	○	○●	●	○	半	＊	○	○	○	○	○	◎	○	○●	○	◎	○●	＊	○	○	○	○	○	○				22	2	1	4	0	0	2	0	0	0	0	
	3	○	◎	◎	◎＊	◎	○	○	○	○＊	◎	○	○＊	＊	○	◎	◎	○	●	●	●	半	○	半	半少	○	○	○	○	○	◎	◎	15	9	3	3	1	0	4	0	0	0	0	
	4	●○	半	●	半	●	●	○	半	◎●	○	◎	○	○	○	○	半●	○🗲●	半🗲●▲	○	○	◎	○	○	●	●	○	○	◎●	○	○		16	4	5	11	0	2	0	0	0	0	1	
	5	○	●	●	○	○	○	○	◎●	●○	○	◎	○	◎少	○	○	○	●	●	○	○	●	○	○	○少	○	○	○	○	○	●	○	22	3	0	8	2	0	0	0	0	0	0	
	6	○	○	●	◎●	●	○★	○	○	○	○	●	●	●	◎●	◎	◎	◎●	●	●	◎	◎●	◎	○	○少	少	●	●	●	○	○		11	8	0	14	2	0	0	0	1	0	0	
	7	○	○	○	○	○	◎少	●	○	○	○	○	○●	●	○	◎	○	○	○	○	○	○少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	27	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	
	8	◎●	○●	◎少	◎少	○	○	○●	半	●	○	◎	半	○	◎●	◎	○	○少	○	○	○	○	○🗲●	○	半★	★	半	○	○	○	半	○🗲●	18	6	5	7	3	2	0	0	2	0	0	
	9	★	○	★○	○	半少	●★	★○	◎	○	○	○	◎●	◎少	●	●	◎●	◎	○	○	○	○	○	●	◎●	●	半	○	半●	●	○		14	6	3	10	2	0	0	0	4	0	0	
	10	●	○	○	半	◎●	●○	○	○	●	○	半	○	○	○	○少	○	○	○	○	●	○	◎	○	◎	●	○	○●	○	○	○	○	22	3	2	7	1	0	0	0	0	0	0	
	11	○	◎●	●	○🗲●	○	●○	○	●	○	○	○	○	◎少	○	○	○	○	●	○	◎少	◎	◎●	●＊	○	○	◎●	○	○	○	●		19	6	0	10	2	1	1	0	0	0	0	
	12	●	●	●	○	◎	●	○	○	●	◎	○	◎	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○＊	○	○	○	○	●	○	○	○	○	21	3	0	7	0	0	1	0	0	0	0	

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹

◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　🗲：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日																													月別各天気日数											左記月別天気の傾向
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	🗲	＊	☆	★	⊥	▲	
明治32	1	○	○	○少	○	○	○	○	○	○	○	○	○●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎＊	◎	◎	○	◎少	●	◎	○	24	5	0	3	2	0	1	0	0	0	0	
	2	○	○	○	○	●	◎	半▲	○	○	○	○	○	○	○	○＊	＊	○	◎＊	○	○	○	少	●	●	○	○	◎少	◎●				18	4	1	4	2	0	3	0	0	0	1	
	3	●	●	半	●	○	○	○●	○	○	＊	○＊	○	○	○	○	◎★	○	○	○	○	○	○	○	◎●	○	◎★	○	○	○	半★	★	21	3	2	5	0	0	2	0	4	0	0	
	4	○	○	◎少●	●	◎少	◎	●	○	○☆	○	○	●	○	少	○	○	◎少	◎	○	◎少	◎●	●	○	○	○	○	○	○	○	○		18	7	0	6	5	0	0	1	0	0	0	
	5	○	○	●	○	◎	◎●	●	○	◎	○	○	●	○	○	○	○	◎○	○	○	◎少	○	○	○	○	○	○少	○	◎	◎	○	●	21	7	0	5	2	0	0	0	0	0	0	
	6	●○	○	◎●	◎●	◎	◎	○	●★	●○	○	○	◎	●	◎	○	○	○	○	○	◎🗲●	●	●	●	◎	◎	少	◎○	○	○	●		14	10	0	11	1	1	0	0	1	0	0	
	7	◎	◎	◎少	◎	◎	◎☆	◎	●	●	●	●	◎○	◎	○	○	◎🗲●	●	◎	◎	◎	◎	●	○	○少	★○	半	少	○	○	○	◎少	9	15	1	7	4	1	0	1	1	0	0	
	8	●○	○	●	◎少	◎	○	◎少	○	○	○	○	○	○	○少🗲	○	○	○	◎	○	○	○	○	○少	○	○	○	○	○	★	少	少●	23	4	0	3	6	1	0	0	1	0	0	
	9	◎	●	○	◎	◎	◎少	●★	●	○	○	○	◎●	○	○	○少	○	○	○	◎	◎少	●	◎	○	◎●	◎●	●	◎	○	●	●		12	11	0	10	3	0	0	0	1	0	0	
	10	○	○	○	○	●	●	●★	○	○	○	○	◎●	○	○	◎●	●○	○	○	○	●	○	○	◎●	○	○	○	○	少	🗲●	○	○少	22	3	0	9	2	1	0	0	1	0	0	
	11	●	○少	○	○	○	○	○	○	○	◎	○●	●○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○	○		26	3	0	3	1	0	0	0	0	0	0	
	12	◎	○	◎	◎	○	○	●	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●＊	○	○	●	○	◎★	○	○	◎	○	○	◎＊●	○	○	21	7	0	4	0	0	2	0	1	0	0	
明治33	1	○	◎	○	○	◎	＊	◎	◎	○	◎＊	◎○	○	○	○	○	○	○	○	○	○＊	＊	○	◎●	◎	◎	○	○	○＊	○	○	◎	20	10	0	1	0	0	5	0	0	0	0	
	2	○	◎	少	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎＊	＊	○	●	○	○＊●	○	○	○	○	○	○				21	4	0	2	1	0	3	0	0	0	0	
	3	○	●	○	◎	○	○	◎	◎	○	○少	○少	○	○	◎●＊	◎	◎	◎	●	◎＊	○	○	●	○	少	●	◎	少	◎🗲●	○	○	○	15	10	0	6	4	1	2	0	0	0	0	
	4	◎少	○	○	○	○	○少	半	○	◎	●	◎	少	●	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	●	◎	◎少	●	●	●	◎	○	○		13	9	1	6	4	0	0	0	0	0	0	
	5	○	◎●	●	○少	○🗲少	○	◎少	少	◎	○	○	○●	●	○	○	○	○	○	○	○	◎	●	○	○	●	○	○	○	◎	●	●	18	5	0	9	4	1	0	0	0	0	0	
	6	○	◎○	○	○	○	●	●○	○	○	○	◎●	◎	○	○	○少	◎	◎	○	○	○	○	○	○☆	◎	◎●	○	○	○	◎	◎少		21	9	0	4	2	0	0	1	0	0	0	
	7	少	◎	○	○	◎少	少	少	●	◎🗲	○	○	●	○	○少	○少	●	●	●	○	●	○	○	○	◎少	○少	○	○	○少	◎	◎少	○	16	6	0	6	10	1	0	0	0	0	0	
	8	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○🗲●	○●	○●	◎	○	○●	★	○★	○	○	○	○	○★	○	○	○🗲●	◎○	◎○	○	◎少	27	5	0	5	1	2	0	0	3	0	0	
	9	○	○	○	○	○	○🗲●	●	●○	◎	○	○	●	半	○●	半	○	○	半少●	●★	○	半	○	●	●	○	○	○●	★	半	●		17	1	5	11	1	1	0	0	2	0	0	
	10	○	○少	●	○	○	少●	○	○	●	○	◎	●	●	●	○	○	○	○	○	○●	◎	◎少	○	○	○	◎少	○	◎	○	少	19	5	0	7	5	0	0	0	0	0	0	
	11	●	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	●	◎	○	○	◎	●	●	◎少	○	○	○	○	少	○●	●	○	○	◎	●	○		16	7	0	7	2	0	0	0	0	0	0	
	12	○	○	○	○	○	◎●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎少	○	○	○	○	○	○	○	○少	○	○	◎	27	3	0	2	2	0	0	0	0	0	0	
明治34	1	○	○	○	◎●	●	◎	●	◎	半	○	○	○	○	◎少	○	○	●＊	○	○	○	◎＊	◎	○	○	○	◎少	○	○	◎	○	○	19	8	1	4	2	0	2	0	0	0	0	
	2	●	◎	○	○	○	○	＊○	○	○	○	◎	半	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎＊	○	○	○				23	3	1	1	0	0	2	0	0	0	0	
	3	○	◎	◎＊	○	○	○	●	○	○	○	●	○	○	○	○	◎●	○	○	○	○		○	◎●	●	○	○	○	○	◎●	●	○	21	5	0	7	0	0	1	0	0	0	0	
	4	○	○	◎少	●	○	◎	◎●	◎	◎	◎●	○	○	○	○	○●	●	○	○	○	●○	○	◎	少○	○	○	○●	●	○	◎●	○		19	8	0	9	2	0	0	0	0	0	0	
	5	○	○	○	◎	●	◎	●	◎	◎●	●	●	●	○🗲●▲	○	○	○	○	★	○	○	○少	◎	◎●	●○	◎	○	○	○	○	○🗲●	○	18	7	0	10	1	2	0	0	1	0	1	
	6	○	◎●	●	●	半	◎少	◎少	○●	◎	○	◎少	◎	○	○	少	○	○	○	○	○	◎	●	◎●	少	○	◎	◎●	少	○	少●		12	10	1	8	7	0	0	0	0	0	0	
	7	●	●	●	半	◎●	●	●	◎●	●	◎	○少	●	○	●	◎●	◎	●	半	○	○	🗲●	●	◎	○	○	○	○🗲●	◎	半少	○	○	10	7	3	15	2	2	0	0	0	0	0	
	8	○	○	○	○	○	○	●	◎	◎	●	◎	○	○	○	○	○	○少	○	○	○	○	◎☆	●	○少	○	○	○	○	◎	○	○	22	6	0	3	2	0	0	1	0	0	0	
	9	○少	◎	●	半●	●	●	◎	○☆	半	○	◎●	◎	○	○少	◎	○	○	○	○	◎少	○●	○	○	◎	少	◎●	◎	◎	◎少	○		13	11	2	7	5	0	0	1	0	0	0	
	10	○	○	○	少○	少	●	●	●	●○	○	○	○	●	◎	○	◎	●	●	●	○	○	○	○	●	◎	○	◎	●	◎	●	○●	15	5	0	12	2	0	0	0	0	0	0	
	11	●	◎	○	◎	●	●	◎少	○	○	○	◎	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎少	○	○	○	○	○	○	○	○		19	8	0	3	2	0	0	0	0	0	0	
	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎○	○	○	○●	○	○	○	○	◎	●★	★	○	○	○	○	○	28	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹
◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　〼：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日																														月別各天気日数											左記月別天気の傾向
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	〼	＊	☆	★	⊥	▲	
明治35	1	○	○	○	○	○	○	○＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	少	27	1	0	0	1	0	4	0	0	0	0	
	2	少	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	＊	○	○	○	○	半	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				24	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	
	3	●	○	○	○	半	○	○	○	○	○	○	○	◎少	少	○	○	◎○	○	○	○	◎	少＊	＊	＊	少●	○	少	半	○	◎	半	18	4	3	2	5	0	3	0	0	0	0	
	4	少	少●	○	○	○	○	●	○	少	少	○	○	○	○	◎	○	○	○	●	○	◎	○	○	●	○	●	○	○	●	○		19	2	0	6	4	0	0	0	0	0	0	
	5	○	◎	○	○	●	○	○	●	○	○	◎	◎⊥	◎●	◎	●	◎	◎〼●	半	半	半	○	◎	○	●○	○	○●	少	◎●	●	●	●	12	9	3	11	1	1	0	0	0	1	0	
	6	◎	○	○	○	○	少	●	○	○	○	◎	○	◎少	◎	●	●	少	●	●	●	○	○	○	○少	○	○少	◎少	●	●	●	14	5	0	9	6	0	0	0	0	0	0	
	7	●	●	●	●	半	○	○●	○	○	○	○	○	○	少	○	少	少	少	●	◎●	半	○	少	○	○少	●	◎少	半少	●	少	○	12	2	3	9	10	0	0	0	0	0	0	
	8	◎	●	●	●	●	○	●	●	●	○●	●	●	○	◎	○	◎	◎	◎	●	○	○	◎○	○	半	半	◎●	半	○	○	○	○	12	7	3	12	0	0	0	0	0	0	0	
	9	○	半	○	半少	半少☆	少	★	少	◎	少	○	○	◎少	◎●	◎	●少	○	○	○	○	○	◎	少	少	◎	少	●	★	★	○		10	6	3	3	10	0	0	1	3	0	0	
	10	◎	○	◎	○	半	少	○	○●	○	◎	○	○	○●	●	◎	◎少	●	○	○	○	○	○	○	○	●	●○	○	○	◎少	半	◎	18	7	2	6	3	0	0	0	0	0	0	
	11	●	●	少	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎●	○少	○	◎	◎	◎少	○	○	○	○	少	少●	●○		18	7	0	5	5	0	0	0	0	0	0	
	12	○	○	◎少	◎	◎	◎少〼●	○	●	●	○	◎	●	半●	●	○	○	○	○	◎	○	◎●	●○	○	○	○	○	○	○	○	○	半	18	7	2	8	2	1	0	0	0	0	0	
明治36	1	◎○	○	○	半	○	◎＊	○	○	○●	◎	○	○	○	半	半	半	●＊	○	●	●	半	○	○	○	○	●	●	●	半	○	◎＊	16	4	6	7	0	0	3	0	0	0	0	
	2	半	○	＊	○	○	○	○	●	○	○	○	○●	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎少	○	◎少				22	2	2	2	2	0	2	0	0	0	0	
	3	◎	○	○	少	◎	◎	○	◎	◎	少	◎	●○	●	半	●	●	●	○	◎	●	○		○	●	○	○	◎少	○	◎	○少	少	11	9	1	7	5	0	0	0	0	0	0	
	4	半	●	○	○	○	少	○	◎	半	◎	◎	○	○⊥	◎少	○	少	●	○	○	◎	●	●	○	○	○	◎●	○	◎	●	少		13	7	2	6	4	0	0	0	0	1	0	
	5	少	○	○	○●	●	○	○	◎●	○	○	○	◎	◎少●	●	○	○	○	◎●	●	○	◎少	○	○少	◎	◎	◎少〼●	○	○	○	半少	◎少	17	9	1	8	7	1	0	0	0	0	0	
	6	半	◎少	○	○	○	○	○	○	◎	○	◎●	◎	○少	○	○〼●	○	◎	○	○	◎	●	○	○少	◎〼●	◎〼●	半〼●	●	●	●	○		16	8	2	9	3	4	0	0	0	0	0	
	7	●	○	○	◎●	●	少	●	◎●	●★	半	半	半	半	●	●	○	○	○	○	○	少	○少	◎	少	◎	●	◎少	○	○	○	○少	少○	12	5	4	9	7	0	0	0	1	0	0	
	8	○	少	少	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○少	○	○	○少	○〼●	半〼●	○	半	半	○	○	○	少	○	○	○	○	24	1	3	2	5	2	0	0	0	0	0	
	9	○	○〼●	○	○	○	◎〼	◎	◎少	●	○	◎少	少	◎●	◎	◎	半	半	○	〼●	〼●	●	●	★	○	○少	○	少	○	●	●		11	7	2	9	5	4	0	0	1	0	0	
	10	●	★	◎少	○	半	○	○	●	○	◎少	○	●	●	●	○	半少	●	○	◎	○	○	◎●	○	○	○	○	●	●	◎	●	●	13	5	2	11	3	0	0	0	1	0	0	
	11	●	○	○	◎	○	○	◎	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	少	○	○	○	○	◎少	○	○	○	◎少	半	○	◎		21	5	1	2	3	0	0	0	0	0	0	
	12	◎●	○	○	○	○	○	○	◎少	○	○	○	○	○	○	○◎	●	○	○	○	○◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎●	○	○	26	6	0	3	1	0	0	0	0	0	0	
明治37	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○◎	○	○	○少	◎少	◎○	◎＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○少	◎	半	26	6	1	0	3	0	1	0	0	0	0	
	2	○	○	◎少	○	○	○	○＊	◎	◎	○	●○	○	○	○	○	少＊	＊	○	○	○	◎	○	○	少	◎少＊	◎	＊	少	○			18	6	0	1	5	0	5	0	0	0	0	
	3	○	●	○	○	●	●	○	●	○	少	少	◎	＊	○	○	○	○	◎＊	●	○少	◎少	○	○	○	◎少	○	◎少	少	○	○	◎	16	6	0	5	7	0	2	0	0	0	0	
	4	○	◎	◎	◎	●	○	○	○	○	○	○	○	○	少	◎	●	○	○	●	●	◎	○	○	○	○	◎	●	○	○	◎少		17	7	0	5	2	0	0	0	0	0	0	
	5	◎	●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	◎	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	○	少	◎少	◎	◎	19	5	0	6	2	0	0	0	0	0	0	
	6	半	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	●	●	少	◎	◎少	少	◎	少	◎	少	◎	◎	半	少	◎	○	○	○	◎○	○		11	11	2	2	6	0	0	0	0	0	0	
	7	○	◎	○	○	○	○	○	○☆	★	★	◎☆〼●	◎	○	◎少	◎●	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎少	●	○	◎	○〼●	◎〼●	◎〼●	少〼●	17	10	0	7	3	5	0	2	2	0	0	
	8	○	○	○〼●	少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎少	○	○	○	●	少	27	1	0	2	3	1	0	0	0	0	0	
	9	少	◎	●	○	◎	少	◎	○	◎	○	○	少	○〼●	○	○	●★	★	○	●	●	●	○	○	◎	●	●	○	◎	○	○		13	6	0	8	3	1	0	0	2	0	0	
	10	○	◎	●	○	●	○	◎	○	◎●	●	○	◎	●	●	◎少	◎	●	●	○	◎	○	半少	半	○	○	○少	○	○	○	○	○	15	7	2	8	3	0	0	0	0	0	0	
	11	○⊥	○	○	○	○	少▲	○	○	○	○	○	○	○	○	○少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	少	○	○	◎	少		25	2	0	0	4	0	0	0	0	1	1	
	12	◎	少	○少	○	○	○	○	○	○	○	○	◎少	●＊	＊	◎●	●○	○	○	○	○	○	○●	○	○	○	○	○	○	○	少○	○	25	3	0	4	4	0	2	0	0	0	0	

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹

◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　🗲：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日																													月別各天気日数										左記月別天気の傾向
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	🗲	＊	☆	★	⊥	▲	
明治38	1	○	○	○	○	○	半●	○	○	○	○	○	○	○	●	○	少	○	○	○	○	◎●	半	○	○	○	○＊	◎○	◎	○	◎	◎＊	23	5	2	3	1	0	2	0	0	0	0	
	2	半＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○＊	＊○	○	半	○	○	○	半	○	○				25	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	
	3	○	○	○	●	○	○	○		○	○	○	○	◎●	○少	●○	◎少	◎○	◎	○	◎	＊	○	○少	少	◎少	○	◎	○	○	○	◎少	20	8	0	3	6	0	1	0	0	0	0	
	4	●	●	少	少	◎少	●	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	◎●	●	○	◎	◎	○	◎🗲	○	○	少○	少	少	○	○	○少		16	6	0	5	7	1	0	0	0	0	0	
	5	少	○	◎●	○☆	○	○	●	◎	◎少	●	◎少	○	○	○	○●	●	○	●	🗲●	●	○	○	○	○🗲●	○	◎少	○	○	○	○	少	18	5	0	9	5	2	0	1	0	0	0	
	6	少	○	◎	半少	○	◎少	◎	○	○	◎少	●	○	○	●	少	●	●	●	●	●	○	●	●	○	半☆	半少	◎少	●	○	少		9	5	3	10	8	0	0	1	0	0	0	
	7	少	半	○	○	少	◎	◎	○	○	○	●	●○	半	○	○🗲	○	○	○	◎★	◎🗲●	○	◎	○	◎	◎	◎少	○	少	少○	○	●	16	8	2	4	5	2	0	0	1	0	0	
	8	○	◎少	○	●	○	●○	○	○少	○	○	○	○	○少	●	◎少	◎	●	○☆	◎	●	少	少	●	◎	●	●	◎🗲●	少	半	半	○	13	6	2	9	7	1	0	1	0	0	0	
	9	◎	半	◎	○	○	○	◎少	○	◎	○	○	○	○	半	○	○	◎少	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○少	少	◎	半		17	6	3	3	4	0	0	0	0	0	0	
	10	●	◎	○	○	○	🗲●	○	○	◎少	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	○	◎	○	◎	◎	○	○	○	○	○	20	5	0	6	1	1	0	0	0	0	0	
	11	○	◎	●	●	◎	○	○	◎●	●	○	○	○	○	○少	少	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○		21	3	0	6	2	0	0	0	0	0	0	
	12	○	○	○	○	●	少	●	○	○	○	●	半●	○	○	○	○	●	●	半	半	少	○	○	○	○	●	半	半	◎＊	半＊	◎	15	2	6	7	2	0	2	0	0	0	0	
明治39	1	○	○	○	○	半	○	○	○	○	少●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○＊	○	○	○	○	＊	◎	○	○	○	○	○	27	1	1	1	1	0	2	0	0	0	0	
	2	◎	●	○	○	○	○	○	○＊	＊	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	＊	●＊	●	●	◎少	◎	半	＊	●				15	4	1	5	1	0	5	0	0	0	0	
	3	○	○＊	＊	○	◎＊	＊○	○	○	○	○	◎●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	少＊○	◎	少	◎少	○	◎●	○	◎少	少	○	21	7	0	2	5	0	5	0	0	0	0	
	4	○	○	◎	○	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	◎●	○🗲●	○	○	○	○	◎	★	○	○	◎少	◎	◎●	○	○		21	6	0	5	1	1	0	0	1	0	0	
	5	◎	○少	●	○	○	○	○	半	●	○少	○	○	●	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	◎少	○	○	○	○	●	○	○	○	○	21	5	1	4	3	0	0	0	0	0	0	
	6	◎	◎	◎	少	少○	○	○	○	●	半	○	◎	◎	少	○	○	○	●	●	○	○	少●	少	●	●	○	○	○	少	少		13	5	1	6	7	0	0	0	0	0	0	
	7	●	●	少○	○	少	少	◎	◎	◎	○	○	●	少	★	🗲●	少	○	○	◎	○少	◎	○	○	○少	●	◎少	★	★	○	◎○	○	13	7	0	5	8	1	0	0	3	0	0	
	8	○	○	○	◎●	半	◎	◎	◎	◎	◎	半	○	半少	●	○	○	●	○	○	○	○	○☆	○☆	少★	○	◎	◎	半	○	○	○	16	8	4	3	2	0	0	2	1	0	0	
	9	◎少	少	○	○	○	◎少	◎●	○	◎少	少	●	●	●	◎	半	○	●	●	○	○	少	●	●	半	◎	●	◎	○	○	半		9	7	3	9	6	0	0	0	0	0	0	
	10	○	●	●	◎	●	●	○	○	○	○●	●	○	○	○	○	少	◎	○	◎	◎	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○	少	16	5	0	9	2	0	0	0	0	0	0	
	11	○	◎	○	○	○	○	○	○	少	○	○	◎	少	◎少	少	半	○	◎	少	●	○	○	○	○	○	○	少＊	○	○	○		19	4	1	1	6	0	1	0	0	0	0	
	12	◎	○	○	◎少	○	○	○	○	半	○	○	○	半	○		半	🗲●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	24	2	3	1	1	1	0	0	0	0	0	
明治40	1	○	＊	＊	○	◎	半	○	○	○	○	○	○	半＊	半	○	○	◎少	◎○	○	半	●○	○	○	○	○	少	◎○	○	●	●	○	20	4	4	3	2	0	3	0	0	0	0	
	2	○	○	○	半	◎	○＊	＊半	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	◎＊	◎	○	○	○	半	○	○	○	○	○				21	4	3	0	0	0	3	0	0	0	0	
	3	○	○	○	○＊	＊	○	○	○	○	◎	○	半	半	●＊	◎	◎	○	○	○	○	半	◎●	●	半	●	半	◎●	○	半●	半	○●	15	5	7	7	0	0	3	0	0	0	0	
	4	●＊	○	○	半	○	半●	○	○	○	少	🗲●	○	○	○	○	半	○	○🗲●	○	◎●	半	半	○	○	○	○	◎●	○	○	◎		19	3	5	6	1	2	1	0	0	0	0	
	5	●	●	○	○	○	○少	●	○	◎	●	○	○🗲●	○🗲●	○🗲●▲	○	○	○●	●	○	○	○	○	○	◎少	○	○●	○	○	○	○	●	○	23	2	0	11	2	3	0	0	0	0	1	
	6	○	○	○	◎	半●	●	◎少	半少🗲	○	○	○	半	★	半	○🗲●	○	半少	●	●	◎少	○	○	◎	◎	◎	●	●	○★	○●	○		13	6	5	8	4	2	0	0	2	0	0	
	7	○	○	○	○	○	◎	●	●	●	●	●	●	●	半少	○	○	●	少●	●	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	16	4	1	10	2	0	0	0	0	0	0	
	8	○	少○	○	○	●☆	○	◎☆	●○	●	半🗲●	少○	○	○	◎🗲●	●★	○★	○	○	○	○	○●	●	●☆	●	★	●	●	●○	○	○	○	19	2	1	13	2	2	0	3	3	0	0	
	9	◎☆	○	○	◎☆	○★	○★	○★	◎☆	◎☆	◎🗲●	●	◎	半	◎	○	○	●	★	○	半	●	●	○	半	●	○	○	◎	◎	○		12	9	3	6	0	1	0	4	4	0	0	
	10	○	○	●○	○	○●	●	半	○	●	○	○	○	●	●	◎○	○	○	○	○	○	◎少	○	少	半	○	○	○	○⊥	半	○	○	22	2	3	6	2	0	0	0	0	1	0	
	11	○	○	半●	少	●	◎	◎	○	○	○	○	○	半	半	○	半	◎少	○	◎少	少●	◎	◎少	●	○	半少	○	半少	○少	●	○		13	6	6	5	8	0	0	0	0	0	0	
	12	○	○	⊥◎	半	○	○	○	◎	○⊥	○	○●	半●	○	○	半	半	○	○	○	○少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	25	2	4	2	1	0	0	0	0	2	0	

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹

◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　〼：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日																													月別各天気日数										左記月別天気の傾向
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	〼	＊	☆	★	⊥	▲	
明治41	1	半	○	○	○	○	○	＊	半	○	○	○	○	○	◎	＊	○	○	○	○少	少	半	○	半	○	半	○	○	○	○	半	●	20	1	6	1	2	0	2	0	0	0	0	
	2	○	◎	○	○	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	◎〼●	◎＊	＊●	○	○	○	○●	●			22	4	0	4	0	1	3	0	0	0	0	
	3	●	○	◎＊	＊	●＊	◎	＊●	半	○	◎＊	＊	○	○	○	○	○	○●	●	半少	少	◎	○	○	○	◎	◎	◎▲	少	◎	半少	○	12	8	3	5	4	0	6	0	0	0	1	
	4	◎	○	半	●★	●	●	○	少＊	＊●	○◎	○◎	●	●	◎少	少	○	◎	○	○	○	○	○	★	○	○	◎●	少	●	○	○⊥		14	6	1	8	4	0	2	0	2	1	0	
	5	○	○	○	●	○	○	○	○	○	◎	●	●	○〼	○〼●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	半	●	21	1	1	9	0	2	0	0	0	0	0	
	6	半	○	○	○	○	○	○	○〼▲	○少	少○	半少	少	●	半	半☆	半〼●	半〼●	◎少	半	◎〼●	半	◎少	●	○	半	●	●	半	●	半●		10	3	11	9	6	4	0	1	0	0	1	
	7	●	●	◎少	●	●	◎	◎	◎	○	◎少	少	○〼●	◎○	○〼●少	◎	●	◎	○	○	◎	半	半少	半少	◎	◎	○	○	○	○	○	○	11	11	4	7	6	2	0	0	0	0	0	
	8	○	○	○	○	○☆	○☆	●☆	○	半☆	半★☆	●	●	半少	半	○〼●	○〼●	○	○☆	半少	○	○	○	○	★	半少	○	○	●	○	○	◎	19	1	6	6	3	2	0	6	2	0	0	
	9	少	少	●	●	○少	◎	◎	半	半	半	半	●	●	○	○	半	○	半	●	少○	◎	少	○	少	●	○	○	○	●	半		9	3	7	7	6	0	0	0	0	0	0	
	10	◎少	○	○	○	◎	○	少	◎	○☆	○	◎	○	○	○	○	●	○	◎	○	○	◎●	●○	○	◎	○	◎少	少	○	少	少◎●	●	17	9	0	5	6	0	0	1	0	0	0	
	11	○	○⊥	○少	○	◎	○●	○	○	半	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	少○	○	○	○	○		26	3	1	1	2	0	0	0	0	1	0	
	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	半●	○	○	○	○	◎●	半	○	○	○	半●	●○	○	○	○●	●	○	●	半	半	23	1	5	7	0	0	0	0	0	0	0	
明治42	1	○＊	半	○	＊●	半	半	半	半	◎＊	＊	○	○	◎＊	半＊	○	○	○	＊	●	半	●	◎少＊	○	○	◎●	○	○	◎＊	○	○	半	13	5	8	4	1	0	9	0	0	0	0	
	2	○	半	●	○	○＊	○	○	○	半	○	○	○	○	半	○	○	○	○	◎●	○	○	○	○	○	○	○	○＊●	＊●				22	1	3	4	0	0	3	0	0	0	0	
	3	半●	●	○	半	●	◎少	◎	◎少	半	●	○少	半少●	少	半	半	◎＊	＊	◎	半	●	○	○	少	●	○	◎＊	○	◎	◎●	少	半	6	8	8	8	7	0	3	0	0	0	0	
	4	半	○●	●	●少	少	少	★◎	○	○	○★〼●	○	○	○	半★	★	○	○	○	○◎★	○	○	○	◎少	○	○	○	○	○	○	●	○	20	3	2	5	4	1	0	0	5	0	0	
	5	○	○	○	◎少	◎	●	少	◎少○	○	◎	○	●	少	●	◎○	●	○	○	○	◎●	○	○	○	○	○●	●	半	◎○	○	○	○	19	7	1	7	4	0	0	0	0	0	0	
	6	○	○	○	◎○	◎少	●	◎●	○	●	半	半	○	○	少	○	○少	◎☆	○	◎●	少	●	●	◎少	少	少	●	●	●	少	半		10	6	3	9	8	0	0	1	0	0	0	
	7	○	◎	○◎	◎少	●	●	少	●	●	少	○	半少	少	少	○	○	○	○	○	○	◎	◎少	○	○〼●	○	○	○	○	○	○	○☆	18	5	1	5	7	1	0	1	0	0	0	
	8	☆	○	半	○☆	半☆	☆半	○	○	○	○	◎	半	○	○	○少	○	○	○少	○	○少	○	○	○	○	半	○	○	半	○〼●	○	○	23	1	6	1	3	1	0	4	0	0	0	
	9	半少	●	半☆	◎☆	◎少☆	半●	●	◎	○		少	○●	●	○	○	○〼	●	●	●	●	○	○	○	●	○	半●	●	半	半●	●		9	3	6	14	3	1	0	3	0	0	0	
	10	半少	半	半	◎少	●	半少	半	◎	○	●	●	○	◎少	○	○	○	○	少	●	○	○⊥	○	○	○	○	◎少	半	◎少	◎	○	◎少	13	7	6	4	8	0	0	0	0	1	0	
	11	○	◎	○	◎少	◎○	○	半	●	◎	○●	○	○⊥	○	○	◎	○	○	半	半	○	○	○	○	◎●	◎	○	○	○	○〼少	○		20	7	3	3	2	1	0	0	0	1	0	
	12	○	○	○	○	◎	○	○	◎○	○	○	○	○	◎	○	○◎	○	○	○	○	○	半	○	○	○	○	○	○	○◎	半	◎少	○少	26	6	2	0	2	0	0	0	0	0	0	
明治43	1	少○	半	○	半	●	○	○	◎●	○●	◎	少＊	○＊	●	◎＊	●＊少	＊	半	◎	○	◎	◎少	半	半	○	◎＊	＊	○	○	◎	◎	○	11	9	5	5	4	0	7	0	0	0	0	
	2	○	○	○	○	○	○	○	○＊●	◎○	○	○	○	○	○	○	○	●＊	半	○	○◎＊	○	○	半	○	半	●○	半	半				22	2	5	3	0	0	3	0	0	0	0	
	3	半	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○＊	＊	半	○	○	半	○	○	○	半	半	◎＊●	●	少	○	半少	少	少	少	少◎	◎	16	3	6	2	6	0	3	0	0	0	0	
	4	◎	★	◎	◎	○	半	○	半	半●	少	半	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎●	○	半●	●	○	○	◎少	半	○		15	5	6	5	2	0	0	0	1	0	0	
	5	半	◎	半	○	半	少	少	◎	◎	半●	★	○	◎少	●	◎	◎少	半	半	半	○	半少	○	○	半	半	半〼●	○	◎少	〼●	○	○	8	7	11	4	6	2	0	0	1	0	0	
	6	○	少	●	●○	◎	●半	○	半	○	◎	○	○	◎	●	◎●	●	◎●	◎少	◎	半少	少	◎☆	◎少	○	◎○	◎	◎	少	○	◎		9	13	3	7	6	0	0	1	0	0	0	
	7	半○	○●	●	◎少	半	◎	●	半	半少	●	〼●	●	◎〼●	○	少◎	◎	●	◎少	半	半	◎	○	○	○●	半少	●〼●	半	半	半少	半	半	6	7	12	10	6	3	0	0	0	0	0	
	8	○〼●	◎●	○	半	半少	半少	○●	●	●	●★	○	○	★	★	少〼●	●	◎少	◎	◎	少	半	◎	○	○〼●	◎	○	○	○	◎★	○〼●	半少	11	7	5	10	6	4	0	0	4	0	0	
	9	半	半○★	半	○	○	半★	○●	●	●	○	少	半	●	●	●	◎●	●	○	◎少	●	◎	◎●	◎	半	半	少	●	少	半	○少		7	5	8	11	5	0	0	0	2	0	0	
	10	●	半少	半●	◎○	半	○〼●	半	◎少	少	●	●	●	●	●	●	少	●	○	○	○◎●	●	●	○	○	●	○	○	○	少	●	○	11	3	4	15	5	1	0	0	0	0	0	
	11	○	少◎	◎少	○	○●	○	○	○	◎	●	◎少	○	○	○	◎	少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎●		22	6	0	3	4	0	0	0	0	0	0	
	12	●○	半	半	○	○	○	半	半	○	○	○	○	○	○	○	○＊	＊○	○	半	半	◎	半	半	半	半	○	半	○	○	半	半	17	1	13	1	0	0	2	0	0	0	0	

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹

◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　〆：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日																													月別各天気日数										左記月別天気の傾向
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	〆	＊	☆	★	⊥	▲	
明治44	1	○	○	○	○	半少	○	○	◎	○	◎＊	＊◎	〆●	半	○	＊	○	◎	◎	◎少＊	＊	○	半	○	◎○	○	○	半	＊	○	半	●	16	7	5	2	2	1	6	0	0	0	0	
	2	◎	半	○	○	○	○	○	半	○	○	○	○	○	半●	●○	○	◎＊	半	○＊	○	○	◎	○◎	◎●	◎少	◎少	半	◎少				16	8	5	3	3	0	2	0	0	0	0	
	3	半●	少	○	○	○	少◎	●	◎	◎	◎少＊	＊	○◎	半	◎	◎○	◎●＊	＊●	◎	●	○	○	◎少	少	少	◎	◎少	○	○	○	◎	◎	10	14	2	5	7	0	4	0	0	0	0	
	4	○	○	◎少●	○	◎	○	◎	◎	少	●	●	○	○	半	◎少		◎●	○	○	半	○	○	○	○●	●	○	○	半●	◎	●		14	7	3	8	3	0	0	0	0	0	0	
	5	○少	○⊥	○⊥	○●	少	◎	●	○	○	○	○	○少	○	◎●	半	○⊥	○	○	○	○	半少	○	少	半〆●▲	○	○	半	半	◎●	●	◎	18	4	5	6	5	1	0	0	0	3	1	
	6	半	◎●	◎少	◎	半	少	半	○〆●	半	半	●	半	半	◎	●	●	半	◎少	●★	◎	◎少	◎	◎	◎	○	半	少	★	★	●		2	10	9	7	5	1	0	0	3	0	0	
	7	◎少	少	●	●	◎○	○	半	半	○	○	○	○	○〆少	◎〆少	○	半〆●	●	○	半	○	◎少	少	少	◎○	☆	★	半	少	少	●少	◎少★	11	6	5	5	11	3	0	1	2	0	0	
	8	○	○	◎少	●★	○	少○	○☆	○少	少	◎★〆●	●	○	○	○	○少★	★	○	◎	半少	少	少☆	半少	半少	半	半	○	○	○	○	○	○	17	3	5	3	10	1	0	2	4	0	0	
	9	○	○	○	○	○	半●	○	○	半	半少	◎少	●	●	○	◎〆●	●◎	◎	○	半	少	半	●○	○	○●	●	●	半	半少	◎少	○		13	5	7	9	5	1	0	0	0	0	0	
	10	半	○	◎●	●	半少	○	○	○	●	半	○	半	●	少	少	●	○	○	○	○少	少	少	○	○	○◎?	半少	○	半少	●	少	○	14	2	6	6	9	0	0	0	0	0	0	
	11	半少	○	○	○	○	半	半少●	○	○	◎	○	◎	○	○	◎少	少	◎	◎	少●	○	少	○	◎	★☆	半	○	○	◎●	○	○		15	7	4	4	6	0	0	1	1	0	0	
	12	○	○	○	◎	○	半	○	⊥	○	半	半	○	◎	半	○	○	○	○	●	○	○	○	◎	半⊥	○＊●	○	半	半	○	○	○	19	3	7	2	0	0	1	0	0	2	0	
明治45 大正元	1	半少	○	○	○	○	少○	○	○	○	○	○	○	◎	半	半	半	○	○	○	○	○◎●	○	半	半	半●	●	半	半	半	○	○	20	1	10	3	2	0	0	0	0	0	0	
	2	半◎	◎少●	●＊	＊○	○	◎少	○	○	○	○	○	○	○	◎●	●	少	◎○	○	○	○	○	○◎少	○	○	○	○	◎少●	少	◎少			19	8	1	5	7	0	2	0	0	0	0	
	3	●	○	◎●	●	半●	●	半	○	○	○	半	○	＊●	○	◎	少◎	少	○	○	○⊥	○	○	半	◎	◎少	○	半●	○	●	◎●	半〆▲	13	6	6	9	3	1	1	0	0	1	1	
	4	○	○	●	◎	半											少○	○	半	半〆●	○	○	◎	少○	○	○少	◎●	○	半	◎	●少		10	4	4	4	4	1	0	0	0	0	0	
	5	◎	●	◎	●	○	半	半	◎	●	○	半	半少	少〆☆	○	○	◎○	○	○少	○	○〆●	●	●	○	○	○	○	半	◎少	少	○	◎	14	6	5	6	5	2	0	1	0	0	0	
	6	〆●○	○	○	半	●	○	○	少	◎少	少	少●	●	○〆●	半〆●	○	○◎●	●	○	◎	◎●	●○	少〆●	半	○	少	◎	半☆	◎★	○	半〆●		12	6	5	12	6	5	0	1	1	0	0	
	7	半〆●	半●	◎少●	●○	●	○	◎●	●半	○	半	◎少	◎少	◎少●	◎少	◎●	◎	○	○	○	○〆●	半〆●	◎●	●	少	半	半	○	半	○	◎●	半	9	10	9	14	6	3	0	0	0	0	0	
	8	◎	半	○◎〆☆	◎★	◎少	◎	○	○	○	○	○〆	○	○	◎○〆●	○	◎	○	○	○	◎	○	◎	◎少	◎★	○	○	○	少	半	○	○☆	19	11	2	1	3	3	0	2	2	0	0	
	9	★●	○	半	半少	◎	少	少	●	●	●	●	半	半	半●	●	◎	◎少	◎少	◎	半	◎●	●	★○	○	半●	●	半	半	◎●	●		3	7	9	13	5	0	0	0	2	0	0	
	10	半	◎★	少	半	○	○少	半	半	◎●	◎	◎●	○	○⊥	○	○	半	○	半	◎	○	半	○	○少	半●	●	○	○	◎	半	少	◎	少●	11	7	9	5	5	0	0	0	1	1	0	
	11	◎●	◎	○	◎●	●◎○	●	半	◎	半	○	○	○	○	○	半	○⊥	○	○●	●	◎		●	●	◎	○	○	○	○	○	○		16	7	3	8	0	0	0	0	0	1	0	
	12	○	半	半	○	○	半	◎少	○	半	○	○	○	○	半●	●	半	○	半●	●	◎	◎●	●	○	半	○	○	◎	◎●＊	＊	○	半	13	5	9	7	1	0	2	0	0	0	0	
大正2	1	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	●◎	◎＊	○	○	○＊	＊	○	○	◎＊	○	○	◎	◎少	○	○	24	6	0	1	1	0	4	0	0	0	0	
	2	○	○◎	○	○	○	少	○	◎	○	○	◎	○	○	○	◎少	○	○	○●	●◎	半	◎	半●	半	◎	◎＊	◎	半	○				15	9	4	3	2	0	1	0	0	0	0	
	3	○◎	○	◎	○	○	○	半	◎	○	○	○	○	半	○	○	半	少	半●	●	半	◎少	半	◎	◎●	●	○	○	○	○	○	○	17	6	6	4	2	0	0	0	0	0	0	
	4	○	半	◎	○	○	半	半●	●	●＊	半	○	○少	少◎	○◎少	少	少◎	◎●	●	半少	少	少半	半少	◎少	○少	○	◎	◎少	●	●◎	◎少		8	10	7	7	13	0	1	0	0	0	0	
	5	少	半	少〆●	○	○	半少	○	○	○	半☆	○	○●	●	○	◎●	●	○	○	○	●	少	○	○	○	○	半	少●	半	○◎	●	半	16	2	6	8	5	1	0	1	0	0	0	
	6	○	○	○少	少	◎少●	●	●	○	◎半	半	半少	◎	☆○〆●	半●	●◎	◎●	◎	半◎	◎	○	半	◎少	半	半●	半	半	○	少	○◎	○		9	10	10	8	6	1	0	1	0	0	0	
	7	○	少	◎★	★	半	○	○	◎	◎	◎	◎☆	半	○	○	◎	○	◎少	◎少		◎	半	◎	◎少★	★〆●	◎●	●○	半	半	○	○	◎少	9	13	5	3	5	1	0	1	4	0	0	
	8	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	半	○	○	半〆●	半	○	○	半少	◎少〆●	◎少	半	半●	●	半●	●半	●	●	○	○	○	○★		14	5	8	9	3	2	0	0	2	0	0	
	9	少〆●	●	◎○	半	○	○	◎	少	◎	半	半●	●	○	少	◎	◎	◎	◎少○	◎	半	◎★少	●◎	○	○	○	半●	●	○	半	○		10	10	6	7	5	1	0	0	1	0	0	
	10	半	半少	●	○	半	◎●	●	●	○	○	半		半	半少	●	半●	●	●	半		半	◎	◎	○	半	○	◎	◎	半	○	○	7	5	11	8	2	0	0	0	0	0	0	
	11	○	○	○	○	○	○●	●☆	◎	◎	○	○	○	○少	◎●	◎少	半	◎●	●○	○	◎●	少●	●少	○	○	○	○	○	◎	◎	◎		17	9	1	8	4	0	0	1	0	0	0	
	12	◎少	半●	●	半	○	○	○	○	○	◎少	半	●	○	○	半	＊	半	○	○	○	○	◎	○◎	○	○	○	◎○	○	○	○	○	20	5	5	3	2	0	1	0	0	0	0	

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹

◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　🗲：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	🗲	＊	☆	★	⊥	▲	左記月別天気の傾向
大正3	1	○	○	○	○	○	○	少	○	○	○	○	○	○	半★🗲●	○	○	○	◎●	◎	半少	◎	○	半	半●	◎少○	半	○	○	○	○	○	22	4	5	3	3	1	0	0	1	0	0	
	2	○	○	○	○	○	◎＊	○	◎＊	＊○	○	○	○	○	○	○	◎○	半	○	◎＊	少	半	●＊	＊	○	半●	●	○	○				18	4	3	3	1	0	6	0	0	0	0	
	3	○	◎少🗲	◎	半🗲●	◎	◎	◎少	○少	少	◎	◎	少	半	●	◎半☆	○	○	●	○	○	◎少○	半	少	●	🗲●	少＊	半	○⊥	○	◎●		9	10	5	6	8	3	1	1	0	1	0	
	4	○	◎	○	◎＊	半●	○	●	●☆	○	○	○	○	◎少	○	○	○🗲●	○	○	○	◎	○	○	半	◎●	●	○	半●	●	○	半	17	5	4	8	1	1	1	1	0	0	0	
	5	半	◎●	●	○⊥	半	○	半	半	◎	半	◎●	◎○☆	◎	●◎	●	●	●	○	半	少●	●	○	○	●少	○	○	○	○	◎少	●	○	11	7	6	11	3	0	0	1	0	1	0	
	6	◎少	●	少	●半	●半	○	○	半●	●◎	○	○	◎●	◎	🗲●○	半	◎少	●	●	○	◎	◎少	◎	半	○	○	◎	少	○	半	○	10	9	6	9	5	1	0	0	0	0	0	
	7	○	○	○	○	半★	◎少	○少	◎	○	○	●	少	◎	◎	○	○	○	◎	◎少○	○	◎少	○	○	○少	○	○🗲●	◎	●	半	○	○	19	8	2	3	6	1	0	0	1	0	0	
	8	○	○	半少	半	半	○	○	○	○	◎○	○	半●	★	少○	○	半	○	○	○	半	○	半	○	○●☆	○	○	○	○☆	●★	半	○	21	1	8	3	2	0	0	2	2	0	0	
	9	○	○	◎○	○	半	○	○	○	○	◎少	少	少	●	●	○	○◎	◎少	○	◎	○	○	○★	●半	少	少	半	半	○	少	●		15	5	4	4	7	0	0	0	1	0	0	
	10	●★半	○	○	○	○	○	○●	●	○	半	○	半	○	○	○	○	○	半少	○◎	◎	○	半	●	○	◎	○	○	半	半少	少●	●	18	3	7	6	3	0	0	0	1	0	0	
	11	●	○	○	◎	半	半	○	○	●	○	半	○	半	○少	半●	少	半少	少	半	半	◎	○	○⊥	◎	○	○	○	○	○	◎	○	14	4	8	3	4	0	0	0	0	1	0	
	12	○	◎	◎	○	○	少	○	○少	○	○	◎	◎少	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○●	＊	○	○●	●	○	○	○	○	○◎	24	5	0	3	3	0	1	0	0	0	0	
大正4	1	半	半	半	半	半	半	◎＊	＊	○	○＊	＊	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	◎＊	半	○	◎	○	●	半	半	◎＊少	14	5	9	1	1	0	6	0	0	0	0	
	2	少半	◎	◎	●	◎少	○	○	半	○	○	＊●	●○	○	○	半	○	半	◎	＊	○	○	○	半	○	○	◎＊	●＊	◎				13	6	5	4	2	0	4	0	0	0	0	
	3																																											
	4																																											
	5																																											
	6																																											
	7																																											
	8																																											
	9																																											
	10																																											
	11																																											
	12																																											
大正5	1																																											
	2																																											
	3																																											
	4																																											
	5																																											
	6																																											
	7																																											
	8																																											
	9																																											
	10																																											
	11																																											
	12																																											

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。
○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹
◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　☈：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

		日																														月別各天気日数											左記月別天気の傾向
年	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	☈	＊	☆	★	⊥	▲	
大正6	1																																											
	2																																											
	3																																											
	4																																											
	5																																											
	6																																											
	7																																											
	8																																											
	9																																											
	10																																											
	11																																											
	12																																											
大正7	1																																											
	2																																											
	3																																											
	4																																											
	5																																											
	6																																											
	7																																											
	8																																											
	9																																											
	10																																											
	11																																											
	12																																											
大正8	1																																											
	2																																											
	3																																											
	4																																											
	5																																											
	6																																											
	7																																											
	8																																											
	9																																											
	10																																											
	11																																											
	12																																											

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。

○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹

◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　🗲：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	月別各天気日数 ○	◎	半	●	少	🗲	＊	☆	★	⊥	▲	左記月別天気の傾向
大正9	1																																										
	2																																										
	3																																										
	4																																										
	5																																										
	6																																										
	7																																										
	8	○	半●	○☆🗲●	★☆	●★○	○少	◎●	●	☆○	☆●	半	○	◎●	◎☆	☆	少○	○	○☆🗲	半☆	半☆	◎少○☆	◎少○	◎○	半	○	半少	◎	◎少	半	○	半○	15	8	8	7	6	2	0	10	2	0	0	
	9	◎半★	半少	◎☆●	◎少	○	○	半少	◎少	○	◎●	●	○	○	◎	少●	○	○	○少	◎	半	○	○	○少	◎	半少	半少	◎	◎	●	●★		11	10	6	6	9	0	0	1	2	0	0	
	10	○	○	○	半●	○	◎	●	○	○	○	○◎少	半	●	半	◎少○	半少	少	○	半	◎●	●	半	◎	○	○	○	●	半	○🗲●	○	○	16	5	7	7	4	1	0	0	0	0	0	
	11	半少	○	◎少○	○	○	○	○	○	◎少	◎少	少	●	○	○	○	○	半◎●	◎	○	少	○	○	◎●	●	●	半●	○	○	○	◎		17	7	3	6	6	0	0	0	0	0	0	
	12	○	○少	●	◎	◎	○少	少＊	○	○	○	半	半少	◎	○	○	○	半	●	○	○	半	○	○	○	○	○	○	○	○	○	＊	20	3	4	2	4	0	2	0	0	0	0	
大正10	1	○	◎●	◎	◎少	半	○	○	半	○	○	◎少	半	半	◎少	○	○	半	○	半	○	○	○	○	○	○◎	○	○	◎○●	○	○	○	20	7	6	2	3	0	0	0	0	0	0	
	2	○	半	◎＊	◎	○	○	○	○	○	○	◎●	●	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	＊	○	○	○	○	○	○				21	4	1	2	0	0	2	0	0	0	0	
	3	◎●	半	◎	半＊○	○	○	○	半	半	○●	半少	●	半	半	少＊	◎＊	●＊	○	○	○	半	○	○	○	＊●	半	半少＊	＊	○	○	○	14	3	10	5	3	0	7	0	0	0	0	
	4	○	●○	◎少★	○	○	○	◎少	◎少	○	○	◎少○	◎少	少	○	○	○	◎	◎少	少○	◎半	半	●	○	◎	◎少	半	◎	◎少	○	◎		14	13	3	2	10	0	0	0	1	0	0	
	5	○	◎	半	◎	○●	●	●	少○	◎○	◎少	少	◎	◎●	●	○	○	半	◎少	○	○🗲●	○	◎○	◎🗲●	少	半	半●	●	○	○	○少	少	13	9	4	9	7	2	0	0	0	0	0	
	6	●	少	半	半	○	◎●	半	○	○	半	少●	少	少●	少	少	◎	◎●	●	少	○	◎●	●	○	◎少●	●	少	少	◎●	◎少	●★		5	7	4	12	11	0	0	0	1	0	0	
	7	◎少	◎少	★	半	○	半少	少	少	◎少	◎○	○	○	半少	◎☆	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●少	半少	○	○	◎少	◎	13	7	4	5	10	0	0	1	1	0	0	
	8	半	半●	●	◎○	○	◎少	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎●★	半少	半	◎少	半	半	○🗲●	🗲●○	○	○	＊☆🗲●	◎★	◎	少	少	◎少	14	8	7	6	6	3	0	1	2	0	0	
	9	◎	半	○	◎🗲●	●	●	●	●★○	少	半	少	●	◎少	●	少	◎○	半	少	●少	○	○	◎●	●	●	◎●★	○	○少	少	●	●		7	6	3	14	8	1	0	0	2	0	0	
	10	●	●	●	●	半●	少	◎	●	●	●	○	半	◎少	○	半	○	○	○	○	○	半	●	半●	●	少	○	●	半	○少	少	○	○	10	2	6	12	5	0	0	0	0	0	0	
	11	○🗲●	半	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○少	少○	○	○	○	○	○	半少	少○●	○	○	○	○	○	○	○	半	○		27	0	3	2	4	1	0	0	0	0	0	
	12	◎	○	○	○	○	○	◎＊	○	◎少	◎●	○	○	○	○	○	○	◎●	○	半	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	◎	○	○＊	23	7	1	2	1	0	2	0	0	0	0	
大正11	1	＊	半	○	○	○	○	○	○	半＊	○	半	○	◎	◎＊	＊	◎○	◎	◎＊	◎＊	○	○	○	半	○	○	○	○	○	◎＊	＊○	○	19	7	4	0	0	0	8	0	0	0	0	
	2	○	◎＊少	●	○	○	○	◎	●	○少	半	○★	○	◎○	○◎●	●	●★	○	○	○	半	◎	○	○	半	○	◎＊	＊	○				16	6	3	5	2	0	3	0	2	0	0	
	3	○	○	○●	●○	○	◎＊	＊	○	○	◎●	○	○	◎少	少	○🗲●	◎●	●	○	○	○☆	○	○	○	○	○	○	○	○	○少	少		23	4	0	6	4	1	2	1	0	0	0	
	4	半	半	◎少	少	半	半少	少	半少	半	○	◎●	○	半少	●★	○	半	半🗲●▲	○	◎		半	半	◎少	少★	半	半	○	○	半	◎●		6	5	14	4	8	1	0	0	2	0	1	
	5	○	◎	○	○	◎	○	◎少	○	◎	○	○	◎少	◎	○	◎	少	◎	◎	◎少	少	◎○	◎少	●	○	○	○	○	○	◎	半	少●	14	13	1	2	7	0	0	0	0	0	0	
	6	○	○	○	○	○	半	半●	●	○	●	○	○	○	○	○	半	●○	○少	◎	○	○	◎	○	○	○少	◎少	半少	少	少●	○		19	3	4	5	6	0	0	0	0	0	0	
	7	半	◎少	◎少	●	◎●	○	○	◎少	◎少	◎少	◎	半	半	半	半	◎	○🗲●	◎●	○	○	○	○	○	○	半	半●	◎	○	半	◎🗲●	○		11	11	8	6	5	2	0	0	0	0	0	
	8	○	○	◎少	◎	○	○	◎	半	半	○	◎	○🗲●	○	半少	●★	○	○	○	○	半		半	◎★☆	★	○●	★	○	○	○	○	半		16	5	6	3	2	1	0	1	4	0	0	
	9	○●	半	○	○	○	○少	○	半●	少	半	○	半	○	半	半	半	◎	半	◎●	●	◎	○	◎●	○	○◎	半少	少	◎少	◎少	◎○		12	8	9	5	6	0	0	0	0	0	0	
	10	半	半☆	●	◎	○	少●	🗲●	●○	○	○	○	○	○	半	半	○	◎少	●	半	半少	○	○	○	○	半	半	○	○	○	○	半		16	2	9	5	3	1	0	1	0	0	0	
	11	◎少	◎○	○	○	半	◎	◎	◎少●	◎	●○🗲	○	○	○	○	○少	●	○	○少	○	○	半	○	○	半	半	少	○	○	○	○			19	6	4	3	5	1	0	0	0	0	0	
	12	○	○	○	半＊	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎＊	○	○	○	○	○	○	○	○＊	○	○	○	●○	半	半少	○	○		26	2	3	1	1	0	3	0	0	0	0	

記号・・・表中において、天気は「日並記」本文の記載を基に以下の記号により表現した。なお、気象庁の天気記号には準拠していない。
○：晴天・晴・快晴　半：半晴・半曇　少：少雨・微雨・細雨　＊：雪・雪混じり雨・風花・みぞれ・霰　★：荒模様・吹降・風雨・嵐　▲：雹・雨混じり雹
◎：曇天・曇り　●：雨・大雨・豪雨　〆：雷　☆：驟雨　⊥：大霜・霜

年	月	日																													月別各天気日数											左記月別天気の傾向
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	○	◎	半	●	少	〆	＊	☆	★	⊥	▲	
大正12	1	○◎	○	○	○	○	○	○	○	○●＊	●＊	半	○	◎	○	少●	半	○	○	○	◎	半	半	少	少＊	＊	○	○	○	○	半	○	19	3	5	3	3	0	4	0	0	0	0	
	2	○	○	○	半	○	◎	◎＊	◎＊	○	○	○	半	◎	半	◎●	●	●＊	○	○＊●	●	●	半＊	＊	＊	半	半	○	○				11	5	6	6	0	0	7	0	0	0	0	
	3	○	○	少○	○	○	○	○	少	少	○	◎少	●	○	○	少	◎	◎	○	少	●	半	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○	20	4	1	2	6	0	0	0	0	0	0	
	4	○	◎●	●	半	●＊	●＊	半	◎★	○	半	◎●	●○	半	半	○	○	半少	◎	少	半	少	○	○	◎少	少	○	○	半少	半少	○		10	5	9	6	7	0	2	0	1	0	0	
	5	半〆少	半	少●	◎少	○	◎●	◎少	●	○	○●	●	〆●▲	半	半	半少	半	半少	○	○◎	○	●	●	◎少	◎●	●	半	少	半●	○	◎●	◎●	7	8	9	13	8	2	0	0	0	0	1	
	6	●	◎	◎○	半	○	半	○	◎●	●	半少	◎	◎	◎	○	◎●	●	●	半	◎	◎	◎少●	●	○	半	◎少	○	◎●	◎	○	◎少		7	14	5	9	4	0	0	0	0	0	0	
	7	少	◎	◎	○	◎●	●	半	◎●	★	少	◎	○	●	少	●	●	少	少	○●	○少	○	◎少	◎	★	半少	○	○	○	○	○	○	11	7	2	7	8	0	0	0	2	0	0	
	8	○	○	○	○	○少	○	○	○	○	○〆●	○	○	○	○	○	○	半	半少	半少	○	◎	◎〆●	○	○〆●	○	○〆●	○	○	○〆●	◎○	○	26	3	3	5	3	5	0	0	0	0	0	
	9	★	◎	○	○	○	○	◎	○	○●	●	◎○	○	◎☆●	●	★	半	○	○	○	○	○	●○	◎○★	★	半	○	○	●	○	少		18	5	2	6	1	0	0	1	4	0	0	
	10	少	半少	◎少	○	半	●	少	半	半	◎★	○	〆●	○	半少	◎少	半☆	○	○	○	○少	半	○	○	半少	○	○	◎	半	半	○	◎	12	5	10	2	8	1	0	1	1	0	0	
	11	○●	少◎	○	○	○	◎	◎	○少	○	○	○●	●	○	○	○	○	半●	●	半	○	○	半	半	少●	半	半	○●	●	半	半		15	3	8	8	3	0	0	0	0	0	0	
	12	○	○	○●	○	○	◎●	◎	半	半少	少	少○	◎	◎●	半	◎	○	半	○	半	○	○	●	○	○	○	○	半	半	半	○	○	16	5	8	4	3	0	0	0	0	0	0	
大正13	1	半	○	○	○	○		○	○	○	○	○	半	半	○	半	半	◎	半	半	○	○	○	○	○	○	半＊	＊	半	半	○	○	18	1	10	0	0	0	2	0	0	0	0	
	2	半＊	＊◎	半	半	○	○	◎	●○	○●	●	●◎	少	○	○	○	○	○	○	半少	○	半少		半	◎○	○	半	○	○	半			15	4	8	4	3	0	2	0	0	0	0	
	3	＊	○	◎	半	半	半	○	○	○	○	○	○	少	○	○	○	○	○	○	○	◎少	○●	○	○	○◎少	少	半☆	半★＊	○	半〆	○	20	3	6	1	4	1	2	1	1	0	0	
	4	○	◎●	◎少	◎少	◎	◎●	●	○	半	○	○	◎●	●	◎少	◎少○	●	◎●	●◎	半	○	○●	○	半	◎少	◎●	○	○	○	○	○		13	12	3	10	5	0	0	0	0	0	0	
	5	◎少	◎	●	●	◎少	◎○	○	◎●	○	○	○	○	○	◎●	●	○	○〆●▲	○	○	◎	◎●	○	○	◎●	☆○▲	○☆	○	○◎	○	○	○	20	10	0	8	2	1	0	2	0	0	2	
	6	半●	●	○	○☆	◎少	◎	半	●	○	◎少	◎少	◎少	◎少	◎○	◎	◎○	○少〆	少〆☆	○	○	○	○少	少○	○	○	半	◎少	◎少	◎	○		14	12	3	3	11	2	0	2	0	0	0	
	7	○	◎	少	少	○	○	◎○	◎○	○	◎	○	◎	◎○	◎○	○☆	◎少★	半★	○	○	○	○	○	○〆	○	○〆少	○少	○	○	○	○	○	24	8	1	0	5	2	0	1	2	0	0	
	8	○	○	○	◎☆	半☆	☆	○	○	○	○	○	○	○	○	◎少	◎	◎少	◎少	少	◎少	○少	◎★	○	○	○	●	◎少	○	○	○		18	8	1	1	7	0	0	3	1	0	0	
	9																																									
	10																																									
	11																																									
	12																																									

付表２　地福寺日並記から見た和光市域周辺災害史年表

備考に記載した＜＞内の丸数字は出典を示し、その内容は次に示すとおりである。なお、各文献の詳細（執筆者、出版年等）については、本文中の参考文献に示す。
①『埼玉県の気象災害』、②『新編埼玉県史別編3自然』、③『日本被害地震総覧599-2012』、④『和光市史下巻』、⑤『和光市史史料編3近代現代』

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
明治23年	1890	8月22日	雨天、□あり夜ニ入リ小嵐徹夜			
明治23年	1890	8月29日	雨天、風あり夜ニ入り小嵐となる			8月22～23日、30日、暴風雨洪水。荒川では入間川などの支流を含め破堤125箇所。県下で死者16人、負傷者1人、家屋の流失702軒、破損倒壊2,375軒、農作物の収穫は皆無となった。＜①＞ 被害は新倉村田地20%・畑地15%、白子村田地23%・畑地8%＜④＞
明治23年	1890	8月30日	吹降ニテ困難ヲ極メリ			
明治23年	1890	9月4日	大井より古谷へ水見舞に行、迂路より行候処田畝一面水ニテヒサ迄浸セリ			
明治23年	1890	9月11日			夜半成増ニ失火アリ	
明治24年5月19日から明治27年1月31日まで欠本のため不明						
明治27年	1894	4月16日			昨夜十二時過、新田万善方へ放火有之、暫時ニシテ酒やへ延焼し、留吉魚や、茶店、油や烏有ニ属シ、万善妻ヤス殿土蔵へ入り焼死、外ニ浅久保大工某大負傷 未明ニ先住渡辺氏へ放火有之、隣家友吉氏延焼ス、利左衛門迎ニ小山へ行、道違ニテ逢ハス、午后帰ル、先住宅へ災火ノ前盗賊已ニ入ントセシ由	
明治27年	1894	4月14日		夜明ニ強震あり		
明治27年	1894	6月20日		本日午後二時大地震、近来ノ出来事なり、宝篋塔ノ頭落ツ、墓石大分倒レタリ、東京ハ煉瓦屋土蔵ノ破損、煙筒ノ倒レタルモノ甚多ク、死傷モ余程有之由、夜ニ入リ軽震あり		東京湾北部　14時04分（経度：139.8°　E、緯度：35.7°　N、規模：M7.0）＜②、③＞
明治27年	1894	6月25日			頃日来降雨之なく田植付困難、畑作枯渇せんとす	
明治27年	1894	6月30日			旱リニテ畑作ニ害アリ	
明治27年	1894	7月27日			雨乞あり、頃日来照リ続ク事廿日余リ、秋作枯渇セントス、近郷ニテ請雨セサル所ナシ、夕刻より雨降	
明治27年	1894	8月5日			下新倉一同雨乞ヲナス	
明治27年	1894	8月10日	昨夜三時頃より降出、今朝大雨盆ヲ覆ス			8月9より暴風雨。荒川、利根川、入間川、江戸川で堤崩壊、破損あり。＜①＞
明治27年	1894	8月11日	雨天、小嵐なり			
明治27年	1894	8月12日	洪水上新倉入樋破壊せし由			
明治27年	1894	10月8日		昨夜八時過激震あり		東京湾北部　20時30分（経度：139.8°　E、緯度：35.6°　N、規模：M6.7）＜②、③＞
明治28年	1895	1月23日		地震あり		
明治28年	1895	1月31日			此夜三時新倉宮久保ニ出火あり	
明治28年	1895	2月19日			后五時頃より雪降積ル事三寸許	
明治28年	1895	3月2日			雪降五寸許	
明治28年	1895	3月25日			吹上ニ火事有之	
明治28年	1895	5月17日			降雨暫らくなく蒔物植物ハ困却ス	
明治28年	1895	6月10日		夜十二時頃地震あり		
明治28年	1895	7月25日	昨夜来暴風雨なりしが前十一時頃止ム			
明治28年	1895	9月8日	驟雨大嵐あり小嵐なり暫時ニシテ止ム			
明治28年	1895	10月11日		午后三時頃地震あり		
明治28年	1895	11月28日		硼地震あり		
明治29年	1896	1月9日		夜十時地震あり		
明治29年	1896	1月12日		夜十時地震あり		
明治29年	1896	1月20日			午後俄ニ大風雪ヲ降ス	
明治29年	1896	2月19日			赤塚ニ失火あり	
明治29年	1896	3月12日			後に雪降、積ルコト五、六寸	
明治29年	1896	8月9日			日蝕午後一時三十分より三時三十分ニ至る八分四厘欠なり	
明治29年	1896	8月31日	昨夜雨風激く小嵐今暁ニ至ル			
明治29年	1896	9月8日	風雨、荒模様なり			9月7日～12日、豪雨により荒川41箇所破損。＜②＞
明治29年	1896	9月9日	風雨			
明治29年	1896	9月10日	風雨、洪水九合のよし			
明治30年	1897	1月14日			大雪、尺余、近来ノ大雪なり	
明治30年	1897	2月20日		未明地震あり	昨夜来大雪、積ルコト八、九寸	仙台沖　5時50分（経度：141.9°　E、緯度：38.1°　N、規模：M7.4）＜③＞

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
明治30年	1897	7月14日	夕刻より大雷雨、近来ノ大降なり			7月13～15日、出水により耕地浸水、若干の被害あり。＜①＞
明治30年	1897	8月5日		前十時過地震あり		仙台沖　9時10分（経度：143.3°E、緯度：38.3°N、規模：M7.7）＜③＞のことを指すか。
明治30年	1897	9月8日	雨天終日、雷鳴あり、夜ニ入リ大雨大雷、前二時頃より大嵐トナル、樹木破損あり			9月8～10日暴風雨、利根川堤防決壊大出水。＜②＞ 北足立郡でも浸水あり。＜①＞
明治30年	1897	9月9日	今暁嵐止ム			
明治31年	1898	4月23日		前九時地震あり		宮城県沖　8時37分（経度：142.0°E、緯度：38.6°N、規模：M7.2）＜③＞のことを指すか。
明治31年	1898	5月25日		払暁地震あり		
明治31年	1898	7月16日			御庵ニ出火あり見舞ニ行	
明治31年	1898	8月1日			村方雨乞の事、后三時より雨降、好湿リ、万民悦フ	
明治31年	1898	8月11日		夕刻地震あり		
明治31年	1898	8月27日	大水八合水ノ由			
明治31年	1898	9月6日	上ケ（ママ）雨終日降、夜ニ入リ大嵐トナル			暴風雨洪水。利根川、荒川などの諸川氾濫。死者4人、負傷者11人、家屋全壊140戸、半壊144戸、浸水13,765戸等の大被害となった。＜①＞
明治31年	1898	9月21日			昨夜十一時過中宿又一郎方物置より出火、一棟焼失、山中男女蔵の宅危かりし	
明治31年	1898	9月27日		夜半地震あり		
明治31年	1898	11月7日		昨夜地震あり		
明治32年	1899	2月16日			昨夜より雪降六、七寸、終日不止積ル、一尺余ニ至ル	
明治32年	1899	7月10日	雨天、終日、荒川満水ノ由			
明治32年	1899	8月24日			雨乞之事	
明治32年	1899	8月25日			雨乞ノ事	
明治32年	1899	8月29日	暴風雨、好湿リなり、后四時風止			
明治32年	1899	9月7日	雨天、后三時頃より大雨、小嵐なり			
明治32年	1899	10月7日	大雨、后三時頃ヨリ暴風雨			10月4日～7日大雨、7日台風が東京・熊谷を通る。＜②＞
明治32年	1899	10月19日	滝坂崩レ土取方付ノ事			
明治32年	1899	12月18日			前十時頃より雪トナリ積ルコト三寸許	
明治33年	1900	1月29日			昨夜大雪積ルコト八寸余、近来ノ大雪なり	
明治33年	1900	5月12日		前三時地震あり		宮城県北部　2時23分（経度：141.1°E、緯度：38.7°N、規模：M7.0）＜③＞のことを指すか。
明治33年	1900	5月15日		前七時過地震あり		
明治33年	1900	8月11日			雨乞ノ事	
明治33年	1900	9月28日	暴風雨、后一時止ム			台風による暴風雨。最大風速31.7m/s。＜①＞
明治34年	1901	2月7日			雪降、積ルコト三寸	
明治34年	1901	4月22日		夜地震あり		
明治34年	1901	7月13日			晴天、久々ノ晴レニテ諸人ノ悦極リなし	
明治34年	1901	12月26日	昨夜来暴風雨、本堂突然雨漏あり、蓋シ本棟ト下リ棟取付ノ所ならん、前九時頃雨止ム			
明治35年	1902	1月12日			前十時頃坂上ノ清太郎物置より出火、一棟ニテ鎮火ス	
明治35年	1902	1月22日			昨夜来降雪、積ルコト五、六寸	
明治35年	1902	8月9日	大洪水一升水ニ付、吹上早鐘大騒き之事			8月7～8日にかけて大雨（低気圧）。秩父では237mmの雨量＜①＞
明治35年	1902	9月9日	大洪水出ツ			9月7～8日にかけて台風による暴風雨。＜①＞
明治35年	1902	9月28日	未明ヨリ暴風雨、境内栗ノ木二本倒ル、竹垣破損あり、日暮風未タ止マズ			9月22～28日にかけて台風（二つの台風）による暴風雨。＜①＞
明治36年	1903	1月31日			曇天、後雪降リトナル、積ル五寸	
明治36年	1903	2月3日			夜明より雪降、積ルコト尺余、近来ノ大雪なり	
明治36年	1903	2月4日			夜三時瀧河原銀蔵方失火小家焼失	
明治36年	1903	2月8日	雨天、大宮より大久保良俊外三名同道芝へ寄、夕刻帰院、悪路泥濘困難ヲ極ム			
明治36年	1903	2月9日			夕刻七時団子や弥七方物置より出火、一棟焼失	
明治36年	1903	2月12日			夕刻より雨降リ夜ニ入リ雪トナル、積ル五寸	
明治36年	1903	5月26日			后三時より大雷雨、所沢最寄雹害アリシ由	県は入間郡内の雹害に救助金支出。＜①＞
明治36年	1903	6月5日			昨日赤羽停車場附近火事有之、戸数二百余軒焼失ノ由	
明治36年	1903	7月1日		前九時地震アリ		

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
明治36年	1903	7月9日	雨降、后暴風雨			
明治36年	1903	8月18日			晴天、早朝微雨あり、村方雨乞ノ事	
明治36年	1903	8月29日			晴天、風あり、旱リ久シク作物涸枯せり	
明治36年	1903	9月5日			晴天、三嶽山ノ御水来り雨乞之趣	
明治36年	1903	9月6日			曇天、雨乞ノ事、夕刻雷鳴アリ	
明治36年	1903	9月23日	雨天、暁より大雨風あり、后四時止ム、堂棟より雨漏ス			9月22～23日にかけて台風による暴風雨。19日から雨天あり。19～23日の雨量は県内では浦和の278㎜が最も多かった。＜①＞
明治36年	1903	10月2日	夜来大風雨			10月1～2日にかけて低気圧による大雨。＜①＞
明治36年	1903	10月6日			此夜月蝕、八歩七厘	
明治37年	1904	2月17日			昨夜雪降、積ル三寸	
明治37年	1904	3月17日			日蝕、金環蝕なり	
明治37年	1904	3月30日			今暁吹上源蔵馬屋より失火、馬一頭焚死ノ由	
明治37年	1904	4月24日			夜十二時過吹上森田方物置より出火、老爺八十余才焚死	
明治37年	1904	6月7日		后四時過地震あり		
明治37年	1904	7月10日	暴風雨、木小屋吹倒サル			
明治37年	1904	7月11日	曇天、風吹、時々驟雨あり、夜ニ入リ大雷強雨暁ニ至ル			
明治37年	1904	7月12日	曇天、前ノ田圃ノ川開キ一面海ノ如ク流ル、実ニ四十年来ノ地水なり			
明治37年	1904	8月6日			百向水車焼失ス	
明治37年	1904	9月17日	昨夜来暴風雨			9月16～21日にかけて、台風と熱帯低気圧による大雨。＜①＞
明治37年	1904	12月13日			后四時頃より雪トナル、積ルコト五寸、初雪なり	
明治37年	1904	12月14日			昨夜来大雪終日止マス、日暮ニ至リ殆ント尺余積ル	
明治38年	1905	1月3日			夜十時過坂上金三郎方物置ヨリ出火、肥馬屋共ニ棟焼失、一時間後坂清方ヨリ出火、重屋仕事場迄焼失	
明治38年	1905	6月20日	霖雨六、七日ニ渉リ大麦、小麦萌芽シ困難ス			
明治38年	1905	10月12日			昨夜十二時過宿山下小家火災有之	
明治38年	1905	11月17日			前十一時頃宿上ノ床場ヨリ出火、半焼ニテ鎮火ス	
明治38年	1905	12月30日			今朝雪積ル事五寸、初雪ナリ	
明治39年	1906	1月24日			雪降積ルコト六寸、近来ノ大雪なり	
明治39年	1906	2月9日			半夜ヨリ降雪、終日不止、積ル尺余、近年ノ大雪なり	県の南部では特に大雪となり、翌10日10時の積雪は浦和で22cm。＜①＞
明治39年	1906	2月23日		夕七時半地震ス		安房沖　18時49分（経度：139.8°E、緯度：34.8°N、規模：M6.3）＜③＞のことを指すか。
明治39年	1906	2月24日		前八時地震アリ		東京湾　9時14分（経度：139.75°E、緯度：35.45°N、規模：M6.4）＜③＞のことを指すか。
明治39年	1906	3月3日			昨夜来雪降、積ルコト三寸、正午止ム	
明治39年	1906	4月5日			夜九時過牛房幾造方物置焼失、類火なし	
明治39年	1906	6月14日			午前十一時過坂上かみや小屋より出火、一棟焼失見舞ニ行	
明治39年	1906	7月14日	風雨、此ノニ、三日前ヨリ天候険悪暴風雨の兆アリ			7月12～17日にかけて、低気圧と南東気流による大雨。＜①＞
明治39年	1906	7月15日	大雷雨、終日、潦水溢レ大サワギなり			
明治39年	1906	7月29日	大洪水			7月25～28日にかけて、台風による大雨。＜①＞
明治39年	1906	8月24日	午後ヨリ大風雨、夜十一時ニ至ル			8月22～24日にかけて、台風による大雨。＜①＞
明治39年	1906	12月22日			前十時新屋敷物置より出火	
明治40年	1907	1月3日			昨夜来雪降、今朝積る事三寸	
明治40年	1907	2月17日			前十一時頃、角仙方出火、直ニ消留ム、折節風吹近所大ニ噪グ	
明治40年	1907	8月15日	小嵐之事			明治40年の水害 8月22～28日にかけて台風による大雨。24日大洪水となる。＜①、②＞
明治40年	1907	8月16日	前日ニ続キ暴レ模様なり			
明治40年	1907	8月25日	風雨、大洪水諸川筋大害之由			
明治40年	1907	8月27日	本日ニテ雨天八日ニ渉ル			
明治40年	1907	8月28日	払暁ヨリ豪雨、前八時頃ヨリ晴天トナル			
明治40年	1907	9月18日	払暁ヨリ大雨風あり、小嵐なり			
明治40年	1907	9月22日		暁五時地震あり		

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
明治40年	1907	11月22日		夜二時半地震あり驚愕ス		2時17分頃強い地震あり。震央は東京から浦和を経て熊谷に至る利根川西側の低湿地帯。＜①＞
明治41年	1908	1月6日		昨夜零時廿五分地震あり		
明治41年	1908	2月8日			今晩、新倉ノ藤四郎方出火	
明治41年	1908	3月11日			夜来大雪、積ルコト一尺弱、近来春雪ノ著シキモノなり	
明治41年	1908	4月9日			夜来大雪、今朝積ルコト尺余、近来稀有出来事なり、終日止マス、夕刻より雨トナル	県下に晩雪としては大雪。住宅の倒壊等の被害もあった。大宮・浦和間で電柱が線路に倒壊したため列車は朝から昼過ぎまで不通となる等の被害もあった。＜①＞
明治41年	1908	6月8日			午後一時過雷鳴雹ヲ降ス、大サ径七、八分ヨリ一寸三分位ニ、近来ノ珍事なり、三時過又降雹、前回より稍小ナレドモ降ル量ハ多シ	寄居・大宮・越ケ谷を結ぶ線と秩父郡大滝・所沢を結ぶ線の間に降雹。大きさは指頭大で、大きいものは直径1寸5～6分程度。新倉にも農作物の被害があった。＜①＞
明治41年	1908	7月16日	朝来大雨、夜ニ入リて又豪雨、近来ノ大降なり			低気圧による大雨。＜①＞
明治41年	1908	8月7日	午後五時頃より大驟雨			
明治41年	1908	8月13日	半晴、少雨あり、洪水七、八合出ル			8月10～12日の大雨＜①＞の影響か。
明治41年	1908	12月28日		早夜地震あり		山梨県中部　17時08分（経度：138.65° E、緯度：35.6° N、規模：M5.8）＜③＞のことを指すか。
明治42年	1909	1月10日			昨夜来雪降、三寸積リ十時頃止ム	
明治42年	1909	1月14日			今朝雪積三寸	
明治42年	1909	1月18日			雪降、積ル三寸余	
明治42年	1909	3月17日			昨夜来大雪、積ル四寸余、正午頃止ム	
明治42年	1909	3月26日			夕刻ヨリ雪降積ル、三寸許リ	
明治42年	1909	7月3日		朝六時強震あり		東京湾西部　5時54分（経度：139.8° E、緯度：35.5° N、規模：M6.1）＜③＞
明治42年	1909	8月6日	未明大驟雨あり			
明治42年	1909	12月11日			夜八時半赤塚ニ出火アリ	
明治43年	1910	1月1日		午後四時小地震アリ		
明治43年	1910	1月12日			今朝雪、積ルコト四寸余	
明治43年	1910	1月26日			昨夜来雪降、積ル三寸余	
明治43年	1910	2月13日		今暁三時地震あり		
明治43年	1910	2月17日			朝来雨降、後雪トナリ積ル事二寸許リ、夕刻止ム	
明治43年	1910	3月12日			昨夜来大雪降、十一時積ルコト八、九寸	
明治43年	1910	5月12日			本日大清潔法執行、宿中大騒キナリ、猩紅熱病死患者二、三名アリシニ依ル	
明治43年	1910	5月19日			本日ハレー彗星地球ニ近接ノ趣、無事なり	
明治43年	1910	8月8日	大雨			明治43年の水害 8月1～16日、2個の台風と低気圧の停滞による大風で県下に大水害。＜①、②＞
明治43年	1910	8月9日	大雨			
明治43年	1910	8月10日	大雨、小嵐なり、夜ニ入リ暁迄大雨			
明治43年	1910	8月11日	晴天、未曾有大洪水、上新倉土手決裂土手惣こしの由、牛房天王坂崩壊ス			
明治43年	1910	8月13日	大風雨、洪水又増ス			
明治43年	1910	8月14日	風雨、棚経困難、越後山七軒分行クコト能ハス			
明治43年	1910	9月2日	古谷へ洪水見舞ニ行			
明治43年	1910	9月18日	晴天、久しブリニなり			
明治43年	1910	10月25日		夜明ケ三時半地震あり		3時22分頃地震。熊谷では時計が止まったという。＜①＞
明治44年	1911	1月11日			昨夜来雪降、二寸許リ	
明治44年	1911	1月20日			昨夜来降雪、正午積ルコト五寸余	
明治44年	1911	3月17日			昨夜来雪降、今朝積ルコト三寸	
明治44年	1911	3月31日			今暁四時鈴木近傍より出火、大騒キナリ	
明治44年	1911	5月28日			午前二時少し前米安水車より出火、局ノ晒し工場并倉ノ上屋焼失	
明治44年	1911	6月19日	夜来雨降、午前七時頃より暴風雨トナリ八時九時ノ交尤モ甚シ、午後より向山新宅初七日回向ニ行、樹木、屋根ノ損害多シ			台風による暴風雨。＜①＞
明治44年	1911	6月28日	夜来暴風時々雨ヲ交フ			
明治44年	1911	6月29日	昨夜来雨降			
明治44年	1911	6月30日	強雨降続く			
明治44年	1911	7月3日	雨天、霖雨七、八日ニ渉リ難儀なり、且冷気東風模様なり			
明治44年	1911	7月4日	昨夜来間断なく豪雨、夕刻漸く止ム			

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
明治44年	1911	7月26日	夜来南ノ暴風雨、一、二時ノ頃最も甚し			7月25～26日、台風による暴風雨。＜①＞
明治44年	1911	8月4日	昨夜来雨間なく降続き今朝強雨盆を覆す、終日荒模様風吹			8月4～5日、台風による暴風雨。＜①＞
明治44年	1911	8月10日	曇天、荒模様、午後二時頃より豪雨雷鳴、夜ニ入り尚甚し			8月8～10日、前線による大雨。＜①＞
明治44年	1911	8月11日	雨降、昨初夜より暁ニ至ル、間断なく豪雨、大出水なり			
明治44年	1911	8月21日		午後四時半地震アリ		
明治44年	1911	9月11日			夜九時牛房村田新五郎出火全焼、赤塚ニモ出火アリ	
明治44年	1911	9月16日		午後地震アリ		
明治44年	1911	9月17日		午前地震アリ		
明治44年	1911	11月5日		午後六時地震アリ		
明治44年	1911	12月24日			霰甚シ	
明治45年	1912	2月4日			今朝雪、積ル事三寸許	
明治45年	1912	3月13日			北風雪交リ雨降後雪トなり積ル事二寸許リ	
明治45年	1912	6月17日	昨夜来引続き強雨間断なし			
明治45年	1912	6月18日	晴天、小洪水之由			
明治45年	1912	7月30日			成増ノ田中倉次郎居宅午後五時出火す	
大正元年	1912	8月14日	午後五時頃ヨリ大雷雨、好湿リ、皆大ニ喜ぶ			県の東部から南部を中心に強い雷雨となる。県下で降雹、旋風の被害が生じたところもあった。＜①＞
大正元年	1912	9月1日	昨夜来風雨、小嵐なり、午前十時頃大雨なり、終日止まず			
大正元年	1912	9月23日	夜明ケ四時頃より暴風雨、近来ノ荒なり、大雨なり、門、長屋等危ク院内総出、廣吉来援、張ヲカヘ、竹垣総体皆損傷、門前六地蔵小屋諸々タオレ、石像三体タオル、十二時頃止ム、晴ル			9月21～23日、台風による暴風雨。県下で死者6人、負傷者31人、家屋の全壊が950戸、半壊1652戸をはじめ、強風被害が全県にわたって著しかった。＜①＞
大正元年	1912	12月23日			暁来濃霧、十一時晴、近来ノ奇現象なり	
大正元年	1912	12月29日			昨夜来大雪、本日終日止マス、積ルコト尺余、初雪ノ大雪なり	
大正2年	1913	2月21日			廿日午前一時東京神田三崎町より出火、三千六百余戸焼尽ノ趣	
大正2年	1913	5月22日		東京滞在、朝強震あり		
大正2年	1913	5月29日		午後七時過地震あり		
大正2年	1913	8月27日	夜来大雨、暁方より豪雨トナリ、東北風加リ小嵐ナリシガ、午後二時頃風静ナレトモ未ダ晴レズ			8月26～27日、台風による暴風雨。県下で死者16人、負傷者19人、住家の全壊60戸、半壊115戸、流失115戸、破堤155か所をはじめ、多くの被害があった。＜①＞
大正2年	1913	9月1日	少雨、十時雷鳴大雨沛然止マズ			
大正2年	1913	9月2日	昨夜来引続き大雨降、冷気なり、再度ノ出水なり			
大正2年	1913	10月4日	柴宮渡船満水風荒シ危険ヲ感ス、			
大正2年	1913	12月16日			初雪降、大雪なり、夕刻積ル事八寸	
大正3年	1914	1月14日	午後ヨリ天候険悪、西南ノ暴風雨ヲ交へ大雷鳴一時前、二時過尚止マス、寒中ノ変候近来稀有ノ事なり			
大正3年	1914	1月16日			夜十一時上新倉漆台ニ失火アリ、七棟焼失ノ由	
大正3年	1914	2月9日			昨夜より引続き雪降、今朝積ル事尺余、十時頃より晴ル	
大正3年	1914	2月23日			昨夜来雪降、積ルコト六寸、夕刻止ム	
大正3年	1914	3月26日			昨夜雷鳴雪交リ大雨降、終日少雨、寒甚し、夜ニ入リ雪交リ降	
大正3年	1914	4月8日			雨天、時々驟雨あり、寒風吹、東京地方五厘銭大ノ雹二回降候趣	
大正3年	1914	5月20日		夜十一時過地震あり		
大正3年	1914	6月9日	昨夜来雨降、七時頃大強雨			
大正3年	1914	8月7日			晴天、宿井ニ牛房ニテ雨乞ノ事	
大正3年	1914	8月8日			晴天、引続き雨乞ノ事	
大正3年	1914	8月13日	未明より荒模様、風雨、嵐なり、二時過止ム			台風による暴風雨。県下で死者5人、負傷者6人、住家の全壊26戸、半壊16戸、堤防破堤73箇所をはじめとした被害があった。＜①＞
大正3年	1914	8月14日	朝少雨、後晴、暑シ、荒川洪水四合水なり			
大正3年	1914	8月29日	昨夜来雨降リ、好湿なり、午後より東北ノ暴風雨トナリ、夜ニ入リ益強く暁ニ至ル			8月28～30日、台風による暴風雨。県下では大里郡などで破堤し、死者13人、住家の全壊44戸、半壊47戸、堤防破堤159箇所等の被害があった。＜①＞
大正3年	1914	8月30日	半晴、風吹、荒川洪水前回ヨリ大なり			

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
大正3年	1914	9月14日	昨夜来引続き強雨間断なく、十時過ヨリ非常ノ豪雨、庭一面川流をなし、崖崩れ等損害あり、夜ニ入風加リ暁ニ到ル			9月13～14日、台風による暴風雨。県内の雨量は浦和の278㎜が最も多く、河川は増水して8月の被害場所から比企郡吉見村に浸水する等の被害があった。＜①＞
大正4年	1915	1月8日			今朝雪積ルコト七、八寸	
大正4年	1915	1月11日			昨夜来又雪降、積ルコト五寸許	
大正4年	1915	2月19日			朝来雪降、積ル三寸許、午後止ム	県下に大雪。19.5cmの積雪。＜②＞
大正4年	1915	2月27日			今朝雨トナル、雪積ル五寸許、大雪なり	
大正4年3月1日から大正9年7月31日まで欠本のため不明						
大正9年	1920	9月30日	昨夜来雨降、午後より大雨、夜半ニ至リ東北風加リ小荒なり			9月29日～30日、台風による大雨。被害は比較的少なかった。＜①＞
大正9年	1920	10月29日			夜十時頃ヨリ大雷鳴少雨あり、一時間余鳴動セリ	
大正9年	1920	12月7日			昨夜来少雨、今朝雪トナル、初雪なり、積量七、八寸、近来初雪トシテハ大雪なり	
大正9年	1920	12月20日		朝地震あり		
大正9年	1920	12月31日			朝来雪降、午後二時二寸許積ル	
大正10年	1921	1月1日			昨夜雪止ム、積ルコト五寸許	
大正10年	1921	2月3日			正午頃ヨリ雪降トナリ、終夜風雪積ルコト八寸許リ	
大正10年	1921	2月14日		正午少し過地震あり		
大正10年	1921	3月28日			昨夜来雪降、今朝積ルコト三寸余、八時過盛ニ積レリ	
大正10年	1921	4月3日	十時頃より南風雨降、小嵐トナリ、夜ニ入リ益激しく払暁止ム			
大正10年	1921	4月6日			前八時四十分浅草大火	
大正10年	1921	9月4日	午後より雷雨、六時頃より大雨大降近来ノ大雨なり			
大正10年	1921	9月8日	昨夜来大雨、午前暴風雨トナル			9月8日、台風による大雨。県下では農作物に被害があった。＜①＞
大正10年	1921	9月25日	午後四時ヨリ風雨、小嵐なり			
大正10年	1921	12月8日		夜九時半近来ノ大地震アリ		龍ヶ崎付近　21時31分（経度：140°02′ E、緯度：36°0′ N、規模：M7.0）。＜③＞ 熊谷の発震時は21時31分47秒。＜①＞
大正10年	1921	12月29日		夜十一時地震有之		
大正11年	1922	1月1日			昨夜来雪降、今朝積ルコト二寸許	
大正11年	1922	1月14日			正午鳴動アリ、アサマ山フシ火ノ由	
大正11年	1922	1月15日			今朝雪積ルコト五、六寸	
大正11年	1922	1月19日			曇リ雪止、積ルコト八寸許リ	
大正11年	1922	1月30日			今朝雪積ルコト二寸許リ	
大正11年	1922	2月16日	引続き雨降、夜ニ入リ風雨トなり、竹山ノ垣崩壊サル			
大正11年	1922	3月7日			昨夜来雪降、本日積ルコト三寸	
大正11年	1922	4月26日		午前十時過大地震アリ十分間フレル、三十年来ノ大地震ノ由、被害ナシ		浦賀水道付近　10時11分（経度：139.75° E、緯度：35.2° N、規模：M6.8）東京湾沿岸に被害あり。＜③＞ 熊谷の震度は4。＜①＞
大正11年	1922	8月24日	朝来暴風雨、午後三時頃迄止マス			8月23～24日、台風による暴風雨。県下では全般に被害が発生し、死者4人、負傷者1人、住家全壊2、半壊12、堤防破堤21箇所等の被害があった。＜①＞
大正11年	1922	8月26日	大雨暴風			
大正12年	1923	1月25日			昨夜来雪降、終日止マス、日暮積ルコト五寸許リ	
大正12年	1923	2月7日			曇リ、午後ヨリ雪トナル、日暮三寸計積リ	7日10時頃から雪が降りだし、時々強く降って8日昼過ぎに止む。浦和で24cm、熊谷で17cm、秩父で36cmの積雪が確認されている。＜①＞
大正12年	1923	2月8日			曇リ、昨夜中雪降リ今朝積ルコト尺余、近来ノ大雪なり	
大正12年	1923	4月6日			今朝雪積ルコト三、四寸、近来ノ珍雪なり	5日午後より6日朝まで雪。5.6cmの積雪。＜②＞
大正12年	1923	6月1日		夜一時頃地震二回あり		
大正12年	1923	6月2日		前八時地震あり		

和暦	西暦	月日	風水害・土砂災害	地震災害	その他の災害等	備考（その他の記録から分かる情報）
大正12年	1923	9月1日		朝来風雨荒模様、午前十一時四十分俄ニ大地震揺リ廻リ十四回あり、本堂壁二間崩壊全部ヒビ入リ、花瓶大位牌タヲル損害多大なり、墓地石碑三分ノ一タヲレ地福大半タヲル、鎮守ノ鳥居崩レ、新倉ニテ二、三家屋崩レシ由、此夜警戒ノ為メ消防夫総出ニテ終夜警戒、地震ト同時ニ東京方面大火事夜ニ入リ益盛なり、焼失、本郷、下谷、神田、日本橋、京橋、本所、深川、大半焼失ノ由		関東南部（関東大地震）　11時58分（経度：139° 08′ E、緯度：35° 20′ N、規模：M7.9）。＜①、③＞ 大正12年10月「震災罹災状況調」＜⑤＞によれば、新倉村で全壊１、半壊１、白子村で全壊２の被害が生じたとされる。また、非住家でも白子で1、新倉で6の全壊があり、死傷者は白子で3人、新倉で2人とされる。＜①＞
大正12年	1923	9月7日		夜十一時過地震あり		
大正12年	1923	9月14日	朝より豪雨			
大正12年	1923	9月27日		地震三回あり		
大正12年	1923	10月12日	九時頃豪雨雷鳴アリ			
大正12年	1923	11月22日		前一時過二回地震、十二時前一回アリ		
大正12年	1923	11月23日		午前十一時地震あり		
大正13年	1924	1月15日		朝六時激震あり、本堂大位牌投ダサル		丹沢山付近　5時50分（経度：139° 03′ E、緯度：35° 20′ N、規模：M7.3）＜②、③＞。 強い地震を確認したが、県下では壁に亀裂が生じた程度であった。＜①＞
大正13年	1924	1月27日			昨夜より雪降今朝三、四寸積ル	
大正13年	1924	2月2日			昨夜来雪降、午後迄三寸計積ル午後止ミ曇リ	
大正13年	1924	5月25日			午後四時頃雨交ノ雹降、多少損害あり	県下で降雹あり。秩父では強雷もあった。＜①＞
大正13年	1924	5月31日		夜九時ヨリ十二時過三回ノ小地震あり		
大正13年	1924	6月6日			桶太方ニテボヤあり大騒セリ	
大正13年	1924	6月18日			昨夜雷鳴あり、戸障子大ニ振レル、電灯消エ	
大正13年	1924	7月4日		朝六時過地震あり		
大正13年	1924	7月13日		夜二時地震二回アリ		
大正13年	1924	7月29日			夜十二時過百向醤油屋肥小屋焼失	
大正13年	1924	8月13日		夜三回小地震あり		
大正13年	1924	8月26日	雨天、正午頃より豪雨日暮ニ至ル、近来ノ大雨なり			

【講演録】[1]

新倉地域の伝統行事

- 冨岡家を中心として -

講演者：冨岡　進

写真１　講演の様子
（平成 26 年 10 月 22 日撮影）

今、教育委員会の鈴木さん（和光市教育委員会職員）のほうから御紹介いただきました冨岡でございます。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

お手元のほうに配らせていただきました資料（表１）なんですけども、年間行事という形でメモしてあります。これは茅葺（旧冨岡家住宅）の当時もそうでしたけども、現在の新しくなりました家でもまるっきり同じことをやっております。新倉地域もほぼ同じではないかなと思うんですけども、鈴木さんのほうからお話があったように、その家その家で神様に飾るものだとか、仏様にお供えするものだとか、そういうものが違うということがあるかもしれません。冨岡家ではここに書かれているような形で行っておりますので、ちょっと行事は多いんですけども、一つ一つ説明させていただきます。

１．１月の行事

元旦、元日の朝ですね。神棚、それから恵比寿大黒、この恵比寿大黒は恵比寿様と大黒様を一つのお宮の中に飾ってあるものです。それから荒神様。今この茅葺でもカマドの上にまつってありますけども、そこへお供え物をする。表１に「準備品」と書いてありますけども、ここに御神酒、それから鏡餅、お雑煮、灯明、蝋燭の明かりですね、それから榊、これを元日の朝飾ります。それを行うのは当主です。元日の日、二日、三日、この三日間は当主がお雑煮を作ります。女性は手を触れないで、男が作る。それでサンガンニチ、神様にそれはお供えする。それで神様にあげるときに、直径 10cm くらいの白いお皿を使うんですけども、それにお雑煮を乗せて飾り付けるんですけど、二日目はそれをキレイに払ってしまわないで、その上に足していきます。これはサンガンニチ足していきます。そういうような形でお正月の神様へのお供え物を作る。

次は７日の日なんですけども、これは七草。神様へ七草を刻んだものをご飯の上に振りかけて、お供えをする。それは先ほどの元日の

日と同じように神棚と恵比寿大黒と荒神様です。

８日の日に門松を外すんですけども、これは門松を外すだけで、神様に対する行事は行いません。門松だけをこの日はうちでは外しております。

それで 11 日の日に鏡開き。神様にお供えしたお餅をでお雑煮を作るんですけども、お餅を細かく砕く、あるいは包丁を入れましてね、それでお雑煮を作って神様に御神酒、それから灯明をお供えする。

14 日の日なんですけども、これは繭玉作り、飾りですね。神棚と恵比寿大黒と荒神様、それから稲荷様。私どもの所には二つの稲荷様がありまして、駒形稲荷神社という稲荷と、正一稲荷大明神という、二つの稲荷様がありますので、その稲荷様にも繭玉を飾ります。それで繭玉は、うるちの粉を丸めて、蒸かしてですね、それを繭の形にしたり、あるいは野菜の形にしたり、色々な形を作りまして、それで色を添えるために食紅で赤く染めたものを、あるいは白いうるちのその粉のままのものを作りまして、キンカン、それを梅の小枝に刺しまして、それと一緒に先ほど申し上げました神様の方へお供えすると。その時も同じように御神酒ですとか、御灯明というのは一緒に飾りこみます。

それで次は 15 日の小正月なんですけども、これは他所のお宅はどういう形で神様に対してやっているのかわからないですけども、うちでは小正月っていっても神様に手を合わせるっていうことはいたしません。当家に嫁いできた嫁さんですとか、お正月当家に来られるお客様の接待で実家に帰るということもできませんので、この正月を使って里帰りをする。あるいは家に残る女衆にちょっと休憩を取ってもらう。身体を休めてもらうという風な形で小正月を行っております。

次の 20 日の日なんですけども、恵比寿講ですね。これは恵比寿様と大黒様をテーブルの上におろしまして、そこへ尾頭付きの魚、うちでは「さば」をつかっておりますけども、さばを恵比寿様と大黒様ということで二匹。それからうどん。これもお皿に二つうどんを盛りまして、それからおつゆですね。これも二つ。薬味、それから一升枡。枡は一つです。それで御神酒と灯明。それでこの枡の中には家族のお財布ですとか、給料袋があれば給料袋を入れたりして、「お金が増えるように」っていうことでお願いする。それで神様達に色々お供えするときには、必ずその前には「キリヒ」をします。よく時代劇で「チャッ

写真２　駒形稲荷神社と正一稲荷大明神

チャッ」っていうのを見ますよね。石に金物を当てて。あれを必ず神様のことについては、お供えするときには「キリヒ」をいたします。これは、神様のことに関しては必ず「キリヒ」をするということです。

2．2月の行事

２月３日に入りまして、これが節分です。豆まき、それから主屋と物置の戸口に鰯の頭、柊を飾る。それで鰯の頭、これは鰯一本の頭だけを串に刺すんですけども。串に刺して、炙るんですよね、火で。その時にですね、私どもは農家ですので、その時に作付けしてあるほうれん草ですとか、小松菜ですとか、にんじん、大根、まぁ色々ありますけども、そういう作物名を先に言って、虫封じの意味の言葉を唱えます。そのときに、「ホウレンソウのム～シ、シ～ネシネ」って言うんです。ですから小松菜でしたら「コ～マツナ～のム～シ、シ～ネシネ」って言いながら、ちょっと汚い話ですけども、ツバではないんですけども、「ぺっぺっ」っていう風な言葉を言いながら真っ黒になるまで炙ります。串に刺した鰯と柊とを対にして、戸口、玄関ですとか窓、そういう外から鬼が入ってくる場所っていうのは全て準備したものを取り付けます。ですからウチは茅葺のときもそうでしたけども、主屋と物置で合わせると 24 箇所、これを作りまして、それを付けてまわりました。その付ける前に鬼は外、福は内というような豆まきをするんですけども、豆まきの後ですね、今申し上げました魔除けのものを戸口に刺す。

それで４日立春。節分は立春の前の日ということなります。その次に「宵宮さま」というのがあるんですけども、この宵宮さまというのは初午の前の日のことをいうんですよね。それで初午は、表には日にちが入っていませんけども、毎年日にちが変わります。「節分が過ぎての初めての午の日」が、初午になりますので。初午は半紙の上に赤飯、それから油揚げ、灯明、そしてここに四箇所の稲荷様と書いてありますけども、私どもの２つの稲荷様と、それから分家のお宅の稲荷様、分家が２軒あるんですけども、そのお宅の稲荷様に半紙の上のお赤飯と油揚げを持っていく。そして初午の前日が宵宮さま。私どもの駒形稲荷神社、これを障子紙にですね、「奉納駒形稲荷神社　○○年二月初午」と書いたものを、私どもは正一稲荷と駒形稲荷で一本ずつ旗を作りまして、それを自宅の稲荷様に飾る。それから分家のお宅には正一稲荷っていう稲荷様をまつってありますので、夜ですね、初午の前日の夜に旗だけを立ててきまして、翌日の初午の日に改めてお赤飯と油揚げをのせた半紙をまつります。

3．3月の行事

３月３日はひな祭り。飾りつけは２月中旬に行いまして３月４日まで飾り付ける。準備はお雛様とちらし寿司、はまぐりのお吸い物、白酒、ひし餅、あられ、桃、菜の花。今申し上げた準備品を、お雛様の前に飾ります。

18 日の日は春の彼岸の「入り」です。墓参りをするんですけども、そのときの準備といいますと、朝はぼたもちか饅頭、お昼はうどん、夜はなんでもよしって書いてあるんですけども、そのときそのときの食事をする。それでお寺さんに頼んでありました彼岸供養の塔婆をいただいてきて、それは仏様の前に彼岸の入りは飾っておきます。それで 21 日は春の彼岸の「中日」です。やはり朝はぼたもちかまんじゅう、昼はうどん、夜はなんでもよしという風になっていて、その日に彼岸塔婆、彼岸の供養の塔婆を墓地に持っていって供養する。お墓参りですね。それでこの「中日」というのが春分の日です。24 日は春の彼岸の「明け」。やはり朝昼晩は、入りと中日と同じような食事を仏様にもあげたり、自分たちでもいただく。

４．８月の行事

それで、４月、５月、６月は、何も行事が無いんです。それで８月に入りまして、七夕。東京の方は７月ですけども、新倉では８月の７日が七夕飾り。６日の日に飾り付けて８日の朝には、昔は川に流しましたが今は流せませんので、それは燃やすとかして処分しています。それで８月６日に笹飾り。すいか、まんじゅう、灯明、うどん。それで備考のところに朝はまんじゅう、昼はうどんと書いてますが、やはりうどんはお昼に食べています。夜うどんでもいいような気がするんですけども、うちではお昼はうどんです。

13日はお盆ですね。これはやはり「入り」っていうんですかね、盆棚を飾ります。民家園でもお盆には盆棚を飾ると思いますけども、解体してある盆棚を組み立てて、仏様に入っている位牌ですとか、それから仏具、そういうものを盆棚の中に収めて飾りこみます。それで盆棚の周りには昔からたたんであります掛け軸とか、そういうものを飾りこんで、13日の夕方、あまり遅くならない、いくらか日が落ちてきたかなという時間帯に、仏様を迎えにお墓に行きます。その時に提灯を持っていくんですよね。やはり仏様の足元を照らして転んだりしないようにということで、今は少なくなってきましたけども昔は個人個人の家紋の入っている提灯で足元を照らして、仏様を迎えてきました。それでうちに来ますと、仏様に入っていただく場所にはバケツに水を半分くらいはって、足を洗っていただくということで、バケツを用意してあります。それと足を拭くタオルとか手ぬぐいですね。それで仏様に上がっていただいて、ゆっくりしていただくと。それでそのお迎えする13日の日なんですけども、盆棚に飾る野菜があります。スイカだったり、果物だったり野菜だったり、花、ナスの賽の目。これはナスを細かく切ったものをちょっと深鉢にハスの葉をひき、その上に入れます。それでミソハギという花があるんですけども、そのミソハギを何本か束ねまして、手で持つところを半紙でくるみまして、糸で半紙がほぐれないように巻きまして、それでその先ほどのお皿にナスを刻んで入れたものの上に載せて、それも盆棚の中に飾りこみます。それで深鉢の中にお水を入れるんですけども、深鉢のナスとお水を入れる前に、蓮の葉を、蓮の葉がなければサトイモの葉ですとかイモの葉ですね、これをお皿の上に載せて、それにナスを刻んだものをいれて、お水をひたす。そういうものを盆棚の中に準備します。それで盆棚の周りには縄を張るんですけども、縄のところにはほおずき、ほおずきはうちでは葉を全部はずします。他所のお宅はちょっとどうだかわからないんですけども、うちでは裸になるような形で、茎にほおずきの実だけがついているようなものを一緒に縄のところにつけて飾りこみます。お迎えした晩はかぼちゃとご飯をお供えします。それで盆棚の上にちょうどＡ３の用紙の幅くらいの「お盆」なんですけども、昔からあるお盆なんですが、それにお茶碗、小さな湯呑みですね、これを５つ、四隅と真ん中に一つずつ、それを配置して、それにお茶を注いでおく。それからもう一つのお盆にはやはり５つ、小皿に載せたご飯を四隅と真ん中に一つおかずという形で、盆棚に飾りますけども、それで盆棚の前に座布団を引くんですけども、その盆棚の下、やはり同じようにこれはお盆に小さな湯のみ茶碗にお茶を注いだものを一つのせたもの、それとご飯とおかずをのせたもの、それを盆棚の下に飾るんです。それが仏様のお付きの人の分なのか、それが私もちょっとわからないんですけども、昔からそのようにやっております。

それから14日のお盆は、朝がおまんじゅう、お茶、お新香。昼がうどん、天ぷら、薬味。夜は家族と同じ食事、まぁ何でもいいということですかね。それからお茶。それで13日の日にお迎えしたときにあげたナスの賽の目にしたもの、それからひたしたお水ですね、そうしたものを新しくする。

15日のお盆なんですけども、仏様の食事

は前日と同じで、夜、仏様が乗って帰る乗り物としてナスとキュウリに足をつけたものを飾ります。それからお土産の団子。それで15日に新倉地区は送っているんですけども、やはりゆっくりウチにいてほしいということで、夜遅くに送ります。ちょうど東上線の坂戸あたりから秩父の方、群馬の方にかけては16日に送っているんですよね。新倉地区は早く、先ほどの夜遅くゆっくり休んでいただいてから送るということもお話しましたけども、働くということから考えると早くお盆を終わらせたいということがあるから15日に送ってしまうのかなという感じもするんですけどもね。新倉の方は田んぼ地帯ですからね。場所が違うということで秩父の方は16日に送るけども、新倉地区では15日に送るということになっております。

16日、お盆の次の日なんですけども、やはり墓参りをします。それで墓参りをするときにはお寺さんで施餓鬼塔婆っていうのをいただいて、それをもってお墓参りにまいります。お盆が終わって24日の日なんですけども、盂蘭盆っていうのがあります。うちは朝はおまんじゅうとお茶ぐらいで、墓参りをするんですけども、このときはお盆でお客様を迎えるということで、働き手の女の人がゆっくりできないということで、そのうちに嫁いできたお嫁さんは実家の方で休養、里帰りをさせるようなことで、この盂蘭盆っていうのは始まったのかなと思っております。ですから正月明けの小正月と同じようにお嫁さんたちの休養を兼ねた日ということで、この盂蘭盆がこの地区で行われているのかなと思っています。

5．9月の行事

9月15日、お月見。これは十五夜ですね。ススキを5本、サトイモ、豆腐、クリ、これは果物ですので柿かミカンなど、その時あるもの、それから灯明、御神酒、団子。団子は15個つくります。それで「キリヒ」をして、テーブルの上に窓を開けて、お月様の見えるようなところに飾りこみます。

20日の日は秋の彼岸の「入り」です。やはり墓参りをして、朝はおはぎかまんじゅう、昼うどん、夜はなんでもよい。それでお寺さんから彼岸供養の塔婆を彼岸の入りの20日の日にいただいてきます。

23日は彼岸の「中日」なんですけども、これは秋分の日です。やはり準備する食事ですとかそういうものは入りと同じで準備し、それで入りの日にお墓参りをするときに、お寺さんからもらってきた彼岸供養の塔婆を置きにもっていきます。

それで26日は秋の彼岸の「明け」になりますので、この日もやはり同じようにおはぎをつくったり、まんじゅうをつくったり、そして昼はうどんということで仏様にあげます。

6.10月の行事

10月に入りまして、13日の日がお月見の十三夜です。このとき準備するものはススキは3本、お団子は13個、サトイモですとか豆腐ですとか、果物、灯明、御神酒。

31日、荒神様出雲へお立ち。出雲大社というのはあらゆる神様が集まるということで、この日に荒神様も出雲に行くということで、うちでも団子は36個、それから黄色い小菊、灯明、お神酒を荒神様にお供えする。荒神様は火の神様、カマドの神様をいいますが、ここのカマドの上にまつってあるのが荒神様ですね。この荒神様が10月31日に出雲へ出かける。

7.11月の行事

11月20日が恵比寿講。やはり1月の恵比寿講と同じように、尾頭付きのサバ2匹、うどん、つゆ、薬味、それから一升枡、御神酒、灯明。このときにお願いすることは、お金が増えるようにということで、持っているがま

口ですとか、お財布ですね、それから給料袋を入れたり、ヘソクリがあればそれを入れたり、というかたちで何とかお金を増やしてほしいということで、お願いする。

30日の日に荒神様が出雲からお帰りになります。そのときもやはり団子は36個、黄色い小菊、灯明、お神酒をお供えする。

8.12月の行事

12月の冬至。これは一年中で一番昼間が短い日。このときはカボチャを甘辛に煮て、ゆずも皮付きを薄く刻んでそれをお砂糖をからめて食べると。それからゆず湯に入る。無病息災で過ごせるようにお願いしながら食べる。

それから餅つきなんですけども、暮れの29日は、「くんち餅」といって、あまり良い日ではないとされておりまして、29日の日は避けます。ただあまり早く餅をついてしまいますと、カビが生えたり、日持ちが悪いので、まぁ28日に、うちはつくようにしています。

大掃除。これは居宅だけではなく、神様、全てのお宮ですね。これをきれいにします。それでそこに入っているヘイシン。ヘイシンは紙で白くてこのようになってて、柱に立ててあるヘイシンですが、このヘイシンですとか、他の飾り物は全てはずして、新しいものに掃除の後、きれいにしたところにまつりこみます。28日、正月飾りですが、掃除の後なんですけども、神棚ですとか、恵比寿、大黒、荒神様、それから稲荷様、そこに先ほど申し上げたヘイシンですとか、注連縄、それから御札。新しくいただいた天照皇大神宮、それから私のうちでは明治神宮。御札が三つ入るようになっていますので、天照皇大神宮、明治神宮、それから地元の氏神様である氷川神社、この三つのお札を納めます。それでその行事というのは28日にやるんですけども、どうしてもやれなくて31日になるようでしたら、31日の日にはやりません。これは「一夜飾り」といってあまり良いとされていないので、うちでは掃除をして、どうしても30日にやれないようでしたら、元日の朝、鏡餅ですとか御神酒ですとか、そういうものをあげる前に、飾り付けをしまして、元日の日のお供え物をまつります。ですからなるべく28日の日に飾り付けができるように掃除も終わらせてやるんですけども、他の事で色々とやれないときには、元日の朝ということですね。

31日の日は、1年間で最後の行事なんですけども、鬼玉と申しましてね、俵の形のおにぎり、これを12個うちでは握ります。小さな俵形なんですけども、それを12個お皿の上に乗せまして。これは神様ではなく仏様です。それまでは仏様の扉っていうのは開けてあるんですよね。それで毎日お水とお茶と、そういうものをあげてお参りしているんですけども、31日の日はその鬼玉というおにぎりをつくりまして、それを仏壇に入れまして、仏壇の扉を閉めます。それで閉じて、冨岡家としては正月開けの7日まで扉は開けません。暮れに鬼玉を飾りこむっていうことは、正月の時には仏様のことは忘れようと。おめでたい正月ですので、神様の行事に専念するということで、7日まで仏壇の扉は閉じておきます。

9.最後に

ちょっと同じような言葉の行事がたくさんあって、お聞き苦しい点があったかと思います。

それで表1の下に※で、春の彼岸のぼたもちとありますが、これはボタンの花に見立ててぼたもちなんです。それをうちはつくります。つぶあんですね、もちろん。ぼたもちは。それで秋の彼岸のときにはおはぎをつくります。これはハギの花に見立てたものということで、うちではおはぎを秋の彼岸にはつくることにしています。これはこしあんです。それから先ほどお話したように、駒形稲荷と

正一稲荷が我が家にあるということ。そして年二回の恵比寿講は、1月は恵比寿様が働きに出かける、11月は恵比寿様が働きから戻ってくる。先ほどお話した1月20日の恵比寿講のときは働きに出かけてもらう、11月20日の恵比寿講は、恵比寿様・大黒様が働きから戻ってくる。

それから秋の彼岸明けから春の彼岸の入りまで、このときは神様の行事だけなんです。仏様の行事っていうのは無いんですよね。ですから寒い時期は神様の行事、それから春の彼岸の明けから秋の彼岸の入りは、七夕様とお月見以外は仏様の行事。七夕様とお月見というのは空を見上げて星のことの行事なので、身近な行事のことではないのであれですけども、この暖かい時期というのは仏様の行事を行っています。

長い時間、お時間をいただいてお話させていただいたんですけども、冨岡家の年間の行事ということでちょっとお話させていただきました。どうもありがとうございました。
（会場拍手）

＜質疑応答＞
質問：五月の端午の節句というのは、冨岡家ではどのように行っているのでしょうか。
回答：昔から冨岡家はわりかし女系家族なんです。男子があまりいなかったんですよね。そういうこともあってか、男の節句はあまりやってないんですよ。

【註】
1. この講演録は、平成26年10月22日に和光市教育委員会主催により行われた「古民家と地域の伝統体験講座」の第1回目において、冨岡進氏により行われた講演の内容を、録音記録を元に、和光市教育委員会生涯学習課職員の手により活字化したものである。活字化の過程において、講演者の講演内容を変えることが無い様できる限り努めたが、講演者の了解のもと、体裁（月ごとの見出しを付ける等）等、内容の意図に反しない程度に若干の加筆・修正を加えていることをお断りしておく。

とみおか　すすむ（和光市文化財保護委員）

表1　冨岡家年間行事

2014.10.22　冨岡進作成

月	日	行事	準備品	備考
1	1	元旦に神棚・恵比寿大黒・荒神様、稲荷様へのお供え	御神酒・鏡餅・お雑煮・灯明・榊	お雑煮は三願日の朝、男性が準備
	7	七草	神様へ七草を振りかけたご飯をお供え（神棚・恵比寿大黒・荒神様）	
	8	門松を外す		
	11	鏡開き	神様にお供えしした鏡餅でお雑煮を作り、御神酒・灯明を神様にお供え	
	14	繭玉飾り（神棚・恵比寿大黒・荒神様・稲荷様・床の間）	繭玉（餅米の粉を丸めて蒸かした団子・キンカン・梅の小枝）	
	15	小正月		当家に嫁いだお嫁さんが実家への里帰り
	20	恵比寿講（恵比寿様・大黒様）	尾頭付き魚（さば）2匹、うどん、つゆ、薬味、一升枡、御神酒、灯明	一升枡に家族のお財布入れ、お金が増えるよう祈る
2	3	節分（豆まき・主屋と物置の戸口にイワシの頭、ひいらぎを飾る）	イワシの頭（虫封じの意味の言葉を唱える、真っ黒に焼く）・竹串・ひいらぎ	当主が準備、立春の前日
	4	立春		
		宵宮さま（初午前日の夜）	字抱く・分家の稲荷様に奉納のぼりをたてる（4本）	自宅の稲荷様2本、分家2軒の稲荷様2本
		初午（稲荷様へお供え）	半紙の上に赤飯、油揚げ、灯明（4箇所の稲荷様）	節分が過ぎて最初の午の日
3	3	ひなまつり（飾付は2月中旬～3月4日）	雛、ちらし寿司、はまぐりの吸い物、白酒、ひし餅、あられ、桃、菜の花	
	18	春の彼岸（入り、墓参り）	朝-ぼたもち又はまんじゅう、昼-うどん、夜-なんでもよし（彼岸供養の塔婆の準備）	
	21	春の彼岸（中日、墓参り）	朝-ぼたもち又はまんじゅう、昼-うどん、夜-なんでもよし（彼岸供養の塔婆を墓地に）	春分の日
	24	春の彼岸（明け、墓参り）	朝-ぼたもち又はまんじゅう、昼-うどん、夜-なんでもよし	
8	7	七夕かざり（6日に飾り付け、7日夜取り外し）	笹、折り紙、すいか、短冊、まんじゅう、灯明、うどん	朝・まんじゅう、昼・うどんを供える
	13	お盆（盆棚かざり、夕方提灯の明かりで仏様をお迎え）	季節の野菜、花、ナスの賽の目、みそはぎ、蓮葉、ほうずき、足洗バケツ、手ぬぐい	灯明、お茶、ご飯をお供え
	14	お盆	朝（まんじゅう・お茶・お新香）、昼（うどん・天ぷら・薬味）、夜（家族と同じ食事・お新香・お茶）	朝、ナスの賽の目を新しくする
	15	お盆	仏様の食事は前日と同じ、夜帰りの乗り物（ナス・キュウリに足を付けた物）、土産だんご	
	16	墓参り（盆棚の取り壊し）	施餓鬼塔婆を持って墓参り	
	24	盂蘭盆	朝まんじゅうを作り仏様にお供え、墓参り	当家に嫁いだお嫁さんが実家への里帰り
9	15	お月見（十五夜）	すすき（5本）、お団子、里芋、くり（柿・みかん）、灯明、御神酒、団子（15個）	
	20	秋の彼岸（入り、墓参り）	朝-おはぎ又はまんじゅう、昼-うどん、夜-なんでもよし（彼岸供養の塔婆の準備）	
	23	秋の彼岸（中日、墓参り）	朝-おはぎ又はまんじゅう、昼-うどん、夜-なんでもよし（彼岸供養の塔婆を墓地に）	秋分の日
	26	秋の彼岸（明けに墓参り）	朝-おはぎ又はまんじゅう、昼-うどん、夜-なんでもよし	
10	13	お月見（十三夜）	すすき（3本）、お団子、里芋、豆腐、くり（柿、みかん）、灯明、御神酒、団子（13個）	
	30	荒神さま出雲へお立ち	団子（36個）、黄色い小菊、灯明、御神酒を供える	火の神、カマドの神を荒神さまと呼ぶ
11	20	恵比寿講	尾頭付き魚（さば）2匹、うどん、つゆ、薬味、一升枡、御神酒、灯明	一升枡に家族のお財布入れ、お金が増えるよう祈る
	31	荒神様出雲よりお帰り	団子（36個）、黄色い小菊、灯明、御神酒を供える	
12		冬至（一年中で一番昼間が短い日）	カボチャ・ゆずを食べる、ゆず湯に入る	無病息災で過ごせるように
		餅つき		暮れの29日は避ける（くんち餅）
		大掃除		
		正月飾り（神棚、恵比寿大黒、荒神様、稲荷様）	門松、しめ縄、へいしん、お札	暮れの31日は避ける（一夜飾り）
	31	鬼玉を仏壇に入れ扉を閉じる	鬼玉（俵形の小さなおにぎり）お皿に12個乗せた物	正月を迎えるにあたり、仏のことは忘れて小正月まで

※ 春の彼岸・・・ぼたもち（ボタンの花に見立てたもの）粒あん
秋の彼岸・・・おはぎ（ハギの花に見立てたもの）こしあん
当家には二つのお稲荷様（駒形稲荷神社・正一稲荷大明神）
年二回の恵比寿講・・・1月：恵比寿様が働きに出かける。11月：恵比寿様が働きから戻る。
秋の彼岸明けから春の彼岸入りの間は神様の行事のみで、春の彼岸明けから秋の彼岸の入りの間は七夕・お月見（十五夜）以外仏様の行事です。

執筆者紹介

中尾 七重（武蔵大学総合研究所）
坂本　稔（国立歴史民俗博物館）
伊郷 吉信（伝統技法研究会）
冨岡　進（和光市文化財保護委員）　※講演記録
鈴木 一郎（和光市教育委員会）
中岡 貴裕（和光市教育委員会）

ISSN 2189-3276

和光市デジタルミュージアム紀要　第1号
発　行　日　　平成27（2015）年3月13日発行
編集・発行　　和光市教育委員会
〒351-0192　埼玉県和光市広沢1-5
TEL　048-464-1111（代表）
和光市デジタルミュージアムれきたまＵＲＬ
http://rekitama-wako.jp

れきたま
QRコード

平成 27 年 3 月 19 日

正誤表

『和光市デジタルミュージアム紀要』第 1 号（平成 27 年 3 月 13 日発行）の本文中に誤りがありましたので、下記のとおり修正いたします。

● 25 頁右段下から 2 行目
（誤）3　まとめにかえて
（正）5．まとめにかえて

● 26 頁左段上から 27 行目
（誤）最後ととなりましたが、
（正）最後となりましたが、

和光市教育委員会
（生涯学習課）